

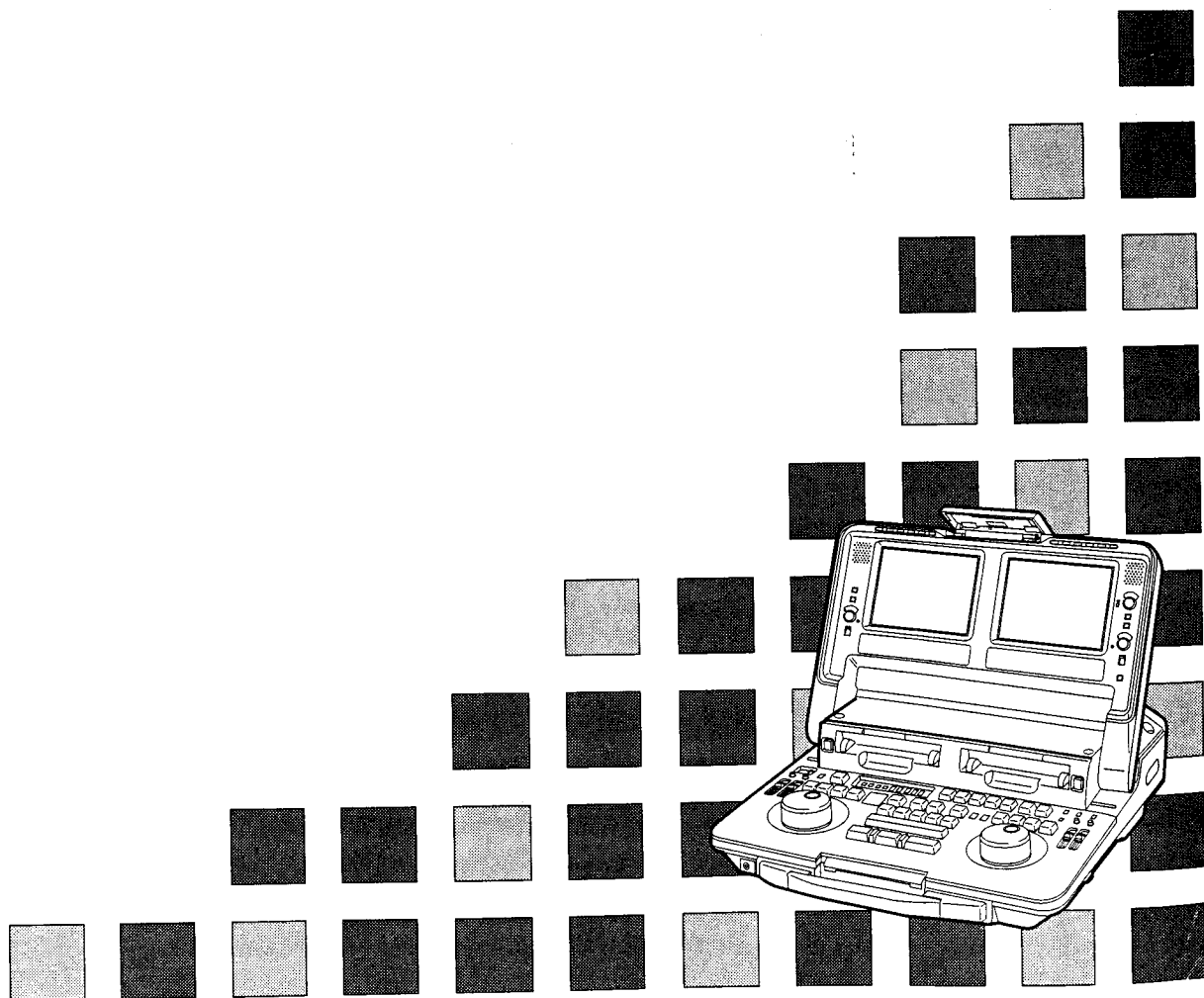
Panasonic

DVCPRO

Lap Top Editor

AJ-LT85

取扱説明書



ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと大切に保管し、わからないときは再読してください。

はじめに

このたびは、AJ-LT85をお買い求めいただき、まことにありがとうございました。

本機は、1/4インチ幅のテープを採用したデジタルVTRです。

2つのデジタルVTRを有するラップトップタイプの編集機で、2つのメカニズム、2つの液晶モニター、および編集操作部を装備し、1ピースのパッケージにおさめました。本機1台でカット編集ができ、小型・軽量、キャリアブルになっていますので持ち運びが容易に行えます。

特長

・小型・軽量

本機は2つのデジタルVTRを有する編集パッケージです。

小型・軽量、キャリアブルで、持ち運びが容易にでき、事務機などで気軽に使用できます。

・カット編集

2つのデジタルVTRによりアッセンブル編集やインサート編集（ビデオ、オーディオ、タイムコードの任意）ができます。これらは自動編集にすることができます。

・送信機能 (TRANSMISSION)

2つのデジタルVTRの再生映像および音声は各々の出力端子から送信できます。編集した番組の送出に最適です。(システム接続図をご参照ください。)

・バックアップ記録 (BACK UP RECORDING)

2つのデジタルVTRはバックアップ記録ができます。任意のVTRを再生し、他方を記録に使うこともできます。(システム接続図をご参照ください。)

・最大184分記録

使用するカセットテープはMカセット（最大66分用）とL（最大184分用）です。テープ幅は1/4インチのコンパクト設計になっています。

・民生互換

民生機器のデジタルカメラで撮影した民生用ミニDVカセットテープはカセットアダプタ（オプション、AJ-CS750P）を使用すると本機で再生ができます。

・液晶モニター

2つのデジタルVTRに対応した液晶モニターTVを有しています。編集作業中など、映像確認が容易にできます。

・音声調整VR

2つのデジタルVTRの各々、2CHの記録および再生の音量調整ができます。レベルメータも液晶モニターの下にあり確認が容易です。また、2つのスピーカーがあり、実際の音声確認が任意の組み合わせでできます。

・機能的な入出力インターフェース

アナログ入出力

それぞれのVTRにビデオおよび音声の入出力端子を装備しています。

9ピンリモート×2

それぞれのVTRに9Pリモート端子を装備していますので、外部コントローラからのリモートコントロールが可能です。

またVTR1側は外部VTRをコントロールするよう切り換えが可能です。本機から、9P装備の他のVTRを編集ソース機としてコントロールすることができ、VTR2側に編集することができます。

タイムコード入出力

タイムコード入力を1系統装備。VTR1、VTR2のタイムコードジェネレータを外部タイムコードに同期させることができます。タイムコード出力はVTR1、VTR2独立で装備しています。

・2CH音声

2チャンネル独立して編集ができるほか、MIX、スワップ等選択することができます。

・ダイヤルジョグ・シャトル

ジョグ操作でスムーズに編集点が検索できます。また、シャトルは正、逆方向に最大32倍速まで可能です。

・エンコーダ装備

2つのVTRの出力映像を調整するエンコーダ部をそれぞれ有しています。送出等に利用できます。

・100のイベント編集

100のプログラムを登録することができます。これらの編集点は内部メモリーにストアすることができます。

・タイムコード

本機はTCG（タイムコードジェネレータ）/TCR（タイムコードリーダー）を内蔵しています。これを利用してタイムコード編集ができます。

・オンスクリーン設定

きめ細かい機能設定をオンスクリーンで行うことができます。

目次



安全上のご注意	4
各部の名称と働き	9
ラップトップの開閉	19
使用するテープ	20
システム接続	21
セットアップ	26
編集操作	40
編集用テープの作成	40
編集操作の基本的な流れ	41
編集モードの種類と図解	42
カット編集	43
オーディオスプリット編集	49
ビデオスプリット編集	50
編集IN点の登録だけで編集を行う	51
静止画編集	51
オートタグ編集を行う	52
トラック機能	53
TCジャンプ機能	53
イベント編集	54
・イベントを登録する	54
・イベントを呼び出す	55
・イベントを訂正、削除する	56
編集データの管理 (EDL)	57
編集データを外部機器に転送する (DUMP)／取り込む (LOAD)	58
オーディオ記録スワップ機能 (VTR2のみ)	61
オーディオメモリーユニットと接続する	62
タイムコード (TC)、ユーザズビット (UB)	63
エンコーダ調整	67
液晶モニターテレビ調整	69
スーパーインポーズ	70
コネクタの信号	72
エラーメッセージ	73
ダイアグメニューの操作	75
ビデオヘッドクリーニング	77
結露	77
定格	78

安全上のご注意




必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。




■表示内容を見逃して誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

	警告	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
	注意	この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
(下記は、絵表示の一例です。)

	このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

警告

<p>■不安定な場所に置かない!</p>  <p>落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。</p> <p>禁止</p>	<p>■電源コード上に重い物を載せない!</p>  <p>本機の下敷にならないよう注意してください。コードが傷ついて、火災・感電を起すおそれがあります。</p> <p>禁止</p>	<p>■コード上に重いものを載せない!</p>  <p>本機の下敷にならないよう注意してください。コードが傷ついて、火災・感電を起すおそれがあります。</p> <p>禁止</p>
--	--	---

安全上のご注意

必ずお守りください

警告

安全上のご注意

<p>■水場に設置しない！</p>  <p>火災・感電の原因となります。</p> <p>水場使用禁止</p>	<p>■付属品・オプションは指定の製品を使用する！</p>  <p>本体に誤って指定外の製品を使用すると、火災や事故を起こす恐れがあります。</p>	<p>■本機を改造しない！</p>  <p>火災・感電の原因となります。</p> <p>分解禁止</p>
<p>■本機の上に水の入った容器、小さな金属物を置かない！</p>  <p>こぼれて、本機内部にはいると、故障や事故を起こすおそれがあります。</p> <p>禁止</p>	<p>■機器の開口部から異物を差し込んだり、落とし込んだりしない！</p>  <p>火災・感電のおそれがあります。</p> <p>禁止</p>	<p>■水場で使用しない！</p>  <p>火災・感電の原因となります。</p> <p>水場使用禁止</p>
<p>■電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない！ 傷つけたり、加工したり、高温部に近づけたり、むりに曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたりしない！</p>  <p>傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因となります。コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。</p> <p>禁止</p>	<p>■機器がぬれたり、水が入らないようにする！</p>  <p>火災・感電のおそれがあります。雨天・降雪・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。</p> <p>禁止</p>	<p>■表示された電源電圧以外は使用しない！</p>  <p>火災・感電のおそれがあります。</p> <p>禁止</p>
	<p>■本機の裏フタ・キャビネット・カバー等はずさない！</p>  <p>感電の原因となります。 ●点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。</p> <p>分解禁止</p>	<p>■指定のカバー以外は外さない！</p>  <p>感電の原因となります。 点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。</p> <p>分解禁止</p>

安全上のご注意

必ずお守りください



警告

■本機を落としたり、破損した場合は、電源スイッチを切り、電源（プラグ）を抜く！



そのまま使用すると火災・感電を起こすおそれがあります。

■本機の内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源（プラグ）を抜く！



そのまま使用すると火災・感電を起こすおそれがあります。

■本機の内部に異物が入った場合は電源スイッチを切り、電源（プラグ）を抜く！



そのまま使用すると火災・感電を起こすおそれがあります。

■煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常状態の場合は電源スイッチを切り、電源（プラグ）を抜く！



火災・感電の原因となります。
お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

■電源コードが傷んだ場合は、交換を依頼する！



そのまま使用すると火災・感電を起こすおそれがあります。
●お買い上げの販売店にご相談ください。



注意

■電源コードを熱器具に近づけない！



禁止

コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

■油煙や湯気が当たる場所に置かない！



禁止

火災・感電の原因となることがあります。

■湿気やほこりの多い場所に置かない！



禁止

火災・感電の原因となることがあります。

安全上のご注意

必ずお守りください

⚠ 注意

安全上のご注意

<p>■ぬれた手でコネクタを抜き差ししない！</p> <p> 感電の原因となることがあります。</p> <p>禁止</p>	<p>■コネクタを抜くときは、コードを引っ張らない！</p> <p> コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。</p> <p>禁止</p>	<p>■コードやショルダーベルトを下にたらしさない！</p> <p> ふれたり、引っかかりたりすると、落ちてけがをするおそれがあります。</p> <p>禁止</p>
<p>■カセットテープの挿入口に手をはさまれないよう注意する！</p> <p> 手をはさまれけがの原因となります。</p> <p>指に注意</p>	<p>■本機の上に重いものを置かない！</p> <p> バランスがくずれて、落下して、けがの原因となります。</p> <p>禁止</p>	<p>■本機の通風口をふさがない！</p> <p> 通風口をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。次のような使い方はしないでください。</p> <ul style="list-style-type: none">●本機を風通しの悪いところに押し込む。●テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや布団の上に置く。 <p>禁止</p>
<p>■雷が鳴り始めたら使うのをやめる！</p> <p> 落雷すると、感電死につながります。</p> <p>接触禁止</p>	<p>■運転中、運転者は操作や鑑賞をしない！</p> <p> 操作・鑑賞をする場合、必ず車を停止させて行ってください。</p> <p>禁止</p>	
<p>■持ち上げや移動には十分注意する！</p> <p> 落としたりすると、けがの原因となります。10kg以上の機器は、2人以上で持ち上げる等慎重に取り扱ってください。</p> <p>禁止</p>	<p>■移動させる場合は、電源スイッチを切り、プラグを抜き、外部の接続コードをはずす！</p> <p> コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。</p>	<p>■専用ACアダプタ以外は使用しない！</p> <p> 定格外のACアダプタを使用すると、火災の原因となることがあります。</p> <p>禁止</p>

安全上のご注意

必ずお守りください

注意

■使用時に安定した場所と
十分な体勢を確保する！



けがや死亡につなが
ります。

■本機に乗らない！



倒れたり、壊れたり
してけがの原因にな
ります。

禁 止

■お手入れの際は安全のため、電源スイッチを切り
電源（プラグ）を抜く！



火災・感電の原因と
なることがあります。

■1年に1度くらいは、
販売店に内部の掃除の
相談を！



本機の内部にほこり
がたまったら、使
用し続けると、火災・
故障の原因となるこ
とがあります。

■本機を立てて置く場合は、
倒れないよう注意する！



倒れたり、壊われた
りしてけがの原因に
なります。

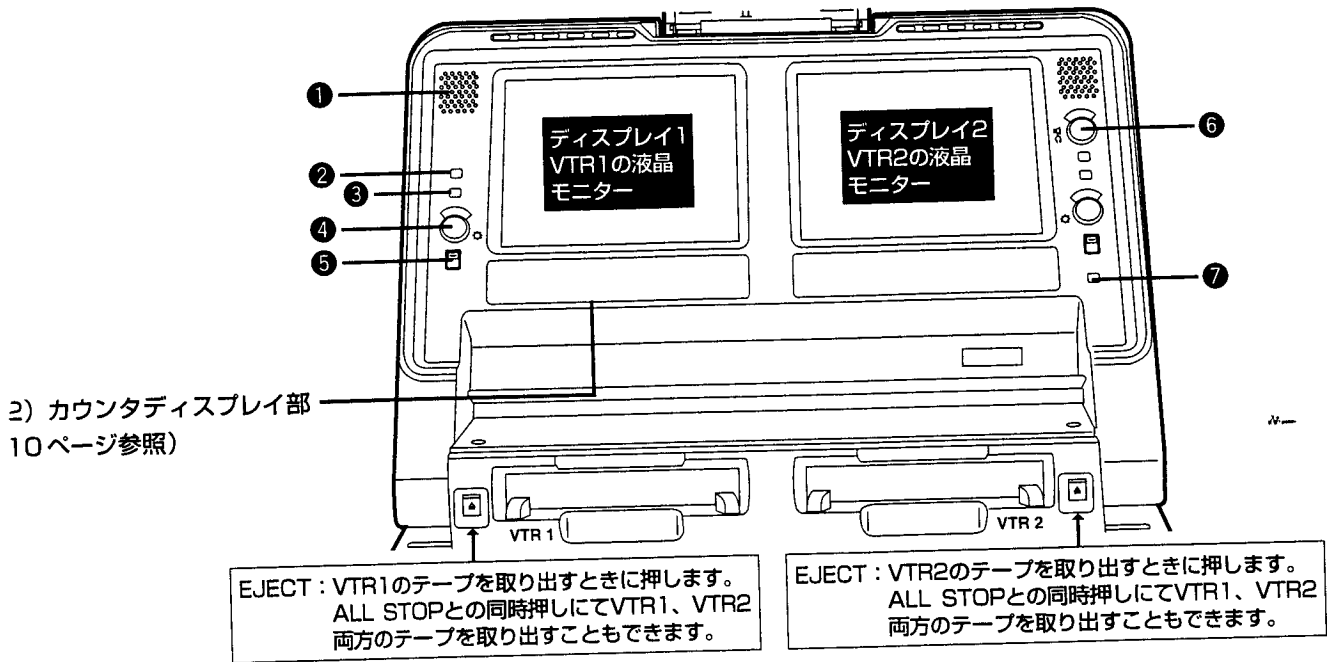
■本機を高温になる
自動車内等に放置しない！



故障の原因と
なることがあります。

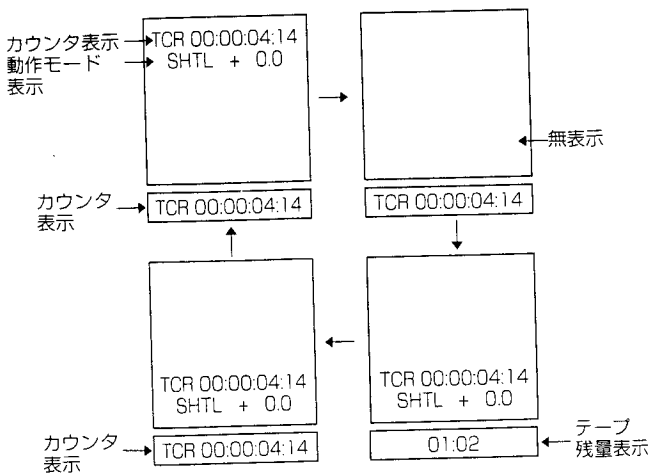
禁 止

各部の名称と働き



(1) 液晶モニター部

- ① オーディオモニタースピーカ
VTR1、VTR2のモニタ音ーがでます。
SPEAKER/HEADPHONES スイッチの選択位
置によって、VTR1、VTR2の音声が選択され、
出力します。
- ② COUNTER/REMAIN ボタン
VTR1側の表示管の内容切換えボタンです。
カウンタとテープの残量切換えと、OSD (ON-
SCREEN DISPLAY) 表示の位置切換えを行いま
す。(上、下、OFF)
ボタンを押すたびに表示は以下のように切換わり
ます。

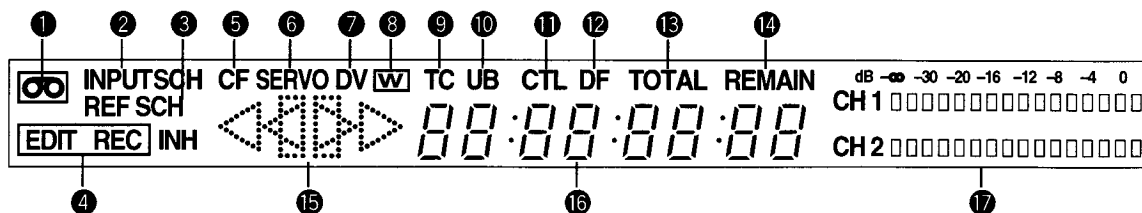


- ③ EXT CHECK ボタン
ボタンを押している間、VTR1の外部入力の確認
ができます。また、ディスプレイ部のレベルメー
タはファインモードになります。
- ④ BRIGHTNESS つまみ
VTR1側の液晶ディスプレイの明るさを調整しま
す。
- ⑤ LCD スイッチ
VTR1側のLCDの電源およびバックライトの明
るさを切換ええます。
LIGHT : 明るく
DARK : 暗く
OFF : LCDを消す
- ⑥ LEVEL つまみ
内蔵スピーカとヘッドホンの出力レベルを調整し
ます。
- ⑦ TOTAL ボタン (VTR2のみ)
ボタンを押している間、表示管のカウンタに編集
開始点から現在の編集プログラムまでのトータル
の編集時間を表示します。

VTR2のディスプレイの説明はVTR1の説明と同じ
です。

※LCDモニターには、セットアップメニュー項
目番号001 (LCD SUPER) がONのときの
上記のように表示します。

各部の名称と働き



(2) カウンタディスプレイ部

① カセットイン表示

カセットが入っている時、点灯します。
STANDBY OFF モード時、点滅します。

② INPUT SCH ランプ

ビデオ信号が外部から入力され、SCH が合っているとき、点灯します。
・SCH 信号が入力され、SCH が合っていないときは、INPUT だけ点灯します。

③ REF SCH ランプ

REF IN 端子にリファレンス信号が入力され、SCH が合っているとき、点灯します。
・REF IN 端子にリファレンス信号が入力され、SCH が合っていないときは、REF だけ点灯します。

④ EDIT REC/REC/REC INH ランプ

EDIT REC: VTR が編集記録状態のとき、点灯します。
REC: VTR が記録状態のとき、点灯します。
REC INH: VTR が記録禁止状態のとき、点灯します。

⑤ CF ランプ

カラーフレームがロックしたとき、点灯します。

⑥ SERVO ランプ

サーボロックした時、点灯します

⑦ DV ランプ

民生用DVの機器で記録されたカセットが挿入されている時、点灯します。

⑧ W ランプ

16:9のワイド画面モードの時、点灯します。

⑨ TC ランプ

タイムコードデータ表示時、点灯します。

⑩ UB ランプ

ユーザズビット表示時、点灯します。

⑪ CTL ランプ

コントロール信号 (CTL) 表示時、点灯します。

⑫ DF ランプ

ドロップフレーム時、点灯します。

⑬ TOTAL ランプ

編集のトータル時間を表示している時、点灯します。

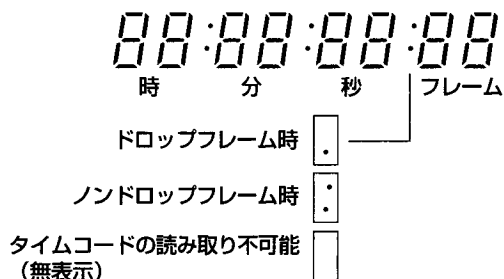
⑭ REMAIN ランプ

テープ残量表示時、点灯します。

⑮ 動作モード

- ▶ : 通常再生・記録時
- ▶▶ : 0から1倍速再生時
- ▶▶▶ : 1倍速再生以上の再生時
- ▶▶▶▶ : FF動作時
- ◀ : -1倍速再生時
- ◀◀ : -1から0倍速逆再生時
- ◀◀◀ : -1倍速以上の逆再生時
- ◀◀◀◀ : REW動作時
- ⏸ : PAUSE/STILL時

⑯ タイムカウンタ表示



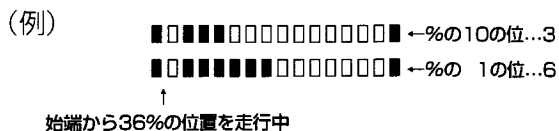
ユーザズビット表示時は、コロンは全て消えます。

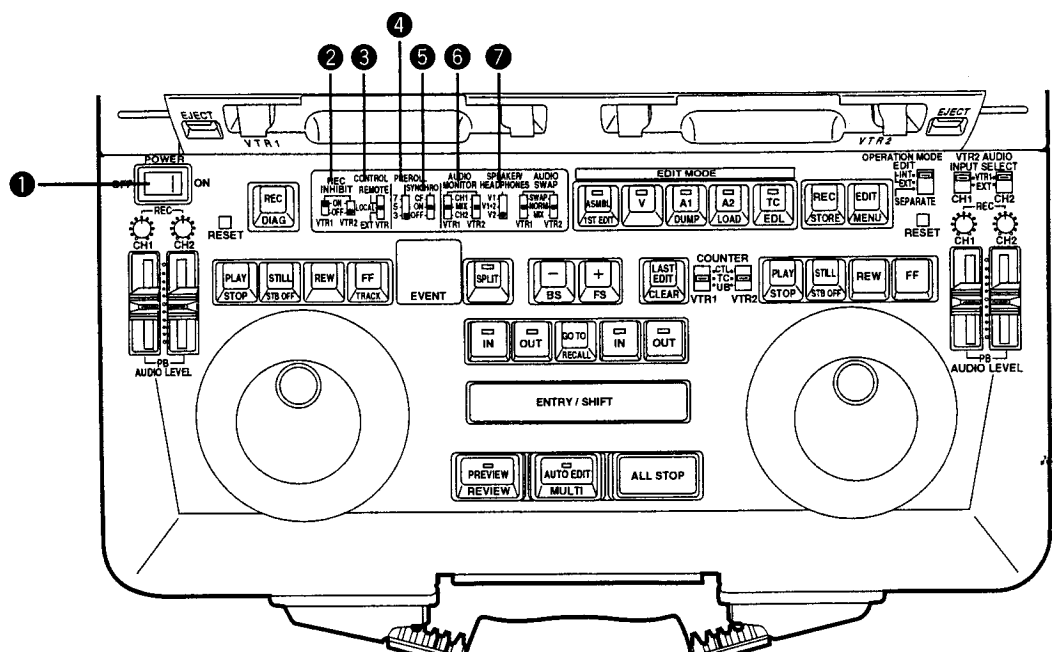
⑰ オーディオレベルメータ

・EXT CHECK ボタンを押すとメータがファインモードとなり、▼マークを基準レベル (-20dB) にして、1目盛が1dB間隔になります。外部から基準レベルの音声を入力してRECレベルを調整できます。



・無記録テープまたはテープの無記録部分を再生、FF、REW等すると、メータがテープ位置表示モードとなり、現在のテープ走行位置がわかります。





(3) フロントキーボードスイッチ

① POWER スイッチ

② REC INHIBIT スイッチ

ON: 記録を禁止します。

OFF: 記録ができます。

VTR1 は OPERATION MODE スイッチが「SEPARATE」の時のみ記録できます。

③ CONTROL スイッチ

REMOTE: 外部 REMOTE 端子 (9P) から本機をコントロールするとき。

LOCAL: 本機のフロントパネルから本機をコントロールするとき。

EXT VTR: 本機のフロントパネルから外部 VTR をコントロールするとき。

VTR1 側の 9P 端子に接続した VTR を、VTR1 側の操作系によりコントロールできます。

④ PREROLL スイッチ

プリロール時間を設定します。3 秒、5 秒、7 秒に設定できます。

調相できなかったときは、1 ランクプリロール時間が長くなります。7 秒設定のときは、調相を失敗しても 7 秒のままです。

⑤ SYNCHRO スイッチ

調相およびカラーフレーミングを行うかどうかを設定します。

CF: 調相し、カラーフレーミングを行います。

ON: 調相しますが、カラーフレーミングは行いません。

OFF: 調相しません。

⑥ AUDIO MONITOR スイッチ (VTR1、VTR2 とも)

CH1: CH1 のオーディオを出力します。

MIX: CH1 と CH2 のミックスオーディオを出力します。

CH2: CH2 のオーディオを出力します。

⑦ SPEAKER/HEADPHONES スイッチ

スピーカおよびヘッドホンの音声出力の設定を行います。

V1: VTR1 の AUDIO MONITOR SW で選択された音声が出力されます。(MIX 時はステレオ)

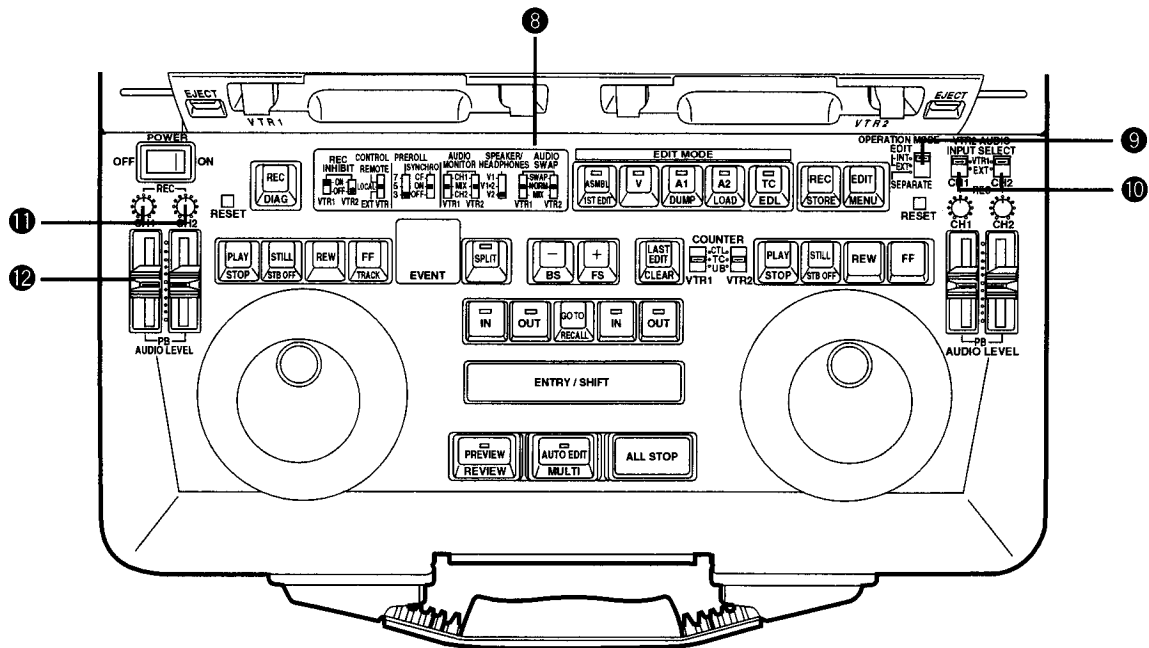
V1・V2: VTR1、VTR2 の AUDIO MONITOR SW で選択された音声が出力されます。
左: VTR1 側の出力
右: VTR2 側の出力

V2: VTR2 の AUDIO MONITOR SW で選択された音声が出力されます。(MIX 時はステレオ)

・セットアップメニュー項目番号 711 (AUTO MONI) が「V1 + V2」のときのみ有効です。セットアップメニュー項目番号 711 (AUTO MONI) が「AUTO」のときはスイッチの位置にかかわらず最後の操作した VTR の音声自動的に出力されます。

・V1・V2 を選択し、VTR1 → VTR2 へ編集、ダビング等行うとエコーがかかったような音になることがありますが異常ではありません。聞きづらい場合は、V1 または V2 を選択するか、上記メニューの AUDIO MONI を「AUTO」に設定してください。

各部の名称と働き



- ⑧ AUDIO SWAP スイッチ (VTR1、VTR2 とも)
オーディオ出力を設定します。
(VTR1 から VTR2 の内部接続時有効)

	CH1 出力端子	CH2 出力端子
SWAP	CH2 の音声	CH1 の音声
NORM	CH1 の音声	CH2 の音声
MIX	CH1、CH2 ミックス	CH1、CH2 ミックス

- ・ SWAP、NORM、MIX の音声は AUDIO MON OUT 端子および HEADPHONES 端子には出力されません。
- ・ 内蔵スピーカ、ヘッドホンの出力は変わりません。

- ⑨ OPERATION MODE スイッチ

- INT: VTR1 から VTR2 へ内部接続で編集を行うモードです。VTR1 は記録禁止モードになります。
- EXT: VTR1 から VTR2 へ外部アナログ接続で編集を行うモードです。VTR1 は記録禁止モードになります。
- SEPARATE: VTR1 と VTR2 を独立して動作させるモードです。

- ⑩ VTR2 AUDIO INPUT SELECT スイッチ

- VTR2 のオーディオ CH1 と CH2 の入力を選択します。
- VTR1: VTR1 のオーディオ出力を VTR2 に入力します。
- EXT: VTR2 の外部オーディオ入力を VTR2 に入力します。

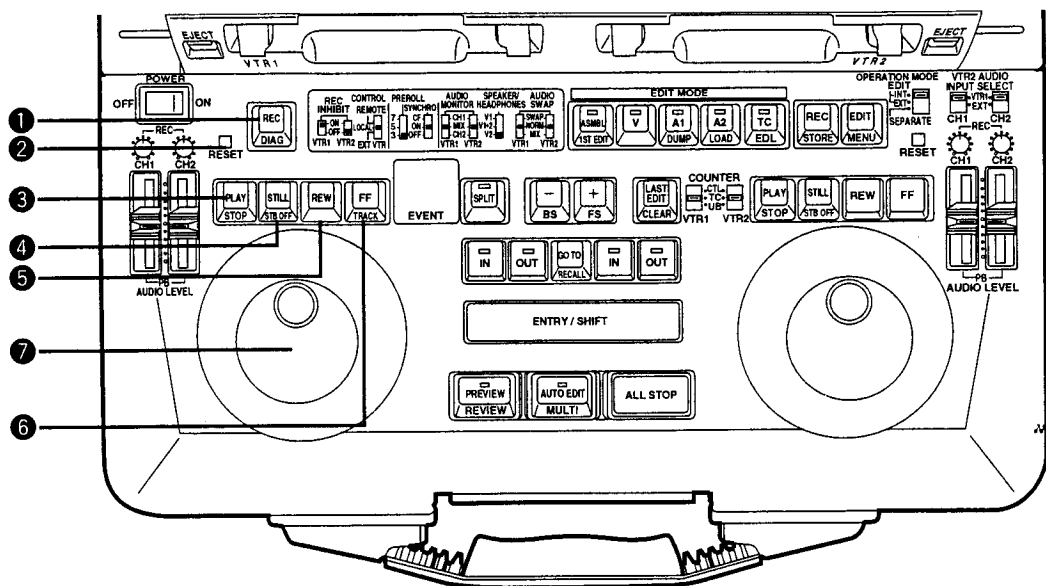
ボリューム

- ⑪ REC AUDIO LEVEL (VTR1、VTR2 とも)
CH1: CH1 の記録レベルを調整します。
CH2: CH2 の記録レベルを調整します。
- ⑫ PB AUDIO LEVEL (VTR1、VTR2 とも)
CH1: CH1 の再生レベルを調整します。
CH2: CH2 の再生レベルを調整します。

<ノート>

VTR1 側を INT モードで編集するときは、PB VIDEO OUT 端子または MONITOR OUT 端子からの出力信号に V ダンシングがおこる場合がありますが編集は問題ありません。

アコフ → 101 へ
か替は可能



(4) プレーヤ/レコーダ操作部

① REC ボタン (レコーダ操作部のみ)

手動で記録モードにすると、このボタンとPLAYボタンを同時に押します。VTR1はOPERATION MODEスイッチが「SEPARATE」のときのみ記録できます。

DIAG (SHIFT+DIAG): DIAGメニュー表示を行うとき、このボタンを押します。

② RESET ボタン

- ・ VTR1の表示部のCTLカウンタをリセットします。また編集点をリセットします。
- ・ INまたはOUTボタンと同時に押すと登録されたIN点またはOUT点を削除します。

(5) VTR操作部 (VTR1、VTR2とも)

③ PLAY (STOP) ボタン

PLAY: 再生モードにすると、このボタンを押します。

STOP (SHIFT+PLAY): STOPモードにするときに押します。

④ STILL (STB OFF) ボタン

STILL: 静止画にするときに押します。

STB OFF (SHIFT+STILL): 静止状態または停止状態でスタンバイモードを解除するときに押します。

⑤ REW ボタン*

テープを巻き戻すときに押します。

ALL STOPと同時に押して、VTR1、VTR2両方を同時に巻き戻すこともできます。

⑥ FF (TRACK: VTR1のみ) ボタン*

FF: テープを早送りするときに押します。

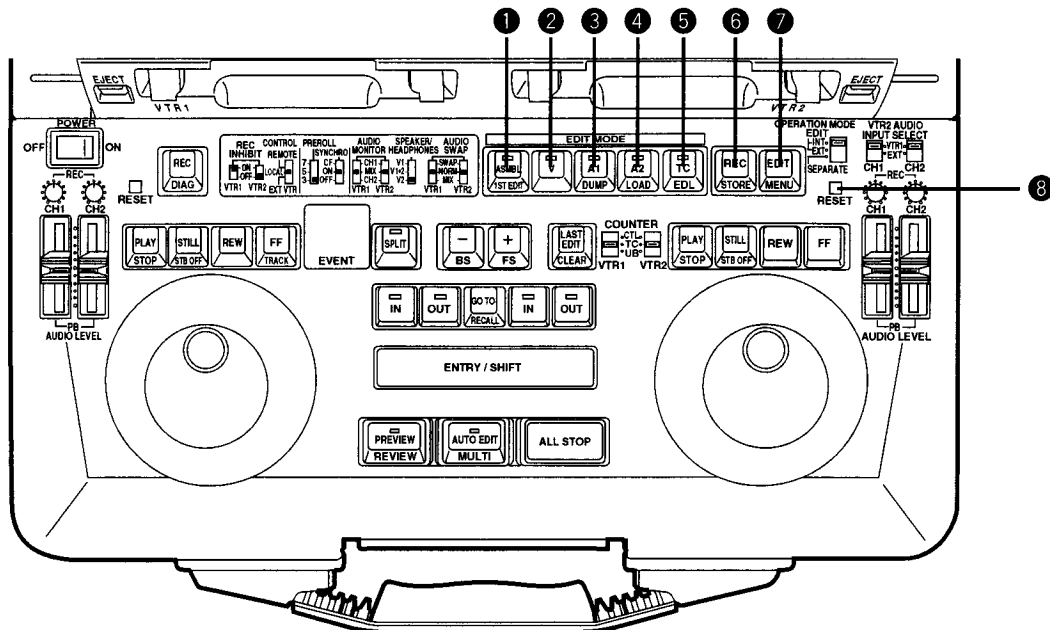
TRACK (SHIFT+FF、VTR1のみ): TRACKモードにするときに押します。「トラック機能」参照。

⑦ サーチダイヤルボタン

テープ走行をコントロールします。編集点を探するときや再生時に使用します。ダイヤルが上がっている状態ではシャトルモード、押し込むとジョグモードになります。ダイヤルを押すたびに2つのモードが切り替わります。

* REWとFFを同時に押すと、テープ走行は停止します。

各部の名称と働き



(6) 編集モード設定部

① ASMBL ボタン

アッセンブル編集を行うときに押します。LEDの点灯を確認してください。

1ST EDIT (SHIFT+ASMBL): VTR2は1ST EDITプリセット値を、登録された位置を-23秒に自動的にセットします。詳しくはセットアップメニューNo.312 (1ST EDIT DUR) を参照してください。

② V ボタン

ビデオインサートするときに押します。LEDの点灯を確認してください。

③ A1 ボタン

オーディオCH1をインサートするときに押します。LEDの点灯を確認してください。

DUMP (SHIFT+A1): EDLデータを外部機器(パソコン等)にダウンロードするときに押します。

④ A2 ボタン

オーディオCH2をインサートするときに押します。LEDの点灯を確認してください。

LOAD (SHIFT+A2): EDLデータを外部機器(パソコン等)からアップロードするときに押します。

⑤ TC ボタン

タイムコードのインサートをするときに押します。LEDの点灯を確認してください。

EDL (SHIFT+TC): 編集リストをLCD画面上に表示するときに押します。

⑥ REC (STORE) ボタン

REC: 手動で記録モードにするとき、このボタンとPLAYボタンを同時に押します。

REC INHIBITスイッチがOFFのときRECボタンを押すと、押している間VTR2のビデオ、オーディオCH1、CH2ともE-Eモードになります。

STORE (SHIFT+REC): VTR1(再生)、VTR2(記録)の編集点を設定し、編集データを内部メモリーに記憶する場合に、このボタンを押します。同時にEVENTのカウンタがインクリメントされます。セットアップ操作時は、設定されたデータをセットアップメモリーに書き込みます。

⑦ EDIT (MENU) ボタン

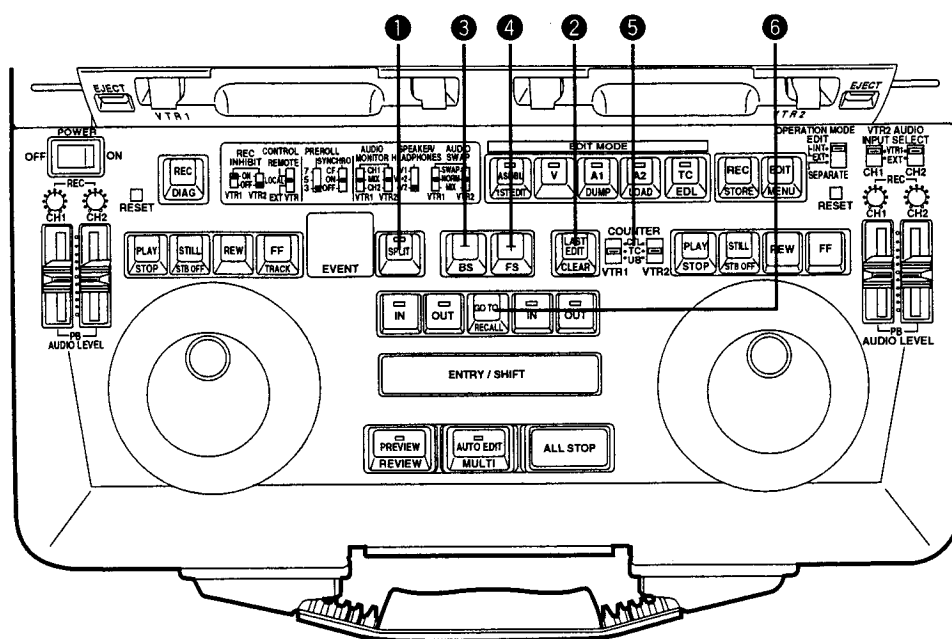
EDIT: 編集モードに従ったE-Eモードに入るときに押します。押している間、VTR2のビデオ、オーディオ入力が編集モードに従って、記録されずに出力されます。記録するときは、VTR2の再生状態で、VTR2操作部のPLAYボタンと同時に押します。

MENU (SHIFT+EDIT): ダイアルメニューセットアップ時にこのボタンを押します。

⑧ RESET ボタン

- ・ VTR2の表示部のCTLカウンタをリセットします。

- ・ INまたはOUTボタンと同時に押すと登録されたIN点またはOUT点を削除します。



(7) 自動編集操作部

① SPLIT ボタン

スプリット編集をするとき、押して点灯させてから、スプリットさせる編集IN点を設定します。セットアップメニューNo.311 (SPLIT EDIT) を参照してください。

② LAST EDIT (CLEAR) ボタン

LAST EDIT: 以前にプレビューした内容呼び出します。(プレビュー動作を完了した2つの内容を交互に呼び出します。)

CLEAR (SHIFT+LAST EDIT): 登録されているイベントを削除します。EDLは「d」表示になります。

③ - (BS): トリム-ボタン

-: 入力したIN点、OUT点を1フレーム戻したい場合、INボタンやOUTボタンを押しながら、このボタンを押します。この機能を連続して使用したい場合、上記のボタンを押し続けます。IN点、OUT点を同時に1フレーム戻して編集するときにはINボタンとOUTボタンを同時に押しながらこのボタンを押します。

BS (SHIFT+ -): 一つ前のエディットを呼び出します。この機能を連続して実行する場合押し続けます。

④ + (FS): トリム+ボタン

+: 入力したIN点、OUT点を1フレーム進めたい場合、INボタンやOUTボタンを押しながら、このボタンを押します。この機能を連続して使用したい場合、ボタンを押し続けます。IN点、OUT点を同時に1フレーム進めて編集するときにはINボタンとOUTボタンを同時に押しながらこのボタンを押します。

FS (SHIFT+ +): 一つ前のイベントを呼び出します。この機能を連続して実行する場合押し続けます。

⑤ COUNTER スイッチ

VTR1、VTR2のカウンタ基準の切替を行います。**CTL:** リセット後のCTLパルスのカウンタをカウンタ表示部に表示します。RESETボタンでリセットをします。

TC: 読み出したタイムコードを表示します。(絶対値) RESETボタンを押してもリセットされません。

UB: 読み出したタイムコードのユーザーズビットを表示します。

⑥ GO TO/RECALL ボタン

GO TO: IN点、OUT点の画像を確認するとき、このボタンを押しながらINまたはOUTボタンを押します。

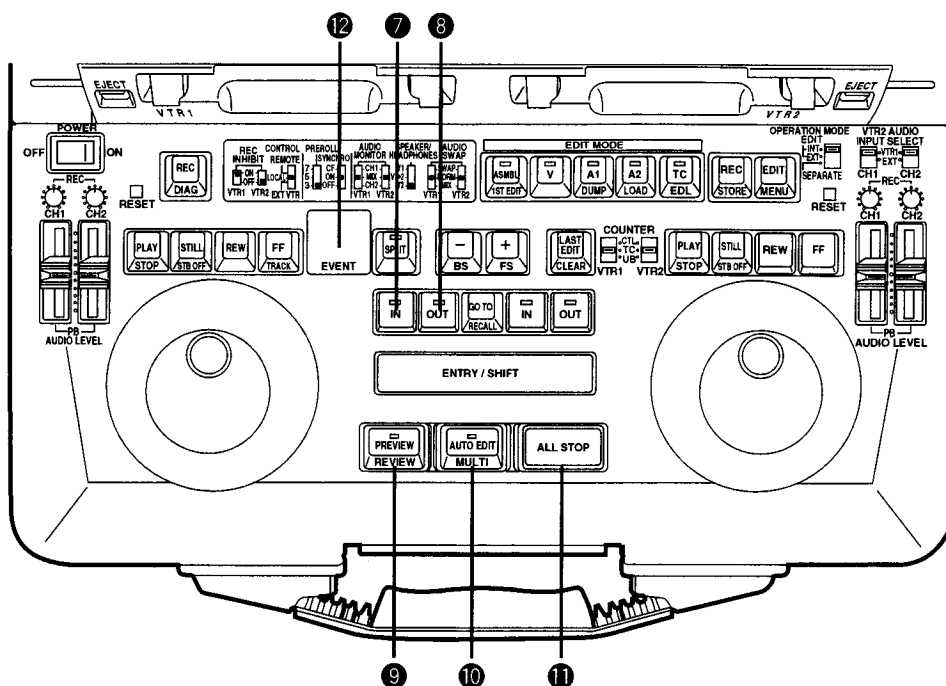
オーディオスプリット編集モード時は、INボタンと押し出すと、オーディオIN点を頭出しします。

RECALL (SHIFT + GO TO): EDLモードで削除したイベントを再登録します。

表示は「d」から「無表示」にかわります。

OPERATION MODEスイッチを「SEPARATE」にしている時はこのボタンは動作しません。

各部の名称と働き



⑦ IN ボタン (VTR1、VTR2 とも)

プレーヤまたはレコーダのIN点を登録するとき、ENTRY ボタンを押しながらこのボタンを押します。
IN点を確認するときは、このボタンを押します。押し続けている間、カウンタ部にIN点を表示します。編集のデュレーションを表示するときは、OUT ボタンと同時に押します。「--:--:--:--」表示のときはIN、OUT点は登録されていません。

⑧ OUT ボタン (VTR1、VTR2 とも)

プレーヤまたはレコーダのOUT点を登録するとき、ENTRY ボタンを押しながらこのボタンを押します。OUT点を確認するときは、このボタンを押します。押し続けている間、カウンタ部にOUT点を表示します。

⑨ PREVIEW/REVIEW ボタン

PREVIEW: 編集のリハーサルをするとき、押し点灯させます。
REVIEW (SHIFT+PREVIEW): 編集した区間を見直すとき、押し点滅させます。

⑩ AUTO EDIT/MULTI ボタン

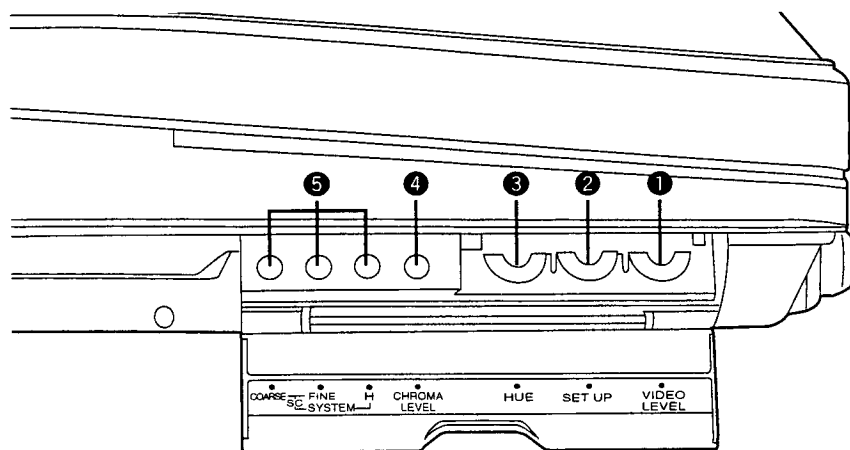
AUTO EDIT: 自動編集を開始するとき、押し点灯させます。
MULTI (SHIFT + MULTI): EDLモードで現在(カレント)の編集から続けて2イベント以上編集を実行するとき押しします。最後のイベントの編集が終了するか、ALL STOP ボタンを押して強制終了するまで自動実行します。

⑪ ALL STOP ボタン

プレビュー、自動編集、レビュー中に押し、実行を中止します。
ただし、OPERATION MODE スイッチを「SEPARATE」にしている時はVTR2のみ停止します。
CLEAR (SHIFT+LAST EDIT) ボタンと同時に押しすると、EDL内の全てのイベントが削除され、イベント番号が「n01」になります。

⑫ イベント番号表示

本機内部で100個(01から99、00)までの編集データを管理します。
2桁のイベント番号が表示されます。編集の状態により、イベント番号の前に「n」または「d」が表示されます。
n: EDLに登録されていない新しいイベント
d: EDLから削除されたイベント
無表示: EDLに登録されているイベント
FULL: 100イベント全てに登録された場合
---: リモートまたはOPERATION MODE スイッチを「SEPARATE」にしている時
rSt: 電源が立ち上がった時、またはリセット処理を行った場合



(8) 側面部 (VTR1 と VTR2 とも)

内部接続される信号は調整できません。

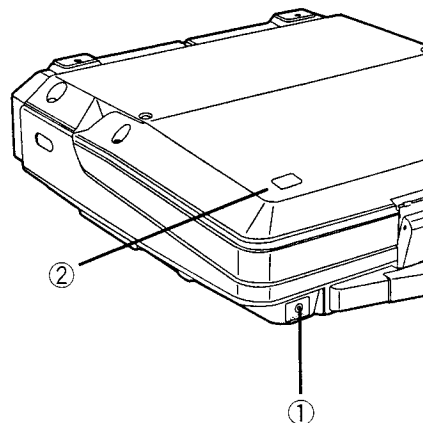
- ① VIDEO LEVEL つまみ
VTR のビデオ出力のビデオレベルを調整します。
- ② SET UP つまみ
VTR のビデオ出力信号のセットアップレベルを調整します。
- ③ HUE つまみ
VTR のビデオ出力信号のヒューを調整します。
- ④ CHROMA LEVEL つまみ
VTR のビデオ出力信号のクロマレベルを調整します。
- ⑤ SYSTEM つまみ
H: システムの位相調整：SC 周期単位で調整します。
SC FINE: SCH 位相調整：SC 位相の変化 (H 位相は変化しません。)
SC COARSE: SCH 位相調整：90° 単位 (H 位相は変化しません。)

(9) 前面部

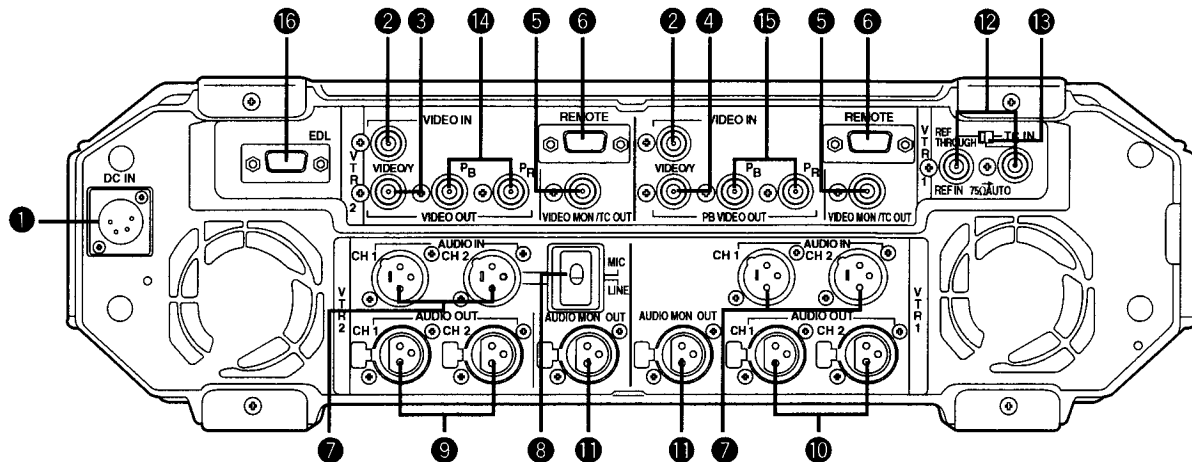
- ① ヘッドホン端子 (M3 ステレオ)
・ヘッドホンを挿入すると内蔵スピーカの音声は出力されません。
・液晶モニター部の LEVEL つまみでヘッドホンの出力レベルを調整してください。

(10) 天面部

- ② VTR 動作表示 LED
ディスプレイ部を閉じた状態でも VTR の動作状態を確認することができます。
消灯: POWER OFF
点灯: POWER ON、テープ停止状態のとき
点滅 (約 1 秒周期): 1 台の VTR がテープ走行中のとき
点滅 (約 0.5 秒周期): 2 台の VTR とともにテープ走行中のとき
点滅 (約 0.25 秒周期): AUTO OFF のとき



各部の名称と働き

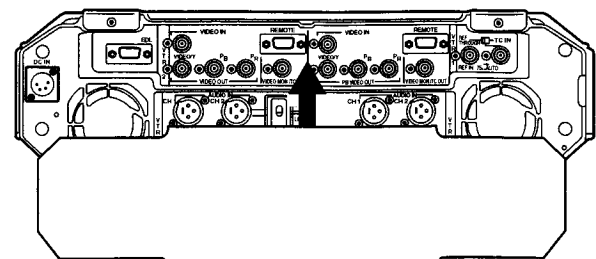


コネクタ部 (VTR1 と VTR2 とも)

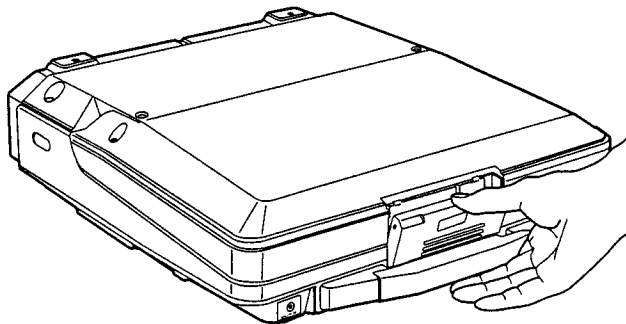
- ① DC IN 端子 (XLR 4ピン)**
 DC電源の入力端子です。
 電源は、必ず別売品 AJ-B75 をお使いください。
 それ以外の電源のご使用は保証できません。
- ② VIDEO IN 端子 (BNC)**
 アナログコンポジット信号の入力端子です。
- ③ VIDEO/Y OUT 端子 (BNC) (VTR2 のみ)**
 アナログコンポジット信号を出力します。
 セットアップメニュー No.806 (V OUT SEL) が「CMPNT」のときは、Y (輝度) 信号を出力します。
- ④ PB VIDEO/Y OUT 端子 (BNC) (VTR1 のみ)**
 再生時のみアナログコンポジット信号を出力します。(E-E 信号は出力されません。)
 セットアップメニュー No.806 (V OUT SEL) が「CMPNT」のときは、再生時のみ Y (輝度) 信号を出力します。(E-E 信号は出力されません。)
- ⑤ VIDEO MON OUT / TC OUT 端子 (BNC)**
 ビデオモニター信号を出力します。
 セットアップメニュー No.513 (TC OUT) が「TCOUT1」または「TCOUT2」のときは、タイムコード信号を出力します。
- ⑥ REMOTE 端子 (D-SUB、9P、FEMALE)**
 RS-422A インターフェースのリモート端子です。外部コントローラから本機をコントロールできます。
 また VTR1 側のリモート端子は、キーボード上の CONTROL スイッチを「EXT VTR」にすることにより、REMOTE OUT 端子に切りかわり、本機 VTR1 側操作系より外部 VTR をコントロールすることができます。
- ⑦ AUDIO IN 端子 (CH1/CH2) (XLR × 2)**
 アナログオーディオ信号を入力します。
- ⑧ CH2 INPUT レベルスイッチ**
 アナログオーディオ入力信号 CH2 のレベル切換えを行います。
 LINE : ライン入力 (+4/0/-20 dBu)
 MIC : MIC 入力 (-50 dBu)
- ⑨ AUDIO OUT 端子 (XLR × 2) (CH1/CH2) (VTR2 のみ)**
 アナログオーディオ信号を出力します。
- ⑩ PB AUDIO OUT 端子 (XLR × 2) (CH1/CH2) (VTR1 のみ)**
 再生時のみアナログオーディオ信号を出力します。(E-E 信号は出力されません。)
- ⑪ AUDIO MON OUT 端子 (XLR)**
 オーディオモニター信号を出力します。
- ⑫ REF VIDEO IN / TC IN 端子 (BNC × 2)**
 アナログコンポジット信号を入力します。
 ループスルータイプで、75Ω 終端 (自動) 付きです。
 また REF THRU / TC IN 切替スイッチ ⑬ を「TC IN」に設定したとき、右側の端子は TC 入力端子になります。そのとき左側の端子は REF 入力端子ですが、ループスルー機能はなくなり、75Ω 終端は ON 固定になります。
- ⑬ REF THRU / TC IN 切替スイッチ**
 REF VIDEO IN / TC IN 端子 ⑫ の右側の端子を REF ループスルー端子として使用するか、TC 入力端子として使用するかを切替えます。
 ・ REF THRU : REF ループスルー端子として使用します。75Ω 終端は自動です。
 ・ TC IN : タイムコード入力端子として使用します。REF VIDEO IN 端子 ⑫ の左側の端子は、REF 入力のままですが、ループスルー機能はなくなり、75Ω 終端は ON 固定になります。
- ⑭ VIDEO OUT 端子 (P_B OUT / P_R OUT) (BNC)**
 アナログコンポーネント信号の P_B、P_R 信号を出力します。
- ⑮ PB VIDEO OUT 端子 (P_B OUT / P_R OUT) (BNC)**
 再生時のみ、アナログコンポーネント信号の P_B、P_R 信号を出力します。
- ⑯ EDL 端子 (D-SUB、9P、MALE)**
 編集リストデータのダウンロード、アップロードを行うときパソコン等を接続します。
 また、別売のオーディオメモリユニットを接続するときにも使用します。

本機を持ち運びするときは、必ずコネクタカバーを取り付けて持ち運びしてください。

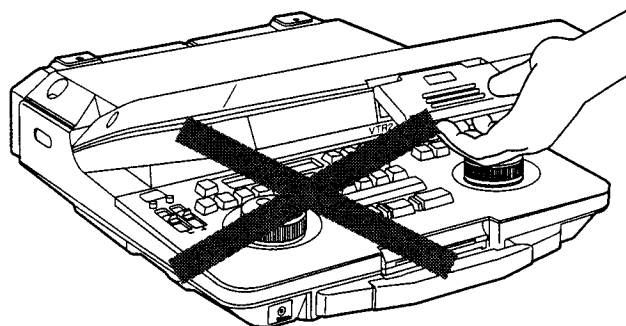
コネクタカバーを装着した状態で本機の電源を入れないでください。



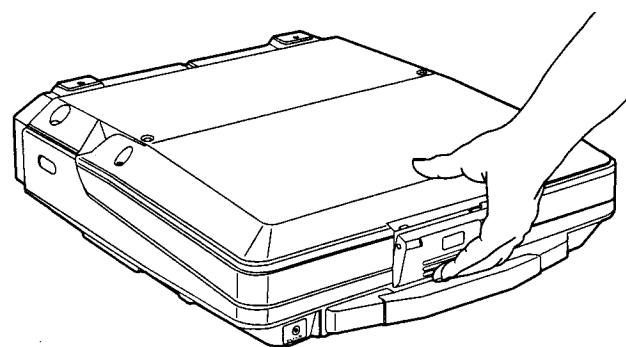
ラップトップの開閉



レバーを引いてロックを解除します。

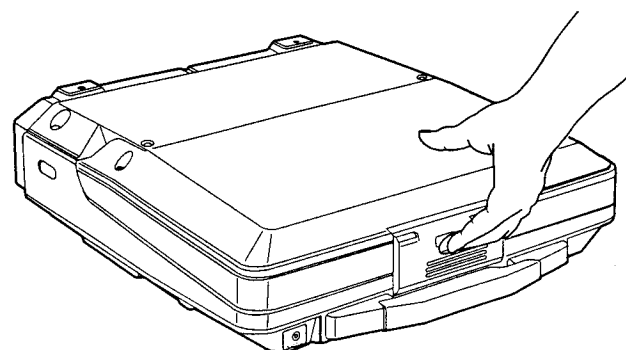


レバーを持ってフタを開けないでください！



レバーの下の方を押しながら、左図のように閉めます。

- 1 レバーの下方を押します。
- 2 レバーを押し上げます。

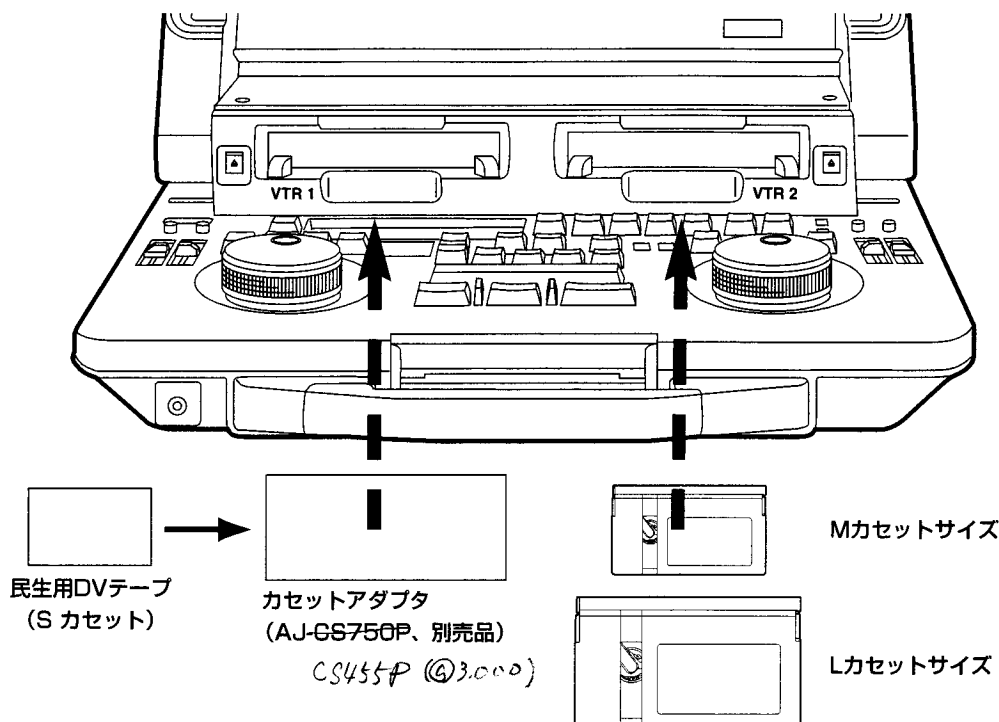


<ノート>

1. フタの開閉時、指をはさまないように注意してください。
2. 本機はふとんやジュータンの上でご使用にならないよう、注意してください。

使用するテープ

挿入口のセンターにカセットをあわせ、軽く押ししてください。カセットテープは自動的にローディングされます。



タイプ	内容
民生用 DV カセット (Sカセット)	カセット民生用カメラレコーダ専用テープです。 カセットアダプタ AJ-CS750P (別売品) を使用すれば、再生のみできます。ただし、長時間用カセットテープ (標準モード 80 分/LP モード 120 分) は使用できませんのでご注意ください。 なお、テープはパナソニックの民生用 DV テープのご使用をお勧めいたします。 「カセットアダプタを使用せずにカセットテープを挿入しますと故障の原因となりますのでご注意ください。」
Mカセット	最大 66 分の記録・再生テープ (AJ-P12MP、AJ-P24MP、AJ-P33MP、AJ-P46MP、AJ-P66MP)
Lカセット	最大 184 分の記録・再生テープ (AJ-P34LP、AJ-P66LP、AJ-P94LP、AJ-P126LP、AJ-P184LP)

<ノート>

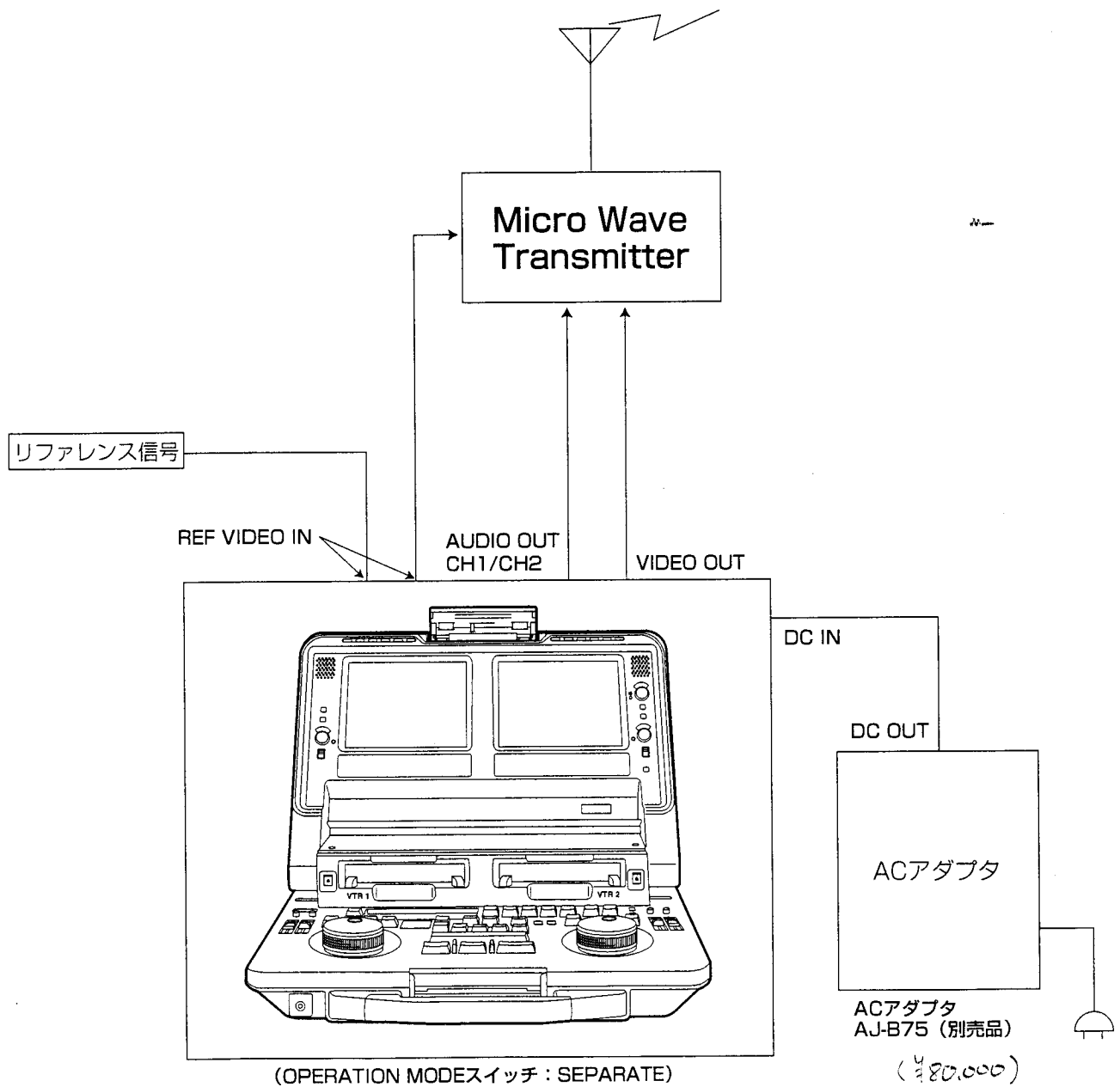
AJ-P184LP カセットテープは、DVCPRO (25 M) 184 分対応 VTR にてご使用ください。

<民生 DV テープの再生時のご注意>

- ・ 民生テープは再生のみ使用できます。
- ・ 民生の LP モードで記録されたテープの再生はできません。
- ・ 民生テープで記録はできませんので、記録に関する機能、REC 動作等の動作は禁止しています。
- ・ 民生テープの最大送り速度は 32 倍速です。
- ・ 民生テープのスローモーション再生はできません。
- ・ 民生テープご使用時の STILL TIMER の最大時間は 10 秒に、また、STILL 状態で放置した時の合計時間は 1 分に設定されています。
- ・ 民生テープのサーチ、スローモーション、静止画像時は、タイムコードの読み取り不可の表示が出ることがあります。

システム接続

送信をする際の接続方法について



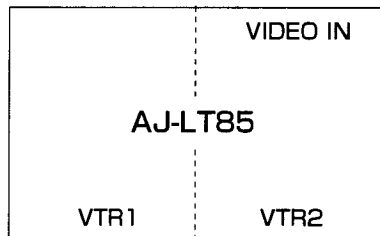
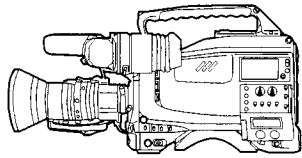
システム接続

システム接続

システムアプリケーション

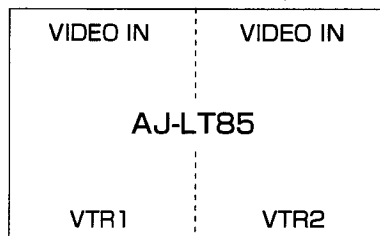
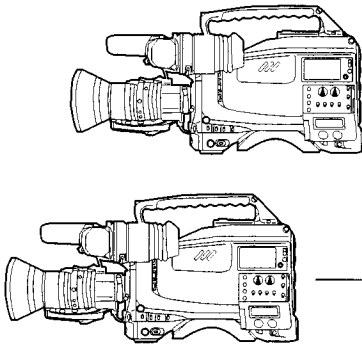
■ 2台のVTRでバックアップ記録をする

1. 同一信号を2台で記録



スイッチの設定
OPERATION MODE : SEPARATE
VTR1 IN SEL : V2 V+A
TC MODE : VTR1 ; 任意 (P-REC、P-FREE)
 : VTR2 ; VTR1 TC
 (2台のTCが同期します)

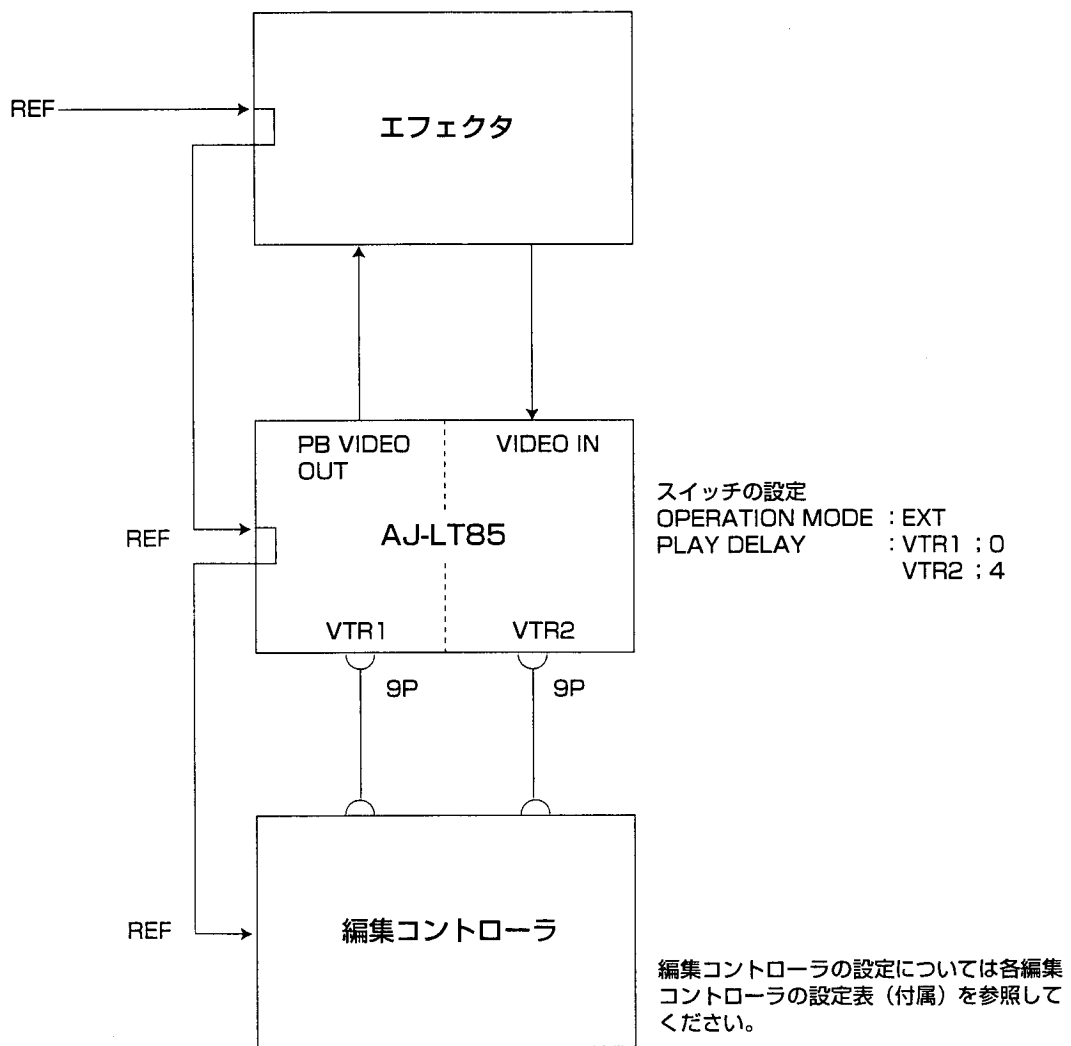
2. 異なる信号を2台で記録



スイッチの設定
OPERATION MODE : SEPARATE
VTR1 IN SEL : V1 IN
TC MODE : VTR1 ; 任意 (P-REC、P-FREE)
 : VTR2 ; VTR1 TC
 (2台のTCが同期します)

システムアプリケーション

■外部エフェクタ、コントローラからの使用時



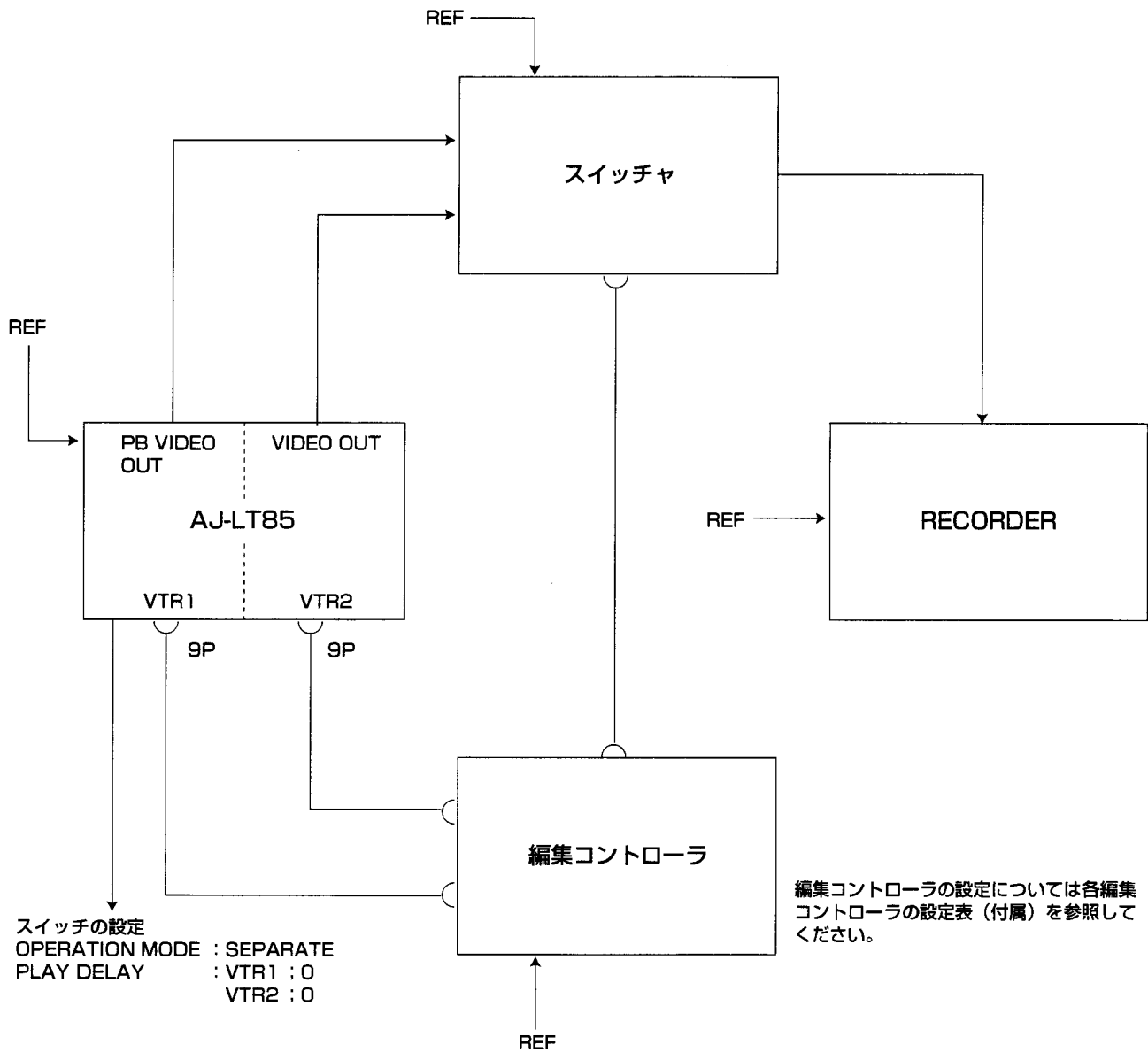
<ノート>

- ・ VTR1 側は編集レコーダとして使用できません。
- ・ スローモーション編集はできません。

システム接続

システムアプリケーション

■ AB ロール編集の2台のソース機として使用する時



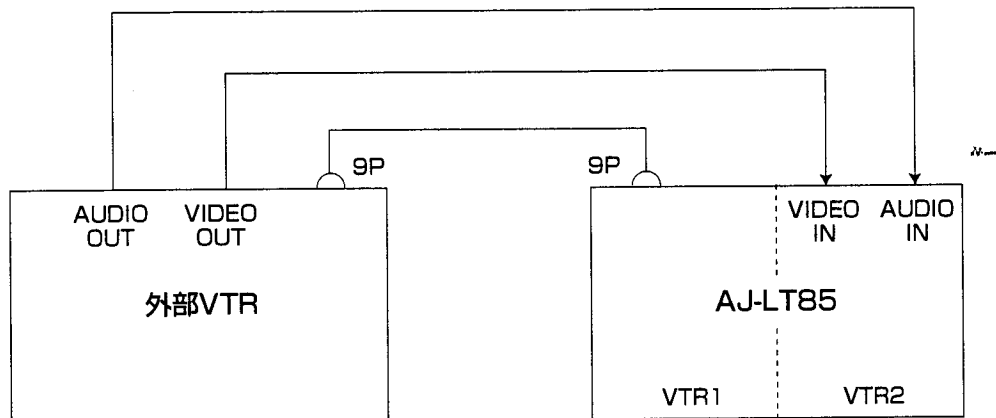
<ノート>

- ・スローモーション編集はできません。

システムアプリケーション

■外部 VTR を編集ソース機として使用する時

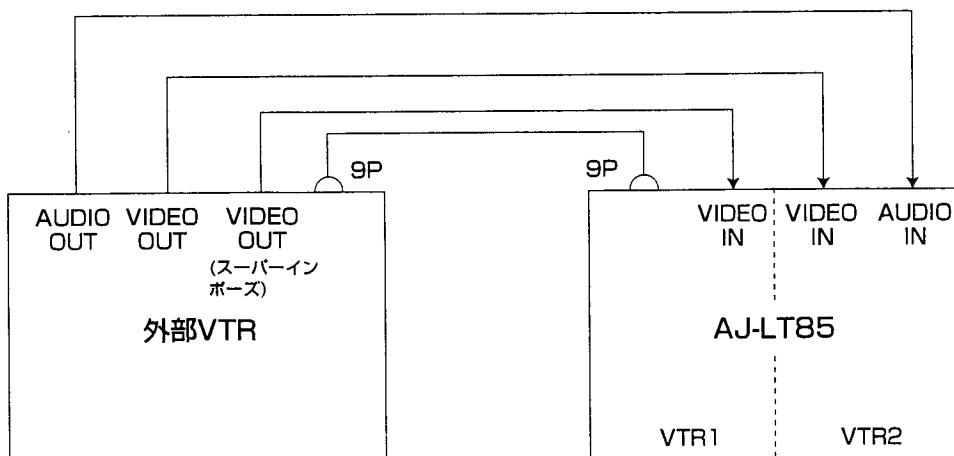
- ・本機の VTR1 側の操作部から外部 VTR をコントロールすることができます。
 - ・キーボードパネル上の「CONTROL」スイッチを「EXT VTR」にします。
- 「OPERATION MODE」スイッチ、「AUDIO INPUT SELECT」スイッチの位置にかかわらず、VTR2 の VIDEO IN 端子、AUDIO IN 端子に接続した信号が入力されます。



スイッチの設定
 CONTROL : EXT VTR
 PLAY DELAY : VTR1 : 0
 VTR2 : 4

<ノート>

- ・PLAY DELAY の設定は外部 VTR の種類によって変更が必要な場合があります。
 - ・セットアップメニュー No.105(VTR1 IN SEL)を「V2 V+A」に設定すると、VTR1 側の LCD モニターとスピーカで外部 VTR の信号を確認することができます。
 - ・「EXT VTR」モードのとき、VTR1 側のオンスクリーン表示（カウンタ等）はできません。
- ただし、スーパー表示機能のある外部 VTR を使用する場合、下記の接続、設定で VTR1 にオンスクリーン表示することができます。



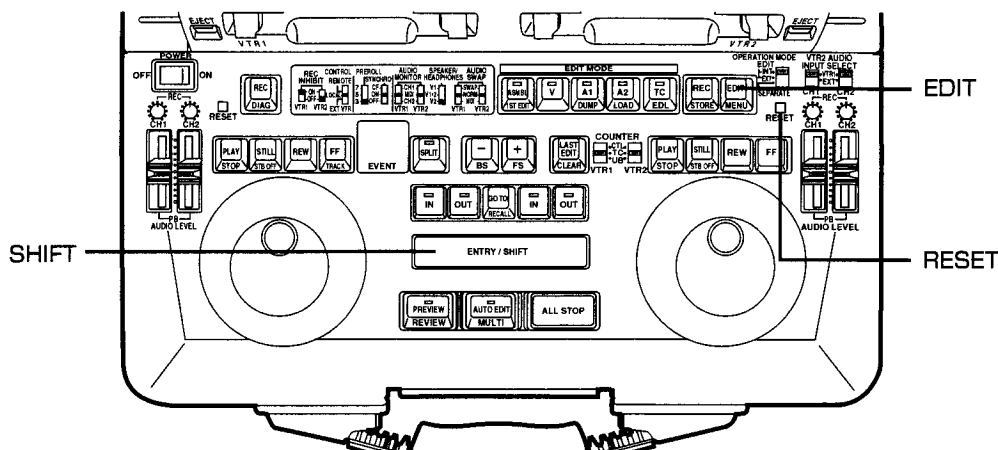
スイッチの設定
 CONTROL : EXT VTR
 VTR1 IN SEL (セットアップ No.105) : V2 A

- ・「EXT VTR」モードのとき、VTR1 側の「INPUT」「REF」の表示が消えます。

セットアップメニューの操作

切換スイッチで設定する項目以外のセットアップは、タイムカウンタ表示部とサーチダイヤルを使用してオンスクリーンメニュー（OSD）で設定します。

オンスクリーンメニュー方式で設定を行うには、MENU（SHIFT+EDIT）ボタンを押してセットアップモードにします。設定内容が表示され、設定したデータは本機にメモリーされます。



通常モードからセットアップメニューモードへ移るには

SHIFTボタンとEDITボタンを同時に押します。（リモート操作時、および編集、記録中は動作しません。）

設定値を変更するには

- 1 本機をジョグモードにします。
シャトルモードでは動作しませんのでご注意ください。
- 2 ダイヤルを回して設定する項目を選択します。（*が移動します。）
- 3 SHIFTボタンを押しながら、ダイヤルを右または左に回して値を変更します。
SHIFTボタンを押しながらINまたはOUTボタンを押すと設定内容がINでは減少、OUTでは増加します。
「1ST EDIT」「TC PRESET」「UB PRESET」項目の選択では、SHIFTボタンを押しながらFFまたはREWボタンを押すと右または左の桁へ移動します。
・「TC PRESET」と「UB PRESET」はセットアップメニュー項目番号507（TC MODE）を「P-REC」または「P-FREE」にしている時に選択できます。

ページ単位でメニューを見たいときには

FFまたはREWボタンを押します。
FFボタンを押すと次のページに移ります。カーソルは各100番台の最初の項目へ移動します。
REWボタンを押すと前のページに移ります。カーソルは各100番台の最初の項目へ移動します。

設定した値をメモリーさせるときには

SHIFTボタンを押しながらRECボタンを押します。

セットアップメニューモードから通常モードへ戻るには

SHIFTボタンを押しながらEDITボタンを押します。

ユーザー初期設定値と工場出荷設定値

本機はユーザー登録可能な設定値メモリーをもっています。任意の設定値を登録しておき、登録された設定値を一括して呼び出すことができます。また工場出荷設定値に戻すこともできます。

なお「TC PRESET」と「UB PRESET」は登録、呼び出しはされません。

■変更した値をユーザー初期設定メモリーに登録するには

- ・ MENU（SHIFT+EDIT）ボタンを押し、セットアップメニューモードに入ります。

- ・ 希望の設定値に変更します。（前記「設定値を変更するには」参照）
- ・ VTR2のRESETボタンを押し、初期設定画面を出します。
- ・ STORE（SHIFT+REC）ボタンを押し、登録します。

■変更した値からユーザー初期設定値に戻すには（ユーザー初期設定メモリーからのロード）

- ・ MENU（SHIFT+EDIT）ボタンを押し、セットアップメニューモードに入ります。
- ・ VTR2のRESETボタンを押し、初期設定画面を出します。
- ・ VTR2のFFボタンを押します。

■変更した値から工場出荷設定値に戻すには（リセット）

- ・ MENU（SHIFT+EDIT）ボタンを押し、セットアップメニューモードに入ります。
- ・ VTR2のRESETボタンを押し、初期設定画面を出します。
- ・ VTR2のPLAYボタンを押すとすべての項目がリセットされます。
VTR2のSTILLボタンを押すとSYSTEM以外の項目がリセットされます。
VTR2のREWボタンを押すとリセットはキャンセルされます。

セットアップメニューの詳細

BASIC

項目		設定値		設定内容	VTR1	VTR2
No.	項目	No.	項目			
000	DISPLAY SEL	0000 0001 0002 0003 0004 0005	TIME T&STA T&RT T&YMD T&MDY T&DMY	MONITOR OUT端子および液晶のスーパー表示の表示内容を設定します。 0: カウンタ値のみ表示します。 1: カウンタ値および動作モードを表示します。 2: カウンタ値と撮影した時間を表示します。 3: カウンタ値と撮影した日付を年、月、日の順番で表示します。 4: カウンタ値と撮影した日付を月、日、年の順番で表示します。 5: カウンタ値と撮影した日付を日、月、年の順番で表示します。 <ノート> REC DATE/REC TIMEはDVカメラレコーダで撮影したテープを再生するときのみ表示します。	○	○
001	LCD SUPER	0000 0001	OFF ON	液晶のスーパー表示を選択します。 0: スーパー表示しません。 1: スーパー表示します。		○
002	CHARA TYPE	0000 0001	WHITE W/OUT	VIDEO MONI OUT端子のスーパーおよびセットアップメニューなどの文字表示のタイプを選択します。 0: 白文字で背景は黒 1: 白文字で黒のふちどり	○	○
003	TAPE TIMER	0000 0001	±12h 24h	CTLカウンタ表示の12/24時間表示を選択します。 0: 12時間表示 1: 24時間表示	○	○

__ は工場出荷モードです。

セットアップメニューの詳細

OPERATION

項目		設定値		設定内容	VTR1	VTR2
No.	項目	No.	項目			
100	SHTL MAX	0000 0001	×16 ×32	SHTLモードの最高速度を設定します。 0：×16倍速 1：×32倍速	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
101	FF.REW MAX	0000 0001	×32 ×60	FF、REWの最高速度を設定します。 0：×32倍速 1：×60倍速 <ノート> DVフォーマットの場合は本設定に関係なく×32倍速となります。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
102	AUDIO MUTE	0000 0001	OFF ON	STOPまたはサーチからPLAYに移行したとき、音声信号が出力される間での状態を設定します。 0：音声が出力されるまでの時間が短くなります。 1：完全な状態になってから音声を出力します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
103	S/F/R EE SEL	0000 0001	EE TAPE	STOP、FF、REWモード時にEE状態になるかVV状態になるかを設定します。 0：EE状態 1：VV状態		<input type="radio"/>
104	STOP MODE	0000 0001	REC PB	VTR1側のSTOP時のモードを選択します。 0：デジタル回路がREC系となります。RECモードへ移行する時間が速くなります。 1：デジタル回路がPB系となります。PBモードへ移行する時間が速くなります。	<input type="radio"/>	
105	VTR1 IN SEL	0000 0001 0002 0003	V1 IN V2 V+A V2 V V2 A	VTR1側のVIDEO/AUDIO入力にV1 INを使用するか、V2 INを使用するかを選択します。 0：VTR1 INをVTR1の入力とします。 1：VTR2のVIDEO INとAUDIO INをVTR1の入力とします。 2：VTR2のVIDEO INとVTR1のAUDIO INをVTR1の入力とします。 3：VTR1のVIDEO INとVTR2のAUDIO INをVTR1の入力とします。	<input type="radio"/>	
106	FORMAT SEL	0000 0001	DVCPRO DV	Lカセット使用時のフォーマットを選択します。 0：DVCPROモード 1：DVモード	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
107	POSTROLL SEL	0000 0001 0002 0003	0.5S 1S 2S 3S	ポストロール時間を選択します。(単位：秒) 0：0.5s 1：1s 2：2s 3：3s		<input type="radio"/>

— は工場出荷モードです。

OPERATION

項目		設定値		設定内容	VTR1	VTR2
No.	項目	No.	項目			
108	HUMID OPE	0000 0001	OFF ON	結露時に結露を無視して動作するかどうかを選択します。 0：動作できません。 1：結露時でも動作できますが、その動作に関しては保証できません。 <ノート> 「1：動作できます」を選択した場合、テープダメージ等が発生する可能性がありますので通常は「0：動作できません」を選択してください。		○
109	SEARCH ENA	0000 0001	DIAL KEY	ダイレクトサーチ動作をするかどうかを選択します。 DIAL：ダイレクトサーチモード KEY：ノンダイレクトサーチモード (STILL時のみサーチダイヤルを受け付けます。)		○
110	AUTO REW	0000 0001	OFF ON	PLAY、REC、SHTLモードでテープ終端を検知したとき、テープ始端まで自動的に巻き戻すかどうかを選択します。 0：テープ終端で停止します。 1：テープ始端まで自動的に巻き戻します。	○	○
111	ALL STOP SEL	0000 0001	STOP STILL	ALL STOPボタンを押したときの本機のモードを選択します。 0：STOPモード 1：静止画 (SHTL +0.0、JOG STILL) モード		○

__ は工場出荷モードです。

セットアップメニューの詳細

INTERFACE

項目		設定値		設定内容	VTR1	VTR2
No.	項目	No.	項目			
200	ID SEL	0000 0001	OTHER DVCPRO	コントローラに返すID情報を選択します。 0 : OTHER 1 : DVCPRO <ノート> OTHERにはDVCPRO以外のVTRのID情報を設定しています。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
201	LOCAL ENA	0000 0001	DIS ST&EJ	REMOTE/LOCAL SWがREMOTEの時、コントロールパネルで操作可能なSWを選択します。 0 : 全てのSW、ボタンの操作はできません。 1 : STOP (ALL STOP)、EJECTボタンのみ操作が可能です。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
202	OPTION MODE	0000 0001 0002 0003	EDL AMU1 AMU2 AMU3	EDL端子 (9P) のモードを設定します。 0 : EDLのDUMP/LOADを行います。 1 : オーディオメモリユニットをアフレコ仕様で使用します。 2 : オーディオメモリユニットをオーディオch2のフェード仕様で使用します。 3 : オーディオメモリユニットをオーディオch1のフェード仕様で使用します。		<input type="radio"/>
203	BAUD RATE	0000 0001 0002 0003 0004	1200 2400 4800 9600 19200	セットアップメニューNo.202 (OPTION MODE) が「EDL」のときボーレートの設定を行います。		<input type="radio"/>
204	DATA LENGTH	0000 0001	7 8	セットアップメニューNo.202 (OPTION MODE) が「EDL」のときデータ長の設定を行います。		<input type="radio"/>
205	STOP BIT	0000 0001	1 2	セットアップメニューNo.202 (OPTION MODE) が「EDL」のときストップビットの設定を行います。		<input type="radio"/>
206	PARITY	0000 0001 0002	NON ODD EVEN	セットアップメニューNo.202 (OPTION MODE) が「EDL」のときパリティの設定を行います。		<input type="radio"/>
207	FLOW CONTROL	0000 0001	NONE RTSCTS	EDLデータ通信のフロー制御の有無を設定します。 0 : RTS/CTSによるフロー制御を行いません。 1 : RTS/CTSによるフロー制御を行います。		<input type="radio"/>
208	EDL FORMAT	0000 0001	AGA850 CMX340	EDLをダンプするときのフォーマットを設定します。 0 : 松下AG-A850と共通のフォーマット 1 : CMX340の編集システムと共通のフォーマット		<input type="radio"/>

__ は工場出荷モードです。

EDIT

項目		設定値		設定内容	VTR1	VTR2
No.	項目	No.	項目			
300	SERVO REF	0000 0001	AUTO EXT*	サーボの同期する信号を選択します。 0：記録、編集時は入力信号に同期し、再生時はREF信号に同期します。 1：常にREF信号に同期します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
301	PLAY DELAY	0000 ⋮ 0004 ⋮ 0015	0 (VTR1) ⋮ 4 (VTR2) ⋮ 15	PLAYの立ち上がり時間をフレーム単位で設定します。 <ノート> VTR1、VTR2を外部機器と接続して外部からコントロールするときは、PLAY DELAYの値はシステムに合わせて設定してください。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
302	AUD EDIT IN	0000 0001	CUT FADE	オーディオ編集IN点のつなぎ方を選択します。 0：カット処理 1：フェード処理		<input type="radio"/>
303	AUD EDIT OUT	0000 0001	CUT FADE	オーディオ編集OUT点のつなぎ方を選択します。 0：カット処理 1：フェード処理		<input type="radio"/>
304	BEEP	0000 0001 0002 0003 0004 0005	OFF ENTRY ALL1 ALL2 ALL3 ALL4	確認音を出すかどうかを設定します。 0：確認音を出しません。 1：ENTRY、ERROR、WARNING時、確認音を出します。 2：ENTRY、EDIT IN/OUT通過時、ERROR、WARNING時、確認音を出します。 3：ENTRY、EDIT IN通過時、ERROR、WARNING時に確認音を出します。 EDIT OUT通過時は出ません。 4：ENTRY、EDIT OUT通過時、ERROR、WARNING時、確認音を出します。 EDIT IN時は出ません。 5：ENTRY、EDIT IN/OUT通過時、ERROR、WARNING時、確認音を出します。 EDIT IN/OUT通過時の確認音は遅らせて出します。		<input type="radio"/>
305	AUTO ENTRY	0000 0001 0002 0003	OFF REC1 REC2 ALL	自動編集後、前の編集のOUT点の値を自動的に次の編集IN点として登録するかどうかを設定します。 0：自動設定しません。 1：VTR2側のみ自動設定します。 2：VTR2側のみ自動設定します。 オープンエンド編集時は、11フレーム補正した値を自動設定します。 3：VTR1、VTR2とも自動設定します。		<input type="radio"/>
306	SV-UNLK EDIT	0000 0001 0002	EDIT ABORT1 ABORT2	サーボロックがかからないとき、編集を中止するかどうかを選択します。 0：編集を中止せず、実行します。 1：編集の助走区間でサーボがかからなかったとき、編集を中止します。 2：助走区間および編集記録突入後サーボがかからなかったとき編集を中止します。		<input type="radio"/>

— は工場出荷モードです。

* EXTの設定はVTR2側のみ設定可能です。

セットアップメニューの詳細

EDIT

項目		設定値		設定内容	VTR1	VTR2
No.	項目	No.	項目			
307	SYNCHRO EDIT	0000 0001	OFF ON	SYNCHRO設定がONに設定されているとき、±0フレームの精度で、調相できないとき編集を中止するかどうかを設定します。 0：調相を中止しません。 1：調相を中止します。		○
308	SYNCHRO	0000 0001	VTR1 VTR2	調相するデッキを選択します。 0：VTR1を調相します。 1：VTR2を調相します。		○
309	EDL AUTO CLR	0000 0001	OFF ON	登録されたエディットが一杯になったとき、最初のエディットをクリアして、順次上書きできるようにするかどうかを設定します。 0：上書きできません。 1：上書きできます。		○
310	AFTER CUE-UP	0000 0001	STOP STILL	キューアップ動作終了後の本機のモードを選択します。 0：STOPモード 1：静止画（SHTL+0.0、JOG STILL）モード		○
311	SPLIT EDIT	0000 0001	VIDEO AUDIO	SPLIT編集の基準を設定します。 0：VIDEOの編集点を基準にしてAUDIO編集点をSPLITします。 1：AUDIOの編集点を基準にしてVIDEO編集点をSPLITします。		○
312	1ST EDIT DUR	0000 0001	26s T-END	1ST EDIT時、ブラックバースト信号を記録する時間を設定します。 0：26秒間記録し、3秒戻って停止します。 停止した点が1ST EDIT PRESETで設定した点になります。 1：テープ終端またはALL STOPで停止させた位置まで記録します。テープ終端まで記録した場合は1ST EDIT PRESETした位置まで自動的に戻ります。		○
313	1ST EDIT			1ST EDIT時のプリセット値を設定します。 00:00:00:00-23:59:59:29		○

— は工場出荷モードです。

TAPE PROTECT

項目		設定値		設定内容	VTR1	VTR2
No.	項目	No.	項目			
400	STILL TIMER	0000 0001 0002 0003 0004 0005 0006 0007 0008	0.5s 5s 10s 20s 30s 40s 50s 1min 2min	ストップまたは、サーチSTILL (JOG/VAR/SHTL) の状態で放置された時、テープ保護モードになるまでの時間を選択します。 (単位 s:秒 min:分) <ノート> DVフォーマットの場合、10s以上の選択を行っても、10sで処理を行います。 ただし、選択画面上は2minまで動作します。	○	○
401	SRC PROTECT	0000 0001	STEP HALF	STILL状態で放置されたときのテープ保護モードの動作を選択します。 0 : STEP (STILL時はSTEP FWD) 1 : HALF LOADING <ノート> STEP FWDが選択されているときに、STILL状態で放置された合計時間がDVCPROフォーマットの場合、30分、DVフォーマットの場合は1分になると、自動的にHALF LOADINGモードへ移行します。	○	○
402	DRUM STDBY	0000 0001	OFF ON	スタンバイOFF時にDRUMを停止するかどうか選択します。 0 : DRUMを停止させます。 1 : DRUMを回転させます。	○	○
403	STOP PROTECT	0000 0001	STEP HALF	STOPの状態で放置されたときのテープ保護モードを選択します。 0 : STEP FWD 1 : HALF LOADING <ノート> STEP FWDが選択されているときに、STOPの状態で放置された合計時間が30分 (DVテープの場合は1分) になると、自動的にHALF LOADINGモードへ移行します。	○	○

— は工場出荷モードです。

セットアップメニューの詳細

TIME CODE

項目		設定値		設定内容	VTR1	VTR2
No.	項目	No.	項目			
500	VITC POS-1	0000 ⋮ 0006 ⋮ 0010	10L ⋮ 16L ⋮ 20L	VITC信号の挿入位置を設定します。 (501 : VITC POS-2と同じラインは選択できません。)	○	○
501	VITC POS-2	0000 ⋮ 0008 ⋮ 0010	10L ⋮ 18L ⋮ 20L	VITC信号の挿入位置を設定します。 (500 : VITC POS-1と同じラインは選択できません。)	○	○
502	VITC BLANK	0000 0001	BLANK THRU	500 : VITC POS-1、501 : VITC POS-2で選択された位置にVITCデータを出力するかどうかを設定します。 0 : 出力しません。 1 : 出力します。	○	○
503	TCG REGEN	0000 0001 0002	TC&UB TC UB	TCGがREGENモードの時、REGENする信号を選択します。 0 : タイムコード、ユーザズビットともにREGENします。 1 : タイムコードのみREGENします。 2 : ユーザズビットのみREGENします。	○	○
504	BINARY GP	0000 0001 0002 0003 0004 0005 0006 007	000 001 010 011 100 101 110 111	TCGで発生するタイムコードのユーザズビットの使用状態を設定します。 0 : NOT SPECIFIED (キャラクタセットを使用しません。) 1 : ISO CHARACTER (ISO646、ISO2022に準拠した8bitキャラクタセット) 2 : UNASSIGNED-1 (未定義) 3 : UNASSIGNED-2 (未定義) 4 : UNASSIGNED-3 (未定義) 5 : PAE/LINE (SMPTE262Mのpage/Line多重システム) 6 : UNASSIGNED-4 (未定義) 7 : UNASSIGNED-5 (未定義)	○	○
505	TCG CF FLAG	0000 0001	OFF ON	TCGのCFフラグを使用するかどうかを選択します。 0 : CFフラグを使用しません。 1 : CFフラグを使用します。	○	○
506	DF MODE	0000 0001	DF NDF	CTLおよびTCGのDF/NDFを選択します。 0 : ドロップフレームモードで使用します。 1 : ノンドロップフレームモードで使用します。	○	○
507	TC MODE <i>外部TC</i>	0000 0001 0002 0003 0004 0005	P-REC P-FREE I-REG E-VITC E-LTC VTR1 TC*	内部TCGを使用するか、外部タイムコードを使用するかを選択します。 0 : 内部TCをPRESETにし、REC RUNモードで使用します。 1 : 内部TCをPRESETにし、FREE RUNモードで使用します。 2 : 内部TCをREGENで使用します。 3 : 入力映像信号のVITCをREGENモードで使用します。 4 : TC入力のLTCをREGENで使用します。 5 : OPERATION MODEスイッチがINTの時、サブコードのTCをREGENモードで使用します。	○	○

__ は工場出荷モードです。

*VTR1 TCの設定はVTR2側のみ設定可能です。

TIME CODE

項目		設定値		設定内容	VTR1	VTR2
No.	項目	No.	項目			
508	TC PRESET			TCG (Time Code Generator) の値を設定します。 00:00:00:00-23:59:59:29	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
509	UB PRESET			ユーザースピットの値を設定します。 00 00 00 00-FF FF FF FF	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
510	REGEN MODE <i>編集時の</i>	0000 0001 0002 0003	AS & IN ASSEM INSRT SW	アッセンブル編集、またはタイムコード (TC) のインサート編集 (TCを書きかえるモード) において、セットアップメニューNo.507 (TC MODE) に関係なく設定しているとき、I-REGENするモードを設定します。 0: アッセンブル編集とインサート編集のときI-REGENします。 1: アッセンブル編集のときI-REGENします。 2: インサート編集のときI-REGENします。 3: セットアップメニューNo.507 (TC MODE) に従います。		<input type="radio"/>
511	TC JUMP	0000 0001 0002 0003	OFF VTR1 VTR2 ALL	TC JUMPするかどうか設定します。 0: TC JUMPしません。 1: VTR1側のみTC JUMPします。 2: VTR2側のみTC JUMPします。 3: VTR1、VTR2ともにTC JUMPします。 <ノート> TC JUMP時、いったんIN点にCUE UP動作をし、そのIN点のCTL値を基準にPREROLLおよび助走をします。IN点を通り編集記録に入った時点で、TC基準に切り替わります。		<input type="radio"/>
512	PHASE CORR	0000 0001	OFF ON	TCGで発生するLTCの位相補正コントロールを行うかどうかを選択します。 0: 位相補正コントロールを行いません。 1: 位相補正コントロールを行います。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
513	V-MON/ TC OUT	0000 0001 0002	V-MON TCOUT1 TCOUT2*	ビデオモニタ出力端子をTC出力端子として使用するかどうかを選択します。 TC出力端子として使用する場合、E-Eモード時に出力するTC信号の位相を映像出力に合わせるか、入力TCに合わせるか選択します。 0: ビデオモニタ出力端子として使用します。 1: TC出力端子として使用し、E-E時、出力TC信号の位相を入力TC信号に合わせます。 2: TC出力端子として使用し、E-E時、出力TC信号の位相を出力映像信号に合わせます。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

__ は工場出荷モードです。

* TCOUT2の設定はVTR2側のみ設定可能です。

セットアップメニューの詳細

VIDEO

項目		設定値		設定内容	Y P1	Y P2
No.	項目	No.	項目			
600	INPUT C KILL	0000 0001	B/W AUTO	ビデオ入力信号のカラーキラー処理を選択します。 0：強制的にB/W処理を行います。 1：自動処理を行います。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
601	OUT VSYNC	0000 0001	N-VF VF	EE時、VIDEO出力信号にHを合わせ、入力信号にVを合わせるように、内部SYNCをフロートさせるかどうかを選択します。 0：フロートさせません。 1：フロートさせます。		<input type="radio"/>
602	V-MUTE SEL	0000 0001	N-MUTE LOW_RF	再生中にLOW-RFまたはサーボロックがはずれた場合、映像をミュートするかどうかを選択します。 0：ミュートしません。 1：ミュートします。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
603	CC (F1) BLANK	0000 0001	BLANK THRU	第1フィールドのクローズキャプション信号のON/OFFを選択します。 0：強制ブランキングします。 1：ブランキングしません。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
604	CC (F2) BLANK	0000 0001	BLANK THRU	第2フィールドのクローズキャプション信号のON/OFFを選択します。 0：強制ブランキングします。 1：ブランキングしません。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
605	FREEZE SEL	0000 0001	FIELD FRAME	PLAY中または、PLAYからSTOP時の静止画面のフリーズを選択します。 0：フィールドフリーズになります。 1：フレームフリーズになります。 (上記モード以外は常にフィールドフリーズになります。)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
606	IN FRM DET	0000 0001	FORCE AUTO	入力信号のフレーム検出を選択します。 0：常にフレーム検出を行います。 1：NON STD信号の時のみフレーム検出を禁止します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

__ は工場出荷モードです。

AUDIO

項目		設定値		設定内容	VTR1	VTR2
No.	項目	No.	項目			
700	CH1 IN LV	0000 0001 0002	4dB 0dB -20dB	オーディオ入力 (CH1) の基準切換えを選択します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
701	CH2 IN LV	0000 0001 0002	4dB 0dB -20dB	オーディオ入力 (CH2) の基準切換えを選択します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
702	CH1 OUT LV	0000 0001 0002	4dB 0dB -20dB	オーディオ出力 (CH1) の基準切換えを選択します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
703	CH2 OUT LV	0000 0001 0002	4dB 0dB -20dB	オーディオ出力 (CH2) の基準切換えを選択します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
704	EMPHASIS	0000 0001	OFF ON	エンファシスのON/OFFを設定します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
705	REC CUE	0000 0001 0002	CH1 CH2 CH1+2	CUEに記録する入力信号を選択します。 0: オーディオ入力のCH1 1: オーディオ入力のCH2 2: オーディオCH1とCH2のミックス信号	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
706	CUE INSERT	0000 0001	OFF ON	AUDIO INSERT時、CUEをインサートするかしないかを選択します。 0: インサートせずに、すでに記録されている信号を残します。 1: インサートします。		<input type="radio"/>
707	DV OUTPUT	0000 0001 0002	ST1 ST2 ST1+2	DVフォーマット再生時、AUDIO CH1、CH2の出力を選択します。 0: CH1トラックをCH1に、CH2トラックをCH2に出力します。 1: CH3トラックをCH1に、CH4トラックをCH2に出力します。 2: CH1トラックとCH3トラックをCH1に、CH2トラックとCH4トラックをCH2に出力します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
708	PB FADE	0000 0001 0002	AUTO CUT FADE	再生時に音声編集点 (IN点、OUT点) の処理をどのように行うかを選択します。 0: 記録時の状態に従います。 1: 強制CUT編集になります。 2: 強制FADE編集になります。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

__ は工場出荷モードです。

セットアップメニューの詳細

AUDIO

項目		設定値		設定内容	VTR1	VTR2
No.	項目	No.	項目			
709	AUDIO SLOW	0000 0001 0002	PCM CUE A-CUE	SLOW再生時のオーディオ出力モードを設定する。 0：PCMモード。-0.43～+1までPCM音声、それ以外はCUE音声になります。 1：CUEモード。FWD1倍速はPCM、その他の速度ではCUE音声を出力します。 2：ALL CUEモード。FWD1倍速を含め、すべての速度でCUE音声を出力します。	○	○
710	SHTL AUDIO	0000 0001	OFF CUE	SHTL時、LINE OUT1にCUE AUDIOを出力するかどうかを選択します。 0：出力しません。 1：出力します。	○	○
711	AUTO MONI	0000 0001	V1+V2 AUTO	スピーカ/ヘッドホンに出力される信号を選択します。 0：SPEAKER/HEADPHONES SWにしがいます。 1：最後に操作したVTR側の信号を出力します。 <ノート> ・OPERATION MODEスイッチが「SEPARATE」のときは「V1+V2」固定になります。 ・CONTROLスイッチが「REMOTE」および「EXT VTR」のときは「V1+V2」固定になります。		○
712	DV PB ATT	0000 0001	OFF ON	DVテープの再生時の出力レベルを選択します。 OFF：レベルダウンしません。 ON：レベルダウンします。	○	○
713	CH1 REC SEL	0000 0001 0002	CH1 CH2 MIX	CH1に記録する信号を選択します。 0：CH1入力 1：CH2入力 2：CH1入力とCH2入力のMIX信号		○
714	CH2 REC SEL	0000 0001 0002	CH1 CH2 MIX	CH2に記録する信号を選択します。 0：CH1入力 1：CH2入力 2：CH1入力とCH2入力のMIX信号		○

__ は工場出荷モードです。

SYSTEM

項目		設定値		設定内容	VTR1	VTR2
No.	項目	No.	項目			
800	SCH COARSE	0000 0001 0002 0003	0 90 180 270	SCH位相調整：90° 単位 (SCHが変化し、H位相は変化しません。)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
801	SCH FINE	0000 0128 0225	-128 0 127	SCH位相調整：トータル可変範囲±45° 以上 (SCHが変化し、H位相は変化しません。)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
802	LCD CONT	0000 0030 0060	-30 0 30	LCDのコントラストを調整します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
803	LCD COLOR	0000 0030 0060	-30 0 30	LCDのカラーを調整します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
804	LCD HUE	0000 0030 0060	-30 0 30	LCDのHUEを調整します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
806	V OUT SEL	0000 0001	CMPST CMPNT	ビデオ出力を選択します。 0：コンポジット出力 1：コンポーネント出力	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
807	CMPNT OUT LV	0000 0001	MII B-CAM	コンポーネント出力時の信号レベルを選択します。 0：MIIレベル 1：β-camレベル	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

— は工場出荷モードです。

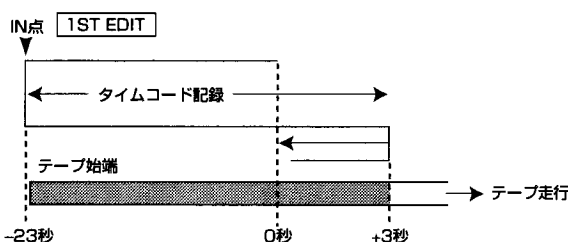
編集用テープの作成

編集用のテープは、アッセンブル編集またはインサート編集によって作成が異なります。
編集する前に、あらかじめテープにコントロール信号（CTL）を記録することが必要です。

アッセンブル編集の場合は編集するテープの最初の部分にコントロール信号を記録しておきます。（1ST EDIT）

1 ENTRY ボタンを押しながら IN ボタンを押して VTR2 の IN 点を登録します。

登録された位置が 1ST EDIT のプリセット値で設定される時間の 23 秒前に設定されます。次に 1ST EDIT（SHIFT+ASMBL）ボタンを押すと記録を開始し、3 秒後まで記録し、0 秒点に自動的に戻り、停止します。1ST EDIT 機能を使用する場合、映像は常にブラックバースト信号、音声は無音で記録されます。



インサート編集の場合は使用するテープの最初から最後まで CTL 信号が記録されている必要があります。
・セットアップの項目番号 311（1ST EDIT DUR）を T-END に設定するとテープ終端まで 1ST EDIT 動作を行います。
312

新品テープに映像といっしょにタイムコードを記録するには

1 レコーダ側にテープを挿入します。

2 SHIFT ボタンを押しながら MENU ボタンを押して、セットアップモードに入ります。

1) セットアップの項目番号 507（TC MODE）を選択し、P-REC（0000）に設定します。

2) セットアップの項目番号 508（TC PRESET）を選択して、タイムコードの初期値を設定します。*

3) セットアップの項目番号 506（DF MODE）を選択して、ドロップフレームまたはノンドロップフレームを設定します。

* タイムコードを“0”にリセットするには SHIFT ボタンを押しながら RESET ボタンを押します。

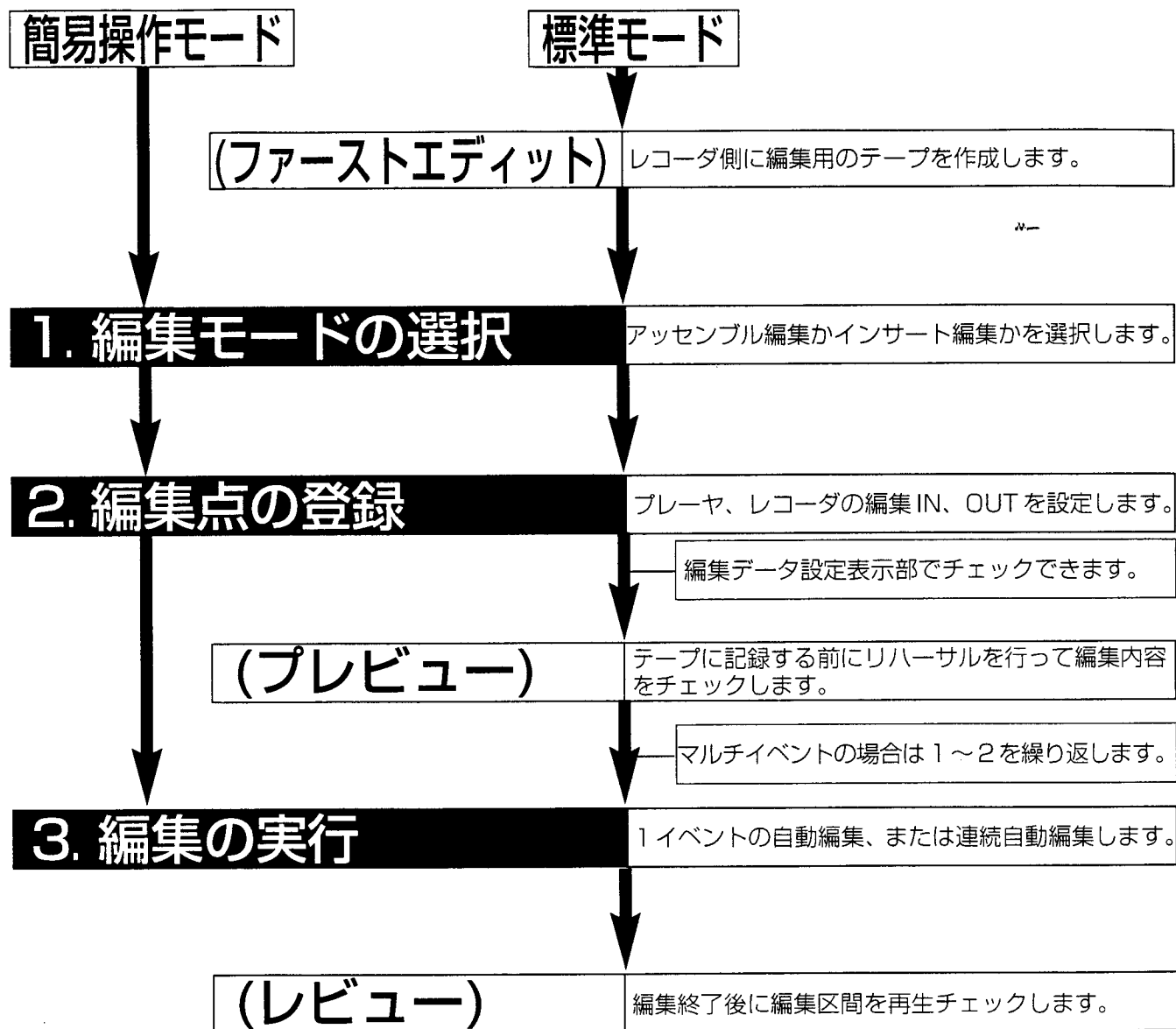
3 タイムコードの記録を行います。

新品テープに記録する場合はレコーダ側の REC ボタンを押しながら PLAY ボタンを押します。

4 記録を終了するには、ALL STOP ボタンを押します。

編集操作の基本的な流れ

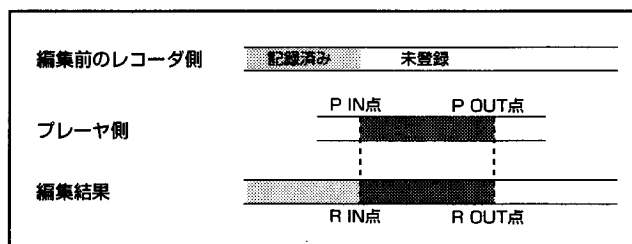
編集操作は、基本的に次の操作で行えます。



編集モードの種類と図解

■アッセンブル編集モード

主に新品テープに、(新品でなくてもできます)最初から次々に続けて記録します。マスターテープ制作には一般的なモードです。

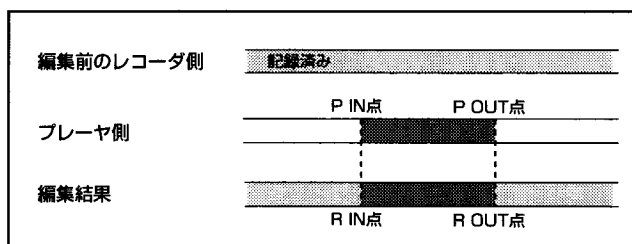


- レコーダ側のタイムコードの連続性を保つため、セットアップメニュー項目番号507 (TC MODE) を「I-REG」に設定するか、項目番号510 (REGEN MODE) を「AS & IN」または「ASSEM」に設定してください。

■インサート編集モード

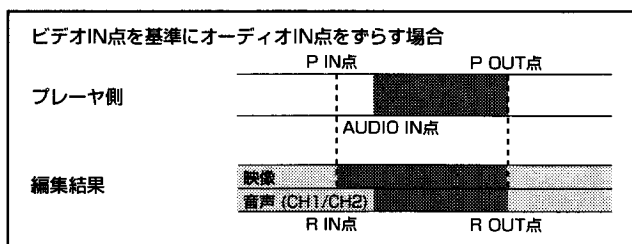
記録済みのテープの一部に別のソースを記録します。

V(映像),A1(音声CH1),A2(音声CH2),TC(タイムコード)の4種類の信号を別々または合わせて記録することができます。レコーダ側テープの全編を通じて信号が記録されている必要があります。

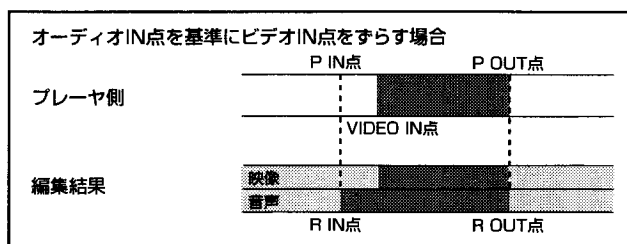


- TCインサート時、レコーダのタイムコードの連続性を保つ必要がある場合、セットアップメニュー項目番号507 (TC MODE) を「I-REG」に設定するか、項目番号510 (REGEN MODE) を「AS & IN」または「INSRT」に設定してください。

■スプリット編集



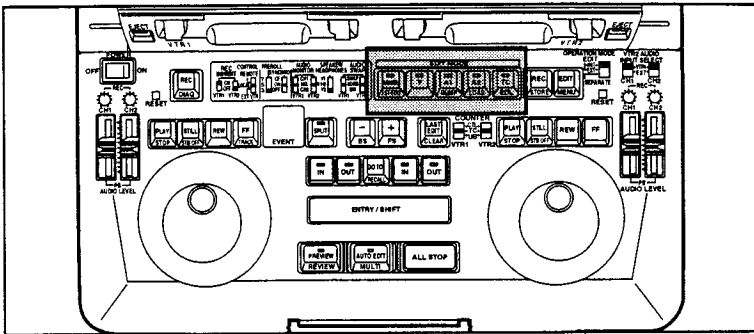
- セットアップメニューNo.311 (SPLIT EDIT) を「VIDEO」に設定してください。
- オーディオIN点をビデオIN点より先に先行させることもできます。



- セットアップメニューNo.311 (SPLIT EDIT) を「AUDIO」に設定してください。
- ビデオIN点をオーディオIN点より先に先行させることもできます。

カット編集の操作

1. 編集モードの選択



① アッセンブル編集は

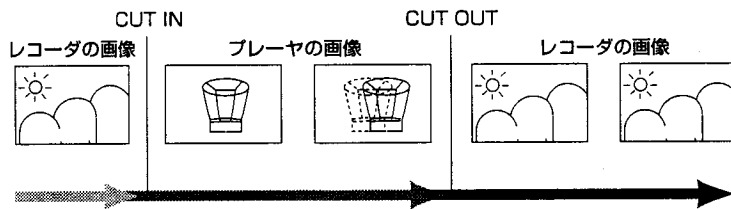
ASMBL ボタンを押します。映像と音声(CH1,CH2)とタイムコードを同時に記録します。

② インサート編集は

インサートボタン(V、A1、A2、TC)を押します。それぞれ映像、音声に対応しており、編集したい信号はすべて押してください。

③ 各モードを取り消したい場合はもう一度同じボタンを押してください。

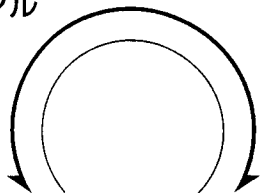
カット編集とは1つの画面から別の画面に瞬時に切替える方法で編集を行います。



* インサート編集では画像と音声を別々に編集できます。

サーチダイヤル

逆方向再生
◀(ランプ点灯)



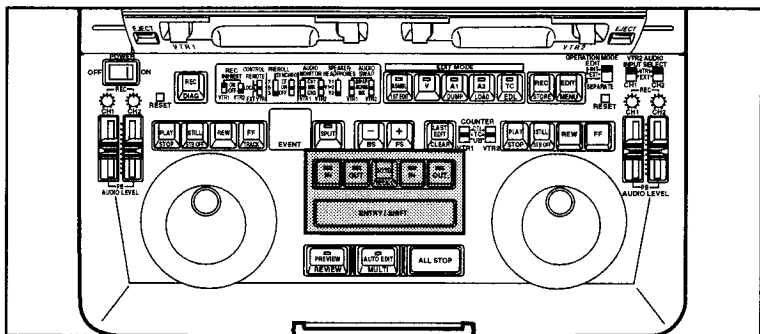
正方向再生
▶(ランプ点灯)

- ・ 押さずに回すとシャトルモード：回す方向と角度に応じて±16倍速または±32倍速(セットアップの項目100の設定による)の範囲で再生。中央のクリック位置(自然停止位置)で静止画になります。
- ・ 押し込んで回すとジョグモード：回す方向と速さに応じて±1倍速の範囲で再生。ダイヤルの回転をやめると静止画になります。

カット編集の操作

2. 編集点の登録

サーチダイヤルで編集画面を探し、INとOUTボタンで登録する。



- 1 編集点を設定したいVTR（*プレーヤまたはレコーダ）で再生を行い、希望の場面を探します。
- 2 希望の場面でENTRYボタンを押しながら、設定したい編集点に対応するINまたはOUTボタンを押します。

設定した編集点に応じて、プレーヤまたはレコーダのタイムカウンタ表示部のINまたはOUTのLEDが点灯します。同時に未登録の編集点がある場合は、対応するLEDが点滅します。

- 3 プレーヤのIN点、OUT点、レコーダのIN点、OUT点の4点のうち3点を設定し終わるまでステップ1、2を繰り返します。
プレーヤのIN点とOUT点、レコーダのIN点を登録すれば編集点の登録は完了です。
レコーダのOUT点は編集を実行したとき自動計算されます。

希望の場面で静止画にするには

通常再生中に

STILLボタンを押します。

シャトルモードで再生中に

サーチダイヤルを中央のクリック位置に戻します。

ジョグモードで再生中に

サーチダイヤルの回転を止めます。

一定時間以上静止画再生を続けると

セットアップメニュー項目番号400（STILL TIMER）で設定された時間が経過すると、自動的にテープ保護モードに移行します。

編集点の確認、修正、取り消し

編集点を確認するには、

確認する VTR の IN または OUT ボタンを押します。
カウンタ表示部に登録した編集点が表示されます。

編集点の画像を確認するには、

確認する VTR の IN または OUT ボタンと GO TO ボタンを同時に押します。
VTR は登録した編集点にアクセスし、モニターに画像が出ます。
・ VTR がアクセスしないとき、編集点は登録されていません。

トータル時間を確認するには

各編集のトータル時間を確認するには
IN と OUT ボタンを同時に押します。カウンタに編集時間が出ます。

全編集のトータル時間を確認するには
TOTAL ボタンを押します。押している間、トータル時間が出ます。

編集点をフレーム単位で修正するには

IN または OUT ボタンを押しながら、+ または - ボタンを押します。
+ ボタンは登録された編集点を 1 フレーム単位で加算します。
- ボタンは登録された編集点を 1 フレーム単位で減算します。

編集点を取り消すには

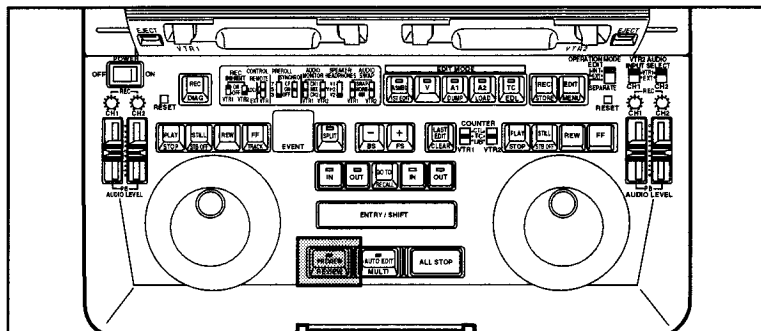
取り消したい編集点の IN または OUT ボタンを押しながら、対応する RESET ボタンを押します。

カット編集の操作

(プレビュー)

編集を実行する前のリハーサルです。

PREVIEW ボタンを押すと、登録したイベント(ディスプレイにイベント No. が表示されているイベント)についてプレビューを行います。



プレビューを実行すると

- ・レコーダ側のプリロール点から IN 点までと、OUT 点以降はレコーダの画像が再生されます。
- ・IN 点から OUT 点までは編集する画像がレコーダ側のモニターに出ます。
- ・プレーヤ、レコーダともに OUT 点の 2 秒後まで走行して止まります。

ただし、アッセンブルモードの場合、レコーダは IN 点の 1 秒後まで走行して止まり、プレーヤが OUT 点を通ってもレコーダの画像は再生されません。

プレビューの途中でプレビューを最初からやり直すには

PREVIEW ボタンを押します。

プレビューの途中で OUT 点を手前に設定し直すには

OUT 点を登録したい場面で、ENTRY ボタンを押しながらレコーダまたはプレーヤの OUT ボタンを押します。

- ・インサートモードの時は、上記 2 つのボタンを押したときのレコーダのテープ位置が新たに OUT 点として登録され、プレビューが終了します。
- ・アッセンブルモードの場合は、新たな OUT 点が自動的に算出され、登録されます。

プレビューを中断して自動編集を実行するには

AUTO EDIT ボタンを押します。

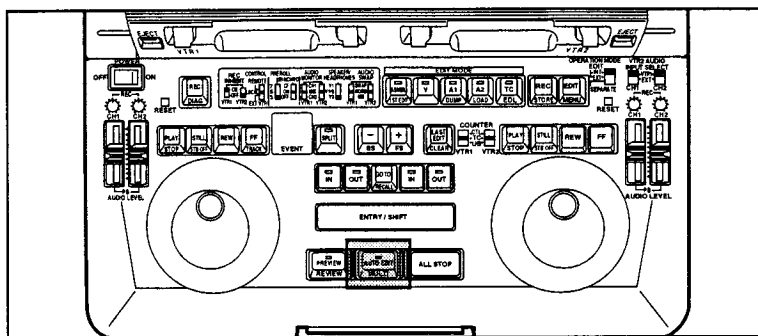
前回のプレビューの内容を呼び出すには

LAST EDIT ボタンを押します。

押すたびに前回のプレビューと今回のプレビューの内容が交互に呼び出されます。

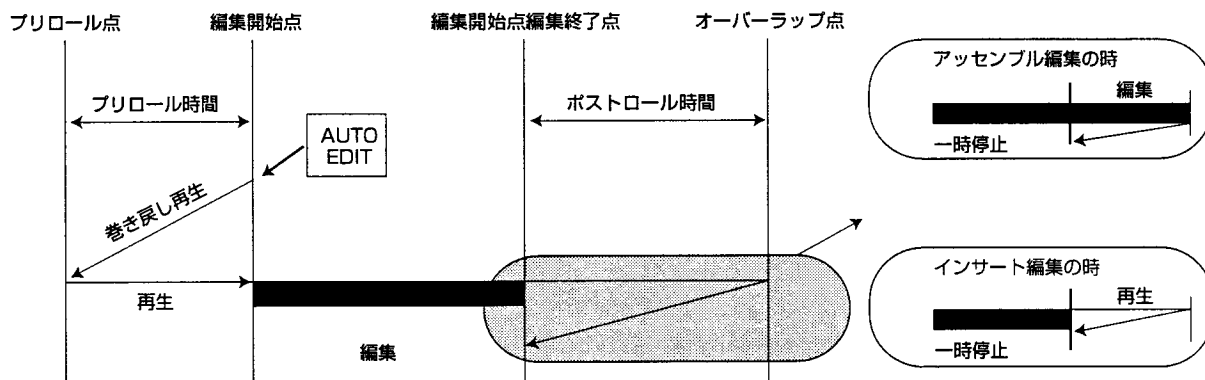
3. 編集の実行

必要な編集点の設定の登録が終了しますと、後は編集を実行すれば、1 イベントの自動編集が行われます。編集を実行した後は「レビュー」で確認することができます。



＜編集の実行＞（連続自動編集の場合は編集を実行しないで次のイベントの入力を行ってください。）

AUTO EDIT ボタンを押すと1 イベントの自動編集を開始します。

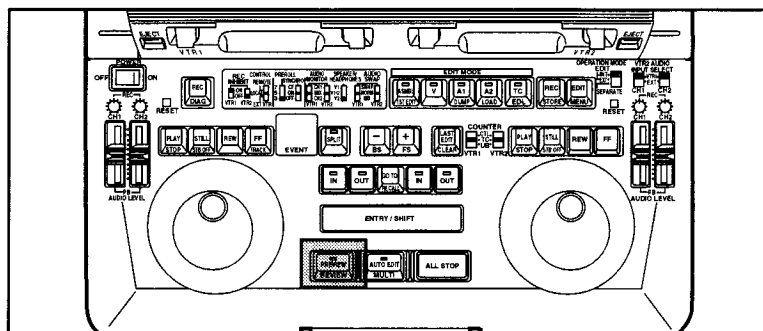


- * 編集実行後、イベント番号が追加され、今までのレコーダの編集 OUT 点が編集 IN 点として自動的に計算されます。[ただしセットアップメニューの項目番号 305 (AUTO ENTRY) が自動設定の場合]
- * 途中で編集を終了するには AUTO EDIT ボタンを押します。ボタンを押した位置が OUT 点として登録されます。

カット編集の操作

(レビュー)

REVIEW (SHIFT+PREVIEW) ボタンを押すと、すでに編集されたイベントを再生します。



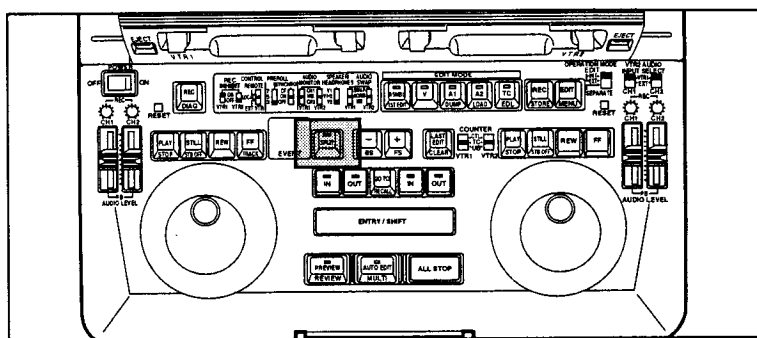
レビューを中止するときは、ALL STOP ボタンを押します。

<ノート>

レビューは編集終了直後に操作できます。他のモードへ移行したり、操作ボタンを押すとレビューはできませんのでご注意ください。

オーディオスプリット編集の操作

インサート編集のとき、ビデオのIN点に対してオーディオのIN点をずらして編集することができます。



4-1

- 1 セットアップメニューNO.311 (SPLIT EDIT) を「VIDEO」に設定します。
- 2 インサート編集するチャンネルを選択します。
- 3 プレーヤ、レコーダのビデオの編集IN点を登録します。
- 4 SPLIT ボタンを押します。
ランプの点灯を確かめます。
プレーヤとレコーダのINランプが点滅します。
- 5 プレーヤのオーディオIN点を探し、ENTRY ボタンを押しながらプレーヤのIN ボタンを押します。
IN点が登録されるとINランプが点灯します。
- 6 SPLIT ボタンを押します。
SPLIT ランプが点灯から点滅へかわります。
- 7 プレーヤまたはレコーダのOUT点を登録します。
- 8 プレビューを行うときは、PREVIEW ボタンを押します。
- 9 AUTO EDIT ボタンを押します。

編集IN点を訂正する

SPLIT ボタンの点灯を確かめ、ステップ 4 と 5 の操作を繰り返します。

オーディオスプリット量を表示する

SPLIT ランプ点滅中にINとOUT ボタンを同時に押します。

タイムカウンタにオーディオスプリットIN点とビデオIN点の差が表示されます。

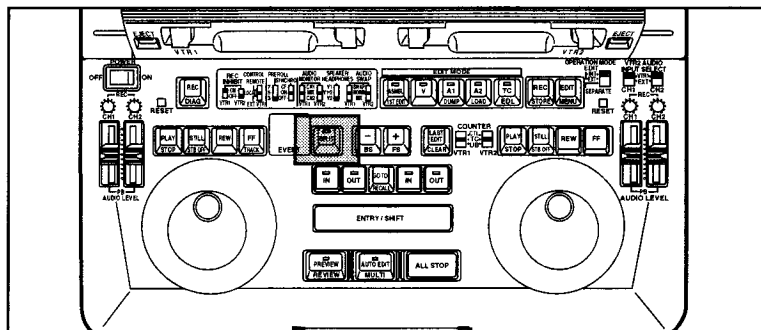
SPLIT ボタン点灯中は、+または-ボタンを押してオーディオスプリットIN点とビデオOUT点を同時に訂正することはできません。

<ノート>

- ・ SPLIT ランプが点滅している時は、オーディオスプリットIN点は登録されています。
- ・ セットアップメニューNO.311 (SPLIT EDIT) が「VIDEO」になっていることを確認してください。

ビデオスプリット編集の操作

インサート編集のとき、オーディオのIN点に対してビデオのIN点をずらして編集することができます。



- 1 セットアップメニューNO.311 (SPLIT EDIT) を「AUDIO」に設定します。
- 2 インサート編集するチャンネルを選択します。
- 3 プレーヤ、レコーダのオーディオの編集IN点を登録します。
- 4 SPLIT ボタンを押します。
ランプの点灯を確認めます。
プレーヤとレコーダのINランプが点滅します。
- 5 プレーヤのビデオIN点を探し、ENTRY ボタンを押しながらプレーヤのIN ボタンを押します。
IN点が登録されるとINランプが点灯します。
- 6 SPLIT ボタンを押します。
SPLIT ランプが点灯から点滅へかわります。
- 7 プレーヤまたはレコーダのOUT点を登録します。
- 8 プレビューを行うときは、PREVIEW ボタンを押します。
- 9 AUTO EDIT ボタンを押します。

編集IN点を訂正する

SPLIT ボタンの点灯を確認め、ステップ 4 と 5 の操作を繰り返します。

ビデオスプリット量を表示する

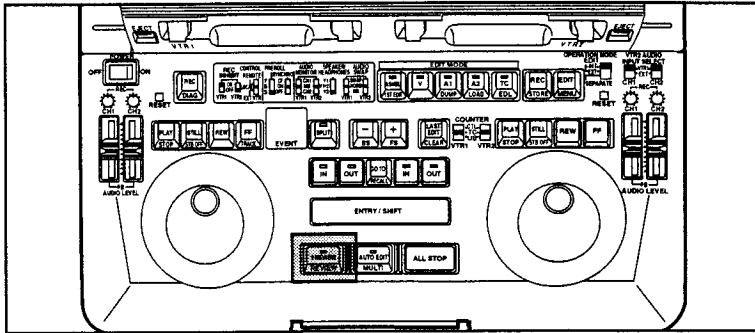
SPLIT ランプ点滅中にINとOUTボタンを同時に押します。
タイムカウンタにビデオスプリットIN点とオーディオIN点の差が表示されます。

SPLIT ボタン点灯中は、+または-ボタンを押してビデオスプリットIN点とオーディオOUT点を同時に訂正することはできません。

<ノート>

- ・ SPLIT ランプが点滅している時は、ビデオスプリットIN点は登録されています。
- ・ セットアップメニューNO.311 (SPLIT EDIT) が「AUDIO」になっていることを確認してください。

編集IN点の設定だけで編集を行う



- 1 プレーヤとレコーダの両方の編集IN点を探します。
- 2 PREVIEWボタンを押します。
ボタンを押した位置をIN点として登録し、プレビューします。
- 3 OUT点の位置でENTRYボタンを押しながらレコーダのOUTボタンを押します。
OUT点が登録され、アセンブル編集の場合は約1秒後、インサート編集の場合は2秒後にプレーヤとレコーダが停止します。
- 4 AUTO EDITボタンを押します。
編集が始まります。

プレビューを省略し編集を実行するとき

ステップ2のPREVIEWボタンを押す代わりに、AUTO EDIT ボタンを押します。
編集を終了する位置でAUTO EDITボタンを押すかENTRYボタンを押します。

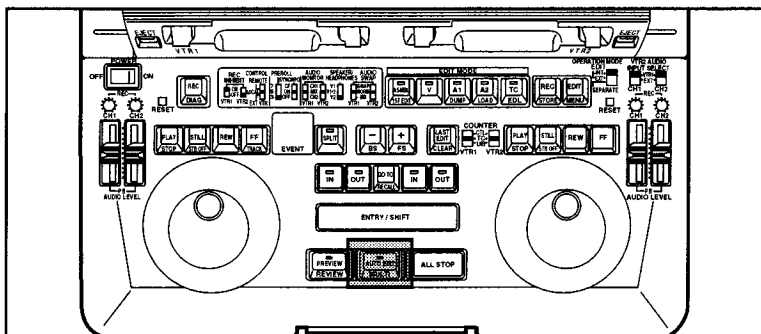
静止画編集

- 1 プレーヤ (VTR1) のIN点とOUT点を同点登録します。
・プレーヤ (VTR1) 側のINボタン、OUTボタン、SHIFT/ENTRYボタンの同時押しにて同点登録できます。
- 2 レコーダ (VTR2) のIN点とOUT点をそれぞれ設定・登録します。
・IN点のみ登録してもオープンエンドで実行できます。
- 3 AUTO EDITボタンを押し、編集実行します。
1で登録した点のプレーヤ (VTR1) の静止画が編集されます。

<ノート>

静止画編集はOPERATION MODEスイッチが「INT」のときのみ可能です。

オートタグ編集を行う



登録された編集OUT点が、次の編集（次のイベント）の編集IN点に自動的に設定されます。IN点を設定することなく、次々に続けて編集できます。

- 1 セットアップメニューNo.305 (AUTO ENTRY) を「REC1」、「REC2」または「ALL」に設定します。（IN点を自動設定したいVTRを選択します。）
- 2 自動編集を行います。
- 3 編集が終了し次のイベントに繰り上がった時、1で選択したVTRのIN点がすでに設定済みになっているので、残りの編集点を設定し、次の編集を実行します。

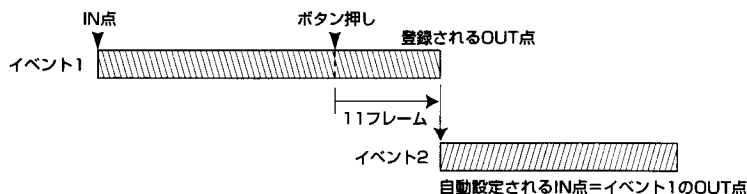
<ノート>

「REC2」に設定すると、オープンエンド編集のときのみ、登録された編集OUT点から11フレーム引いた値が、次のイベントの編集IN点として設定されます。

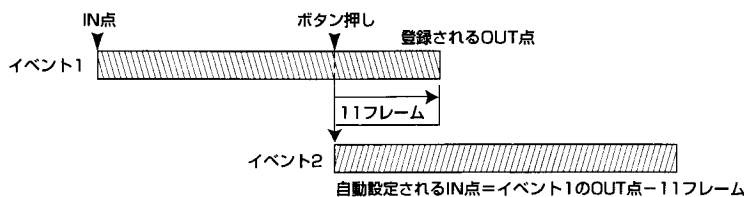
これは、オープンエンド編集のようにテープが走行している状態で編集OUT点を登録するとボタンを押した位置から11フレーム先まで記録し、その位置をOUT点として登録されるのを、次のイベントで補正するための機能です。（ボタンを押した位置が次のイベントのIN点になります。）

- ・**オープンエンド編集**：OUT点を設定せずに編集スタートし、編集実行中に「AUTO EDIT」ボタンあるいは「SHIFT+OUT」ボタンを押すことにより、編集OUT点を設定すると同時に編集を終了する方法。

通常の場合（「REC1」「ALL」に設定した場合）



「REC2」に設定した場合



トラック機能

レコーダの編集IN点の変更にしたがって、プレーヤの編集を効率よく設定する機能です。

- 1 レコーダ (VTR2) 側のIN点を変更します。
- 2 TRACK [SHIFT+FF (VTR1側)] ボタンを押します。
 - ・プレーヤ (VTR1) 側のIN点が1の変更にしたがって自動的に変更されます。
 - ・オンスクリーンのカウンタの時間と分の間のコロンの(:)が1点(.)になり、トラックモードになっていることを示します。

01:23:45:01	→	01:23:45:01
↑		↑
通常モード		トラックモード
 - ・表示管内のTC (またはUB、またはCTL) 表示が点滅し、トラックモードになっていることを示します。
- 3 トラックモードのときレコーダ (VTR2) 側のIN点を変更すると、プレーヤ (VTR1) 側のIN点も自動的に変更されます。プレーヤ (VTR1) 側の編集点を変更するとトラックモードが解除され通常モードになります。

<ノート>

セットアップメニュー項目番号305 (AUTO ENTRY) をALLに設定すると、手動でトラックモードにしなくても常にレコーダ (VTR2) のIN点の変更にしたがってプレーヤ (VTR1) のIN点を変更されます。

TC JUMP機能

通常、プリロール区間にタイムコードが不連続な部分があると正常に編集できません。

しかし、TC JUMP機能を使うと、プリロール区間はCTLを基準に、IN点後の編集記録区間はTCを基準に、編集を実行することができます。カウンタ表示は常にTCを表示しており、プリロール区間にTCが不連続な部分があってもあたかも連続しているように編集を実行できます。

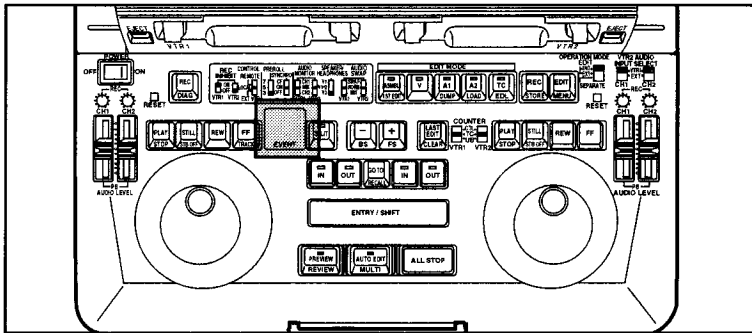
- 1 セットアップメニューNo.511 (TC JUMP) を「VTR1」「VTR2」または「ALL」に設定します。
(TC JUMP機能を働かせたいVTRを選択します。)
- 2 通常の編集を実行します。

<ノート>

TC JUMP機能をONにすると、プレビュー、自動編集、レビューを実行時に、いったんIN点までキューアップし、その後プリロールを開始します。これは、キューアップしたIN点のCTLを基準にプリロールと助走を行うためです。

助走を開始し、再びIN点をすぎ編集記録に入った時点で編集の基準がCTLからTCに切り替わります。

イベント編集



* CTLモードでイベント編集を行うと誤差が蓄積され、編集点がかなりずれることがあります。イベント編集はTCモードで行うことをおすすめいたします。

イベントを登録する

イベントはイベント番号01から99, 00まで順番に登録されます。

登録の方法

・自動編集

AUTO EDITボタンを押します。

編集実行後自動的に番号が1つくり上がります。

・編集を実行せずに登録を行う

STORE (SHIFT+REC) ボタンを押します。

番号が1つくり上がります。

登録されていないイベント番号（「n」が表示されている）に登録すると

次のイベント番号が表示されます。

- ・ イベント番号を呼び出して編集データを修正すると、その番号で修正されたデータを登録します。
- ・ イベントを呼び出して、そのまま編集を実行するとイベント番号はそのまま保持されます。

イベント番号を「00」にすると

100個目のイベントになります。

EDLのオートクリア（セットアップの項目番号309「EDL AUTO CLR」）の設定にしたがい、上書きモード（オールクリア）または上書きしないモードになります。

・ EDL AUTO CLRがOFF のとき

上書きができないモードになります。

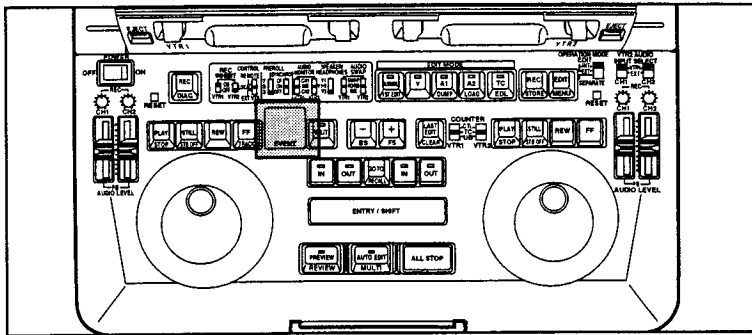
イベント番号に代わって「FULL」が表示されます。どれか操作ボタンを押すと「00」に戻り、イベント00の編集データを呼び出した状態になります。

・ EDL AUTO CLRがONのとき

上書きモードになります。

イベント番号が「n00」になり、登録されていた編集データは取り消し（クリア）になります。

新たにイベントを登録することができます。



4-1

イベントを呼び出す

EDLに登録されているイベントを呼び出すことができます。

・表示されているイベントの前のイベントを呼び出す

BS (SHIFT+ -) ボタンを押します。

1つ前のイベントが呼び出されます。

希望するイベントを呼び出すときは、ボタンを押し続けます。

セットアップの項目番号309 (EDL AUTO CLR) をONに設定しているとき、「01」を越えて上書きされていれば「00」が呼び出されます。

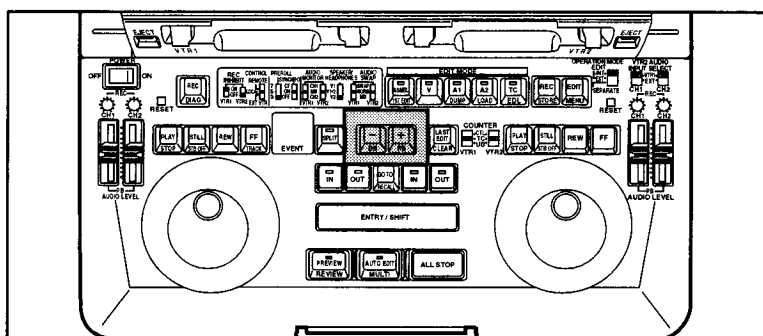
・表示されているイベントより先のイベントを呼び出す

FS (SHIFT+ +) ボタンを押します。

希望するイベントを呼び出すときは、ボタンを押し続けます。

セットアップの項目番号309 (EDL AUTO CLR) をONに設定しているとき、「00」を越えて上書きされていれば「01」が呼び出されます。

イベント編集



イベントを訂正、削除する

登録したイベントの編集データを訂正、削除したり、また削除したイベントの復活ができます。

・登録済みイベントを呼び出して、データを訂正する

- 1 BS (SHIFT+ +) またはFS (SHIFT+ -) ボタンを押します。
希望するイベントが表示されるとデータを訂正します。
- 2 STORE (SHIFT+REC) ボタンを押します。

・イベントを削除する

- 1 BS (SHIFT+ +) またはFS (SHIFT+ -) ボタンを押します。
希望するイベントが表示されるとデータを訂正します。
- 2 CLEAR (SHIFT+LAST EDIT) ボタンを押します。
イベントの前に「d」が表示されます。

「d」の付いたイベントはプレビューすることはできますが編集の実行や再登録の対象にはなりません。

・削除したイベントを復活させる

RECALL (SHIFT+GO TO) ボタンを押します。
イベント番号の「d」が消えます。

全てのイベントを削除する (EDLの初期化)

CLEAR (SHIFT+LAST EDIT) ボタンとALL STOPボタンを押します。
「n01」が表示され、全てのイベントのデータは削除されます。

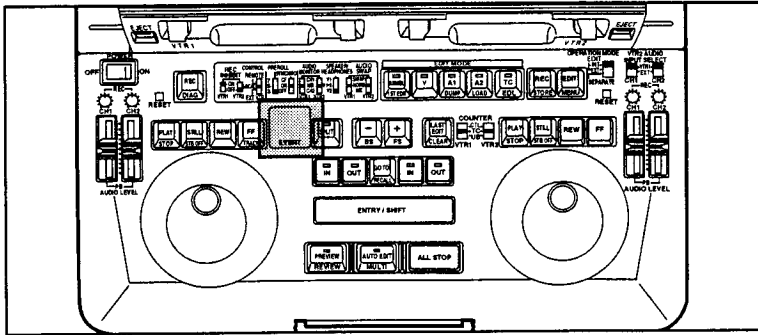
<ノート>

全てのイベントを削除すると、イベントはもとの状態には復活することはできません。

イベント編集を実行する

- 1 MULTI (SHIFT+AUTO EDIT) ボタンを押します。
登録された編集データにもとづき、表示されているイベント番号以降の編集が実行されます。
- 2 途中で編集をやめる時は、ALL STOPボタンを押します。
再度編集を始める時は、MULTI (SHIFT+AUTO EDIT) ボタンを押します。
希望するイベント番号から編集を実行する時は、そのイベント番号まで戻します。

編集データの管理 (EDL)



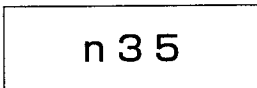
登録された各編集データは、エディットディシジョンリスト (EDL) として、まとめて管理することができます。番号で管理された各編集データは必要に応じて呼び出すことができます。EDLは電源を切っても記憶されています。

また、EDL (SHIFT+TC) ボタンを押すと、LCD画面上にデータを表示することができます。表示されたデータのページのUP/DOWNは、VTR2側のFFボタンまたはREWボタンを押します。

100個までの編集を本機内部で管理し、好きなときに呼び出すことができます。各編集データの変更や削除も行えます。

イベント番号の表示

イベント番号は2桁で表示されます。



「n」 : EDLに登録されていない新しい編集データ

「d」 : EDLから削除された編集データ

前回のプレビューの内容を呼び出すには

ラストエディット (LAST EDIT) 機能を使用します。

LAST EDITボタンを押すたびに、今回プレビューした編集データと前回プレビューした編集データが交互に呼び出せます。(ただし同一イベント内)

- ・プレビューを実行していない場合にはラストエディット機能は動作しません。

全てのイベントを削除する (EDLの初期化)

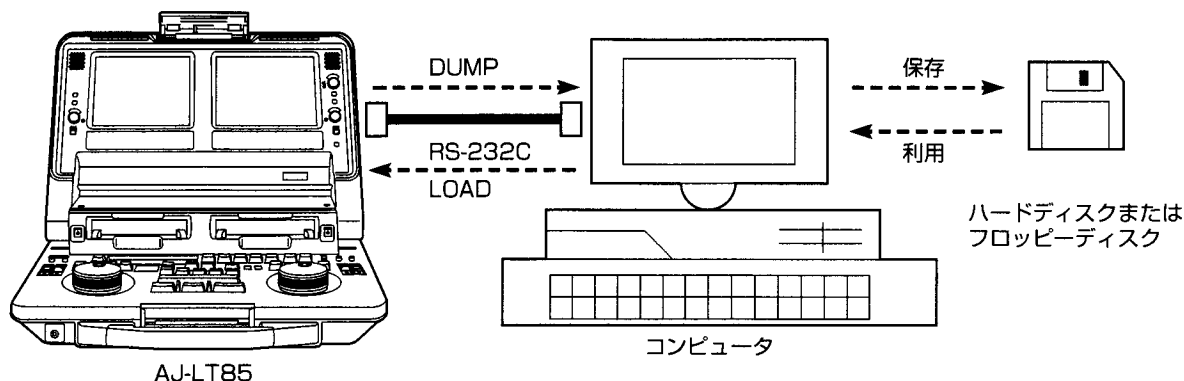
CLEAR (SHIFT+LAST EDIT) ボタンとALL STOPボタンを押します。

「n01」が表示され、全てのイベントのデータは削除されます。

編集データを外部機器に転送する(DUMP)/取り込む(LOAD)

EDLメモリーに登録されている編集データは、RS-232C端子を經由して外部と通信できます。例えば、コンピュータにデータを出力したり、コンピュータからデータを受け取ったりすることにより、次のように、幅広いシステムでの運用・管理が行えるようになります。

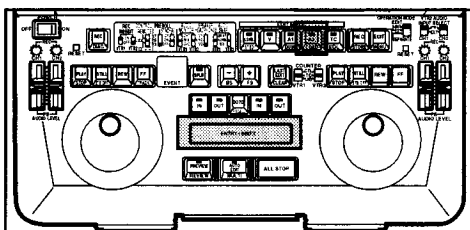
- 1) オフライン編集を行い、編集データをオンラインシステムで使用する。
- 2) 編集データをハードディスクやフロッピーディスクなどで保管する。
- 3) コンピュータのCRTやプリントアウトで、編集データのチェックを行う。



<ノート>

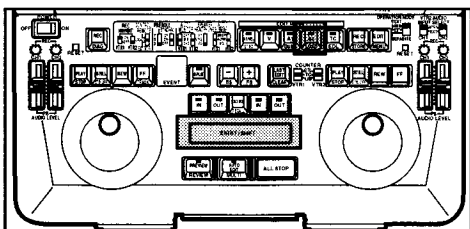
CONTROLスイッチがREMOTEおよびEXT VTRのときはEDLのDUMP/LOADはできません。

ダンプでの操作



- 1 コンピュータなどの外部機器を、データ受信ができるようにします。
- 2 [DUMP (SHIFT+A1)] ボタンを押します。A1ボタンのランプが点滅し、カウンタ部に送信しているイベント番号を表示します。この時の出力フォーマットはSET UPのEDL FORMATで設定しているフォーマットが選択されます。
- 3 EDLメモリー内の編集データをすべて転送すると終了します。途中で中断するには、[ALL STOP] ボタンを押してください。

ロードでの操作



- 1 [LOAD (SHIFT+A2)] ボタンを押します。A2ボタンのランプが点滅します。
- 2 コンピュータなどの外部機器からデータ送信します。このとき送信するフォーマットは、セットアップメニューNo.208 (EDL FORMAT) で設定しているフォーマットである必要があります。カウンタ部に受信しているイベント番号を表示します。
- 3 コンピュータの送信が終了するか、EDLメモリーがいっぱいになると、終了します。途中で中断するには、[ALL STOP] ボタンを押してください。

<ノート>

1. データのダンプやロードを行うときは、外部機器の設定などが必要になります。
2. 修正・編集されたEDLデータか、本機で扱えるフォーマットにあっていないと受信できないばかりか、異常動作をすることもあります。したがってPCやEDLデータに詳しくない方はこれらの操作はしないでください。

<参考>外部機器の設定や通信方法

外部機器の設定やデータの通信方法は、機器ごとに異なります。くわしい設定・操作については、選択される機器やOS (DOS)、通信用ソフトウェアに付属のマニュアルをご覧ください。接続される機器のメーカーへお問い合わせください。

1) 外部機器と通信プロトコルを一致させてください。

本機の通信プロトコルは、セットアップメニューのRS-232C PROTOCOLで変更できます。

[初期設定 (工場出荷時) ボーレート: 9600bit/s、データ長: 8bit

ストップビット: 1bit、パリティ: ODD]

外部機器側の設定は、スイッチや、RS-232Cプロトコル設定プログラム [(MODEコマンド) や (SPEEDコマンド)] を使って変更します。

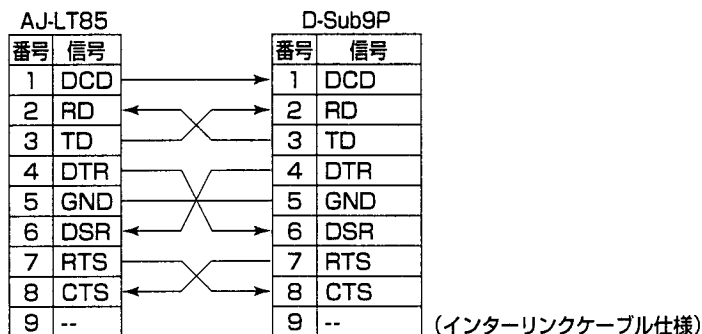
[設定例1] MODE COM1 : BAUD=9600 PARITY=0 DATA=8 STOP=1

[設定例2] SPEED RS232C-0 9600 BITS-8 PARITY-ODD STOP-1 NONE

外部機器側で変更できないときは、本機の設定を外部機器にあわせませす。

セットアップメニューNo.202 (OPTION MODE) が「EDL」になっていることを確認します。

セットアップメニューNo.208 (EDL FORMAT) を入出力するフォーマットに設定します。



フォーマット選択 (DUMP/LOAD共通)

セットアップメニューNo.	項目	設定項目
208	EDL FORMAT	AG-A850/CMX340より選択

通信条件の設定

セットアップメニューNo.	項目	設定項目
203	BAUD RATE	1200/2400/4800/9600/19200
204	DATA LENGTH	7/8
205	STOP BIT	1/2
206	PARITY	NON/ODD/EVEN
207	FLOW CONTROL	NONE/RTSCTS

<ノート>

- ・リール番号は0001に固定されます。
- ・GPI、ワイプ等本機にない機能は無視されます。

2) 外部機器のRS-232C端子でデータ受信をするには、

COPY AUX_/A

または

COPYA AUX_ (_はファイル名を入力します。)

と入力し、[DUMP(SHIFT+A1)] ボタンを押してください。多くのコンピュータはこの方法でデータの受信ができます。

3) 外部機器のRS-232C端子からデータ送信するには、[LOAD(SHIFT+A2)] ボタンを押してから、

COPY __/B AUX

または

COPYA __AUX (_はファイル名を入力します。)

と入力してください。多くのコンピュータはこの方法でデータの送信ができます。

編集データを外部機器に転送する(DUMP)/取り込む(LOAD)

<参考>EDLフォーマットについて

パーソナルコンピュータなどの外部機器へ、編集データ (EDL) を転送するときのデータフォーマットは、AG-A850、CMX340の2種類から選択できます。

1) **AG-A850** : EDLメモリの編集データをすべて送りますので、本機で出力したデータを再度本機にロードしたとき、編集データは完全に復元できます。ただし、EDL AUTO CLR ONで作成されたイベントをロードする場合はEDL AUTO CLR ONに設定して受信する必要があります。また、スプリット編集データはEDLフォーマット上、VIDEO基準、AUDIO基準の区別がつかみませんので通常はVIDEO基準でご使用ください。

[出力例]

```

TITLE: PANASONIC EDITING CONTROLLER AG-A850(AJ-LT85)
-----
EVENT REEL MODE TYPE TRANS P-VTR IN P-VTR OUT R-VTR IN R-VTR OUT
0001 0001 ASMBL C 00:09:45:15 00:09:48:03 00:17:32.15 00:17:35.03
0002 0001 VA12 C 00:09:48:03 00:09:55:27 00:17:35.03 00:17:42.27
0003 AUDIO SPLIT REEL 0001 00:10:10:20
0003 0001 VA12 C 00:09:55:27 00:10:12:10 00:17:42.27 00:17:59.10
0004 0001 VA12 C 00:10:12:10 00:10:17:21 00:17:59.10 00:18:04.23
0005 0001 ASMBL C 00:10:17:21 00:10:22:23 00:18:04.23 00:18:09.25
0006 0001 ASMBL C 00:10:22:23 00:10:24:13 00:18:09.25 00:18:11.15
0007 AUDIO SPLIT RECORDER 00:18:14.19
0007 0001 ASMBL C 00:10:24:13 00:10:31:16 00:18:11.15 00:18:18.18
0008 0001 ASMBL C 00:10:35:15 00:10:35:15 00:18:18.18 00:18:27.21
0008 SPEED REEL 0001 000 00:10:35:15
0009 0001 ASMBL C 00:10:35:16 00:10:35:16 00:18:27.21 00:18:39.00
0009 SPEED REEL 0001 000 00:10:35:16
0010 0001 ASMBL C 00:10:41:22 00:10:42:11 00:18:39.00 00:18:39.19
0011D 0001 ASMBL C 00:10:42:11 00:10:44:00 00:18:39.19 00:18:41.08
0012D 0001 ASMBL C 00:10:44:00 00:10:45:15 00:18:41.08 00:18:42.23
0013 AUDIO SPLIT REEL 0001 00:10:48:11
0013 0001 ASMBL C 00:10:50:05 00:10:51:10 00:18:42.23 00:18:43.28
0014 0001 ASMBL C 00:10:51:10 00:10:56:18 00:18:43.28 00:18:49.06
0015 0001 VA12T C 00:10:56:18 00:11:00:11 00:18:49.06 00:18:52.29
0016 0001 VA12 C 00:11:00:11 00:11:04:27 00:18:52.29 00:18:57.15
  
```

プレーヤー-IN点 | レコーダー-IN点
 プレーヤー-OUT点 | レコーダー-OUT点

エフェクト C : カット (本機ではカットのみ)
 編集モード VA12 : インサート編集, ASMBL : アッセンブル編集
 リール番号 0001 (本機では0001のみ)
 イベント番号 D : 削除イベント

・また、AG-A850で編集したデータを本機に入力した場合、以下の制限があります。

1. イベント番号
イベント番号は無視され、先頭から順に100イベント分を受信します。
2. リールNo.
すべてのリールNo.は0001として受信します。
3. 編集モード
A3、A4は無視されます。
4. エフェクトタイプ
カット編集のイベントのみを受信します。
5. スロー編集
スピードデータ0 (STILL) のスロー編集イベントのみを受信します。

・また、本機で編集したデータをAG-A850に入力した場合、以下の制限があります。

1. 編集モード
TCインサートは無視されます。

2) **CMX340** : CMX340と共通のフォーマット。1部のデータは変換されますので、ダンプしたデータを再度ロードしても、完全には復元されません。

1. イベント番号
削除したイベントの番号は詰めて送信されます。
また、受信時はイベント番号が無視され、先頭から順番に100イベント分を受信します。
2. リールナンバー
すべてのリールNo.は0001として受信します。
3. 編集モード
アッセンブル編集はインサート編集 (V、A1、A2) に変換して出力します。
4. エフェクトタイプ
カット編集のイベントのみを受信します。
5. スロー編集
スピードデータ0 (STILL) のスロー編集のイベントのみを受信します。
6. オーディオスプリット編集
すべてレコーダ基準で登録したイベントとして受信します。

オーディオ記録スワップ機能 (VTR2のみ)

VTR2のCH1、CH2に記録するオーディオ信号を、それぞれ「CH1入力」「CH2入力」「CH1、CH2、MIX」の中から選択できます。

この機能により、CH2に接続した外部マイクの信号をCH1に記録することもできます。

またVTR1からVTR2へのINT編集でも有効です。

① セットアップメニューNo.713 (CH1 REC SEL) の設定を変えることにより、CH1に記録する信号を選択できます。

- ・記録レベルVRにて入力されたCHの信号レベルを調整できます。
セットアップメニューNo.713でCH2を選択した場合、CH2の記録レベルVRにて調整します。
- ・レベルメータにて記録されるCHのレベルをモニターできます。
セットアップメニューNo.713でCH2を選択した場合でも、記録されるCH1のメータにて確認します。
(但し、EXT CHECK時は入力信号を確認する意味で、CH2のメータで確認します。)
- ・オーディオインサートする場合は、記録するCHを選びます。
セットアップメニューNo.713でCH2を選択した場合でも、インサート記録するA1 (CH1) を選択します。

セットアップメニューNo.713	CH1に記録される音声	記録レベルVR	レベルメータ	インサートビット
CH1	CH1の入力音声	CH1	CH1	A1
CH2	CH2の入力音声	CH2		
MIX	CH1、CH2のMIX音声	CH1/CH2(MIX比可変)		

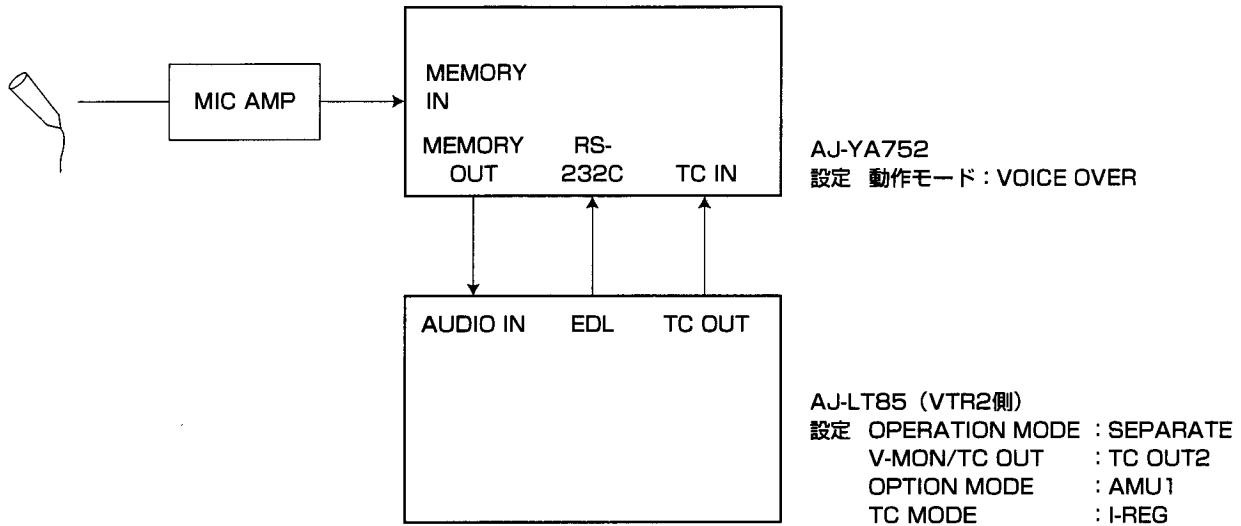
② セットアップメニューNo.714 (CH2 REC SEL) の設定を変えることにより、CH2に記録する信号を選択できます。

- ・記録レベルVRにて入力されたCHの信号レベルを調整できます。
セットアップメニューNo.714でCH1を選択した場合、CH1の記録レベルVRにて調整します。
- ・レベルメータにて記録されるCHのレベルをモニターできます。
セットアップメニューNo.714でCH1を選択した場合でも、記録されるCH2のメータにて確認します。
(ただし、EXT CHECK時は入力信号を確認する意味で、CH1のメータで確認します。)
- ・オーディオインサートする場合は、記録するCHを選びます。
セットアップメニューNo.714でCH1を選択した場合でも、インサート記録するA2 (CH2) を選択します。

セットアップメニューNo.714	CH2に記録される音声	記録レベルVR	レベルメータ	インサートビット
CH1	CH1の入力音声	CH1	CH2	A2
CH2	CH2の入力音声	CH2		
MIX	CH1、CH2のMIX音声	CH1/CH2(MIX比可変)		

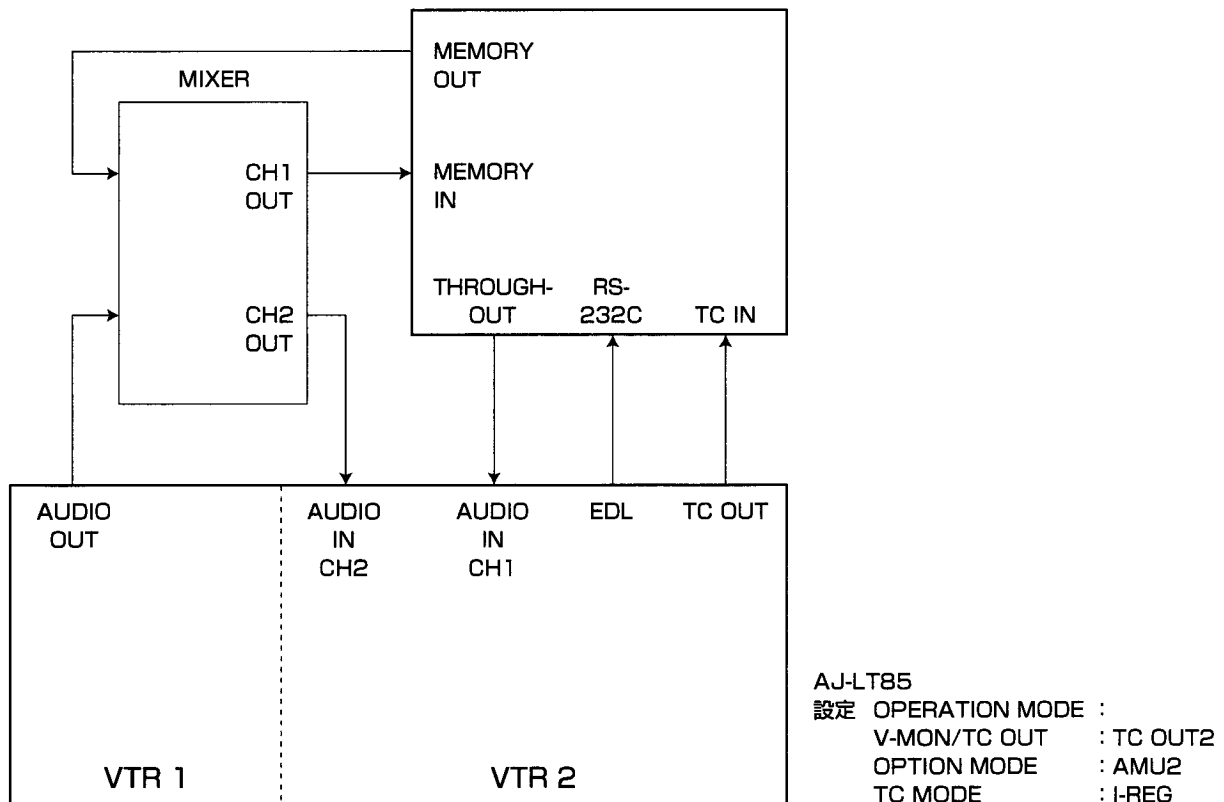
オーディオメモリーユニットAJ-YA752と接続する

- ・本機をオーディオメモリーユニットAJ-YA752と組み合わせて使用することにより、映像を再生しながら音声の記録（ヴォイスオーバー）を時間遅れなく行うことができます。



- ・本機を、音声ミキサーとオーディオメモリーユニットと組み合わせて使用することにより、音声のクロスフェード編集を行うことができます。

CH2にクロスフェードした音声信号を記録する場合（CH1に記録する場合は、CH1/CH2の接続を逆に、OPTION MODEを「AMU3」に設定してください。）



詳細はオーディオメモリーユニットAJ-YA752の取扱説明書をご参照ください。

<ノート>

CONTROLスイッチがREMOTEおよびEXT VTRのときはオーディオメモリーユニットは使用できません。

タイムコード (TC)、ユーザーズビット (UB)

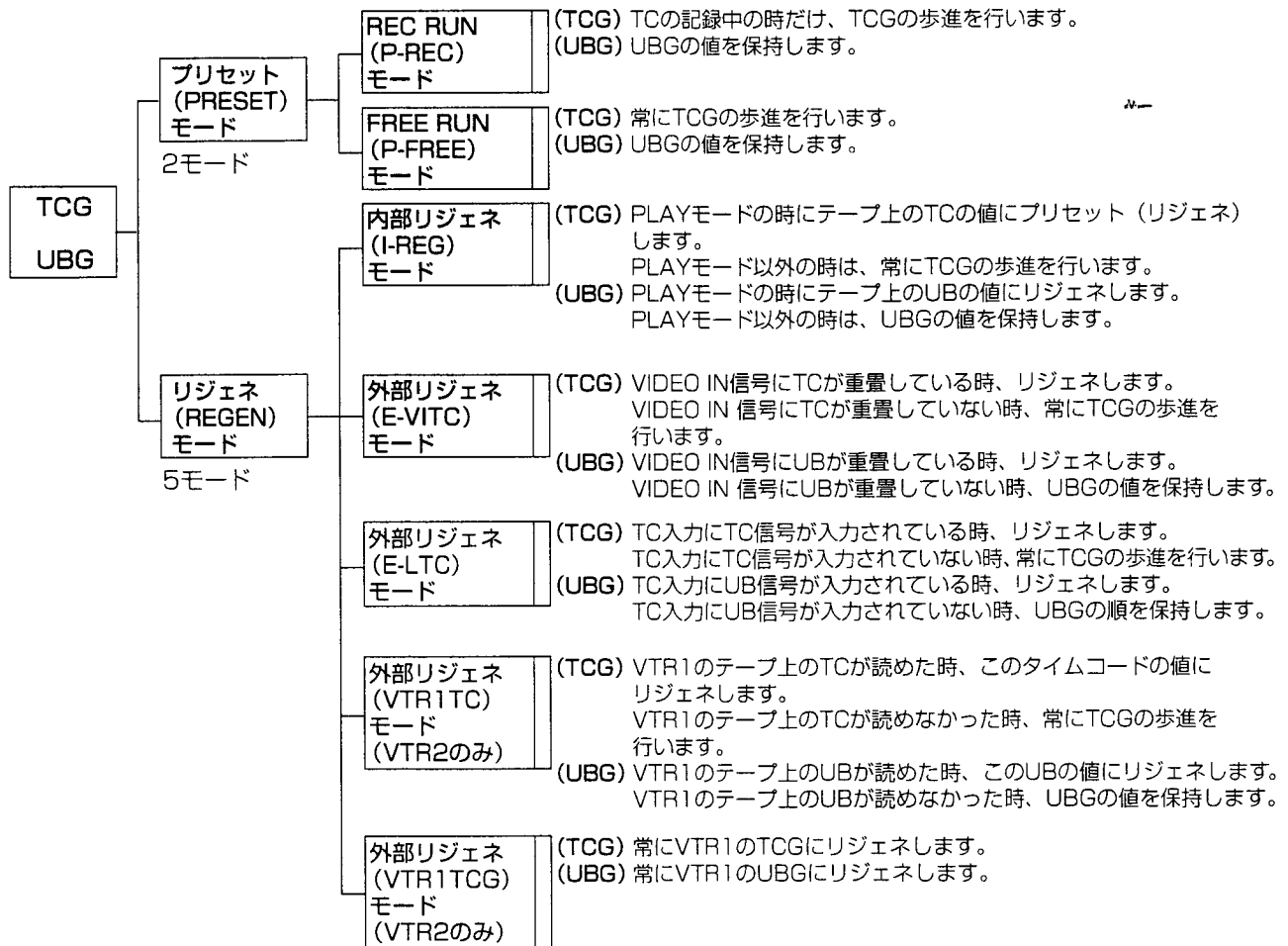
タイムコードジェネレータ (TCG)、ユーザーズビットジェネレータ (UBG) のモード

タイムコードジェネレータ (TCG)、ユーザーズビットジェネレータ (UBG) のモードには、大きく分けてプリセットモードとリジエネモードの2つがあります。

プリセットモードには、REC RUNモードとFREE RUNモードがあります。

リジエネモードには、内部リジエネモードと外部リジエネモード (4モード) があります。

以下に各モード毎の詳細を示します。



タイムコード

タイムコードはTCG (タイムコードジェネレータ) によって発生されるタイムコード信号をテープ上に記録し、TCR (タイムコードリーダー) によって値を読みとります。タイムコードはテープの絶対値を時分秒単位で表示します。

TCR 00 : 07 : 04 : 24
 ↑ ↑ ↑ ↑
 時 分 秒 フレーム

ユーザービット

ユーザービットは、タイムコード信号のうちでユーザーに解放された32ビット (8桁) の情報枠のことです。

ユーザービットに使用できる数字 (文字) は0から9、ABCDEFです。

タイムコード(TC)、ユーザズビット(UB)

タイムコードジェネレータ (TCG)、ユーザズビットジェネレータ (UBG) のモード設定

タイムコードジェネレータ (TCG)、ユーザズビットジェネレータ (UBG) の設定はセットアップメニューで行います。

セットアップメニューの詳細 TIME CODE (34、35ページ参照) の項目No.503、507、510の設定と、フロントキーボードスイッチのOPERATION MODEスイッチ (各部の名称と働き 12ページ参照) で設定します。

タイムコードジェネレータ (TCG)、ユーザズビットジェネレータ (UBG) を設定するには

- 1 VTRを停止モードにします。
- 2 セットアップメニューモードに入ります。
- 3 設定したいモードに合わせて、項目No.503 (TCG REGEN)、項目No.507 (TC MODE)、項目No.510 (REGEN MODE) を設定し、OPERATION MODEスイッチを選択します。
(詳細な設定項目内容は、次のページTCG、UBGモード一覧表を参照)
- 4 TCGの歩進モードを、項目No.506 (DF MODE) で、ドロップフレーム (DF) モードまたはノンドロップフレーム (NDF) モードを選択します。
- 5 TCGのCF (カラーフレーミング) フラグを使用する時は、項目No.505 (TCG CF FLAG) を、「ON (0001)」に設定します。
- 6 TCGの特殊ビットフラグを使用する時は、項目No.504 (BINARY GP) を設定します。

<ノート>

項目No.505 (TCG CF FLAG)、項目No.504 (BINARY GP)、項目No.506 (DF MODE) の設定は、次のページのTCG、UBGモード一覧表でP-RECモード、P-FREEモードに設定されている場合、またはファーストエディットに限り有効になります。

タイムコードジェネレータ (TCG)、ユーザズビットジェネレータ (UBG) の値のプリセットをするには

- 1 VTRを停止モードにします。
- 2 セットアップメニューモードに入ります。
- 3 項目No.508 (TC PRESET)、項目No.509 (UB PRESET) で任意の値を設定します。

<ノート>

- ・ 次のページのTCG、UBGモード一覧表でP-RECモード、P-FREEモードに設定されている場合、項目No.508 (TC PRESET)、項目No.509 (UB PRESET) の設定が可能になります。
- ・ 外部のREMOTE端子 (9P) から本機をコントロールし編集を行う際、使用するコントローラによっては、AUDIO EDIT編集モードでなく、MANUAL EDIT編集モードで編集を行いますので、項目No.507 (TC MODE) は、「P-FREE (0001)」に設定してお使いください。

タイムコードジェネレータ (TCG)、ユーザズビットジェネレータ (UBG) のモード一覧表

1) AUTO EDIT編集モードの時 (VTR2のみ)

メニュー No.510 REGEN MODE	VTR MODE	メニュー No.507 TC MODE	OPERATION MODE スイッチ	メニューNo.503				
				TC&UB	TC	UB		
AS&IN	ASSEMBLE or INSERT	/	/	TCG	I-REG	I-REG	P-FREE	
				UBG	I-REG	P-FREE	I-REG	
ASSEM	ASSEMBLE	/	/	REGEN MODE=AS&INの時と同じ				
	INSERT	/	/	REGEN MODE=SWの時と同じ				
INSRT	ASSEMBLE	/	/	REGEN MODE=SWの時と同じ				
	INSERT	/	/	REGEN MODE=AS&INの時と同じ				
SW	/	P-REC	/	TCG	P-REC			
				UBG	P-REC			
		P-FREE	/	/	TCG	P-FREE		
					UBG	P-FREE		
		I-REG	/	/	TCG	I-REG	I-REG	P-FREE
					UBG	I-REG	P-FREE	I-REG
		E-VITC	INT	/	TCG	VTR1TC	VTR1TC	P-FREE
					UBG	VTR1TC	P-FREE	VTR1TC
			EXT or SEP	/	TCG	E-VITC	E-VITC	P-FREE
					UBG	E-VITC	P-FREE	E-VITC
		E-LTC	INT	/	TCG	VTR1TC	VTR1TC	P-FREE
					UBG	VTR1TC	P-FREE	VTR1TC
			EXT or SEP	/	TCG	E-LTC	E-LTC	P-FREE
					UBG	E-LTC	P-FREE	E-LTC
VTR1TC	INT	/	TCG	VTR1TC	VTR1TC	P-FREE		
			UBG	VTR1TC	P-FREE	VTR1TC		
	EXT or SEP	/	TCG	VTR1TCG	VTR1TCG	P-FREE		
			UBG	VTR1TCG	P-FREE	VTR1TCG		

TCG/
UBGの
実モード

上記、一覧表の斜線の項目は、設定内容に関係しないことを示します。

2) AUTO EDIT編集モード以外の時 (VTR1、VTR2共通)

AUTO EDIT編集モード時のメニューNo.510 REGEN MODE=SW設定時と同じです。

タイムコード (TC)、ユーザズビット (UB)

タイムコード (TC)、ユーザズビット (UB)

REC SAME機能について

VTR1、VTR2を共に記録 (NORMAL REC) モードにした時に、同じタイムコード、ユーザズビットの値を記録する機能で、VTR1のタイムコードジェネレータ (TCG)、ユーザズビットジェネレータ (UBG) の値が、VTR1、VTR2共に記録されます。

REC SAME機能を設定するには

- 1 VTRを停止モードにします。
- 2 セットアップメニューモードに入ります。
- 3 VTR2の項目No.507を「VTR1TC (0004)」に設定します。
- 4 フロントキーボードスイッチのOPERATION MODEスイッチを「SEP」に設定します。

<ノート>

REC SAME機能は、VTR1とVTR2が共に記録 (NORMAL REC) モードの間だけ、記録するタイムコード、ユーザズビットを一致させる機能ですので、VTR1が記録 (NORMAL REC) モードでない時、VTR2で記録されるタイムコードは、不連続な場合が生じます。ユーザズビットは引き続き同じ値が記録されます。またVTR2は、VTR1の項目No.507 (TC MODE) に関係なく常にVTR1のTCG、UBGにリジエネします。

REC THROUGH機能について

複数台のVTRがTC IN/OUT (LTC) でデジチェーン接続されている時に、マスターVTRのタイムコードジェネレータ値を、TC IN/OUT (LTC) を使用して全VTRの基準TCとして、記録を可能にする機能です。

<ノート>

マスターVTRの場合、TC MODEに関係なく、TCOUT出力タイミングをTCOUT1にします。
スレーブVTRの場合、TC MODEはE-LTCで、TCOUT出力タイミングをTCOUT1タイミングにします。

VITC出力仕様

モード	VTR1(V MONI)	VTR2 (V MONI,V OUT)
VV系	テープ上のデータ	テープ上のデータ
TC記録時	外部入力データ	TC記録データ
EE系	外部入力データ	外部入力データ (INT時：VTR1からの内部データ)

<ノート>

VTR1の項目No.502 (VITC BLANK) の設定は、再生時のみ有効になります。
再生時以外のモードでは、外部から入力されるデータを出力します。

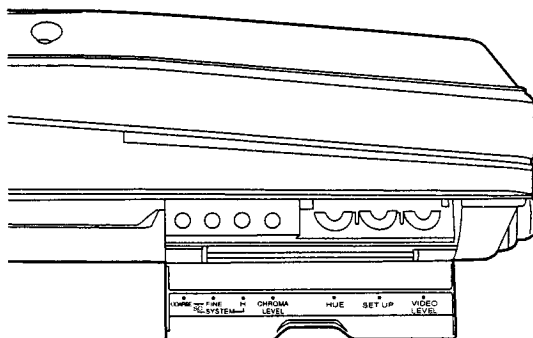
TC OUT (LTC) 出力仕様

再生系：テープ上のデータを、TCOUT2タイミングで出力します。

再生系外：下記一覧表を参照ください。

TC MODE (65ページTCG/UBG の実モード参照)	出力データソース		出力タイミング メニューの項目 513の設定	<備考> TCG：タイムコードジェネレータ値 LTCR：外部LTC入力データ VITCR：外部VITC入力データ VTR1 TCR：VTR1のテープ上のデータ
	VTR1	VTR2		
P-REC	TCG		TCOUT1/TCOUT2	REC THROUGH機能可能 (TC記録中)
P-FREE	TCG		TCOUT1/TCOUT2	REC THROUGH機能可能
I-REG	テープ上のデータ		TCOUT1/TCOUT2	REC THROUGH機能可能 (TC記録中) (VTR2、TCOUT2)
E-VITC	TCG	VITCR	TCOUT1/TCOUT2	REC THROUGH機能可能 (連続するTC値が重畳したVITCの入力中)
E-LTC	LTCR		TCOUT1/TCOUT2	REC THROUGH機能可能 (連続するTC値が重畳したLTCの入力中)
VTR1TC (VTR2)	—	VTR1 TCR	TCOUT1/TCOUT2	REC THROUGH機能可能 (VTR1が連続するTC値を記録したテープの再生中)
VTR1TCG (VTR2)	—	TCG	TCOUT1/TCOUT2	REC THROUGH機能可能 (VTR1のTCGが連続している時)

エンコーダ調整

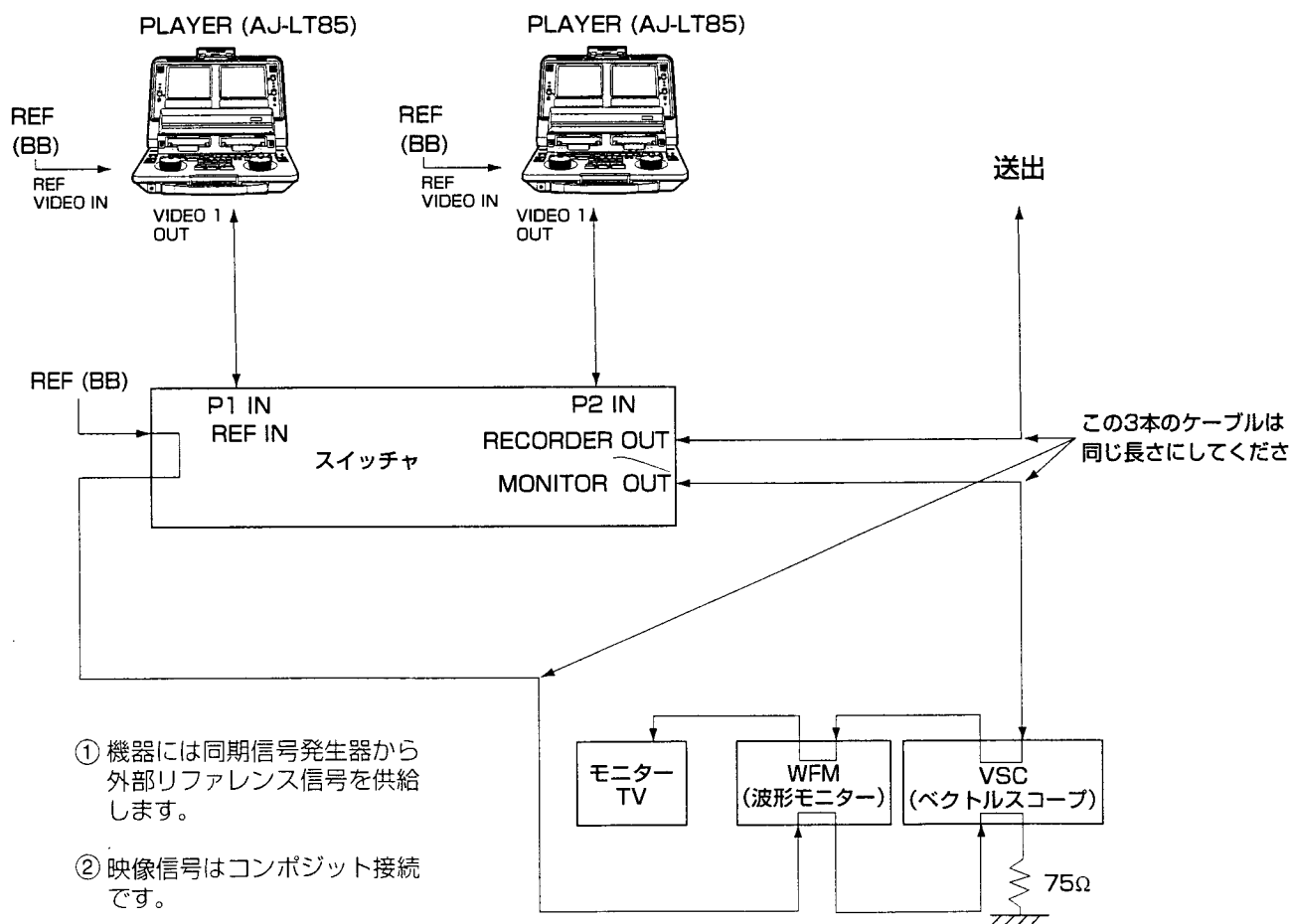


送出などを行うとき、誤差のない正確な編集を行うためには、システム接続後にビデオ信号 (ENCODER OUT) 調整する必要があります。

(この調整は、接続ケーブルを交換したときや接続を変えるごとに調整しなおす必要があります。)

本機でエンコーダ調整を行うには


- 1 接続をします。

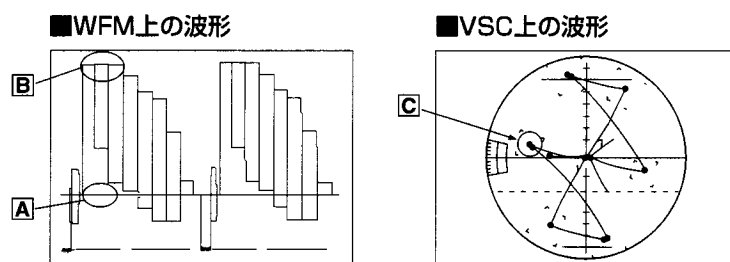


ウェーブフォームモニター、ベクトルスコープがない場合は、実際にモニターを見ながら、色ズレがなくなるように調整してください。

エンコーダ調整

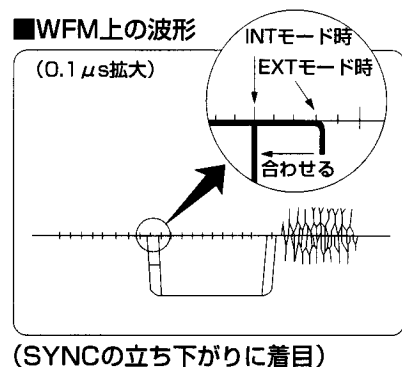
- 2 REMOTE/LOCALスイッチを調整する位置 (LOCAL) にします。
- 3 ソース単体で調整します。
セットアップレベル、ビデオレベル、クロマレベル、ヒューなどがずれているとレコーダ側で色ズレが起きます。これらは再生機単体で調整します。
 - 1) 標準カラーバーの記録されているカセットテープを再生します。
 - 2) ウェーブフォームモニター (WFM)、ベクトルスコープ (VSC) が以下になるように各つまみを調整します。

- A セットアップレベル
ズレをなくすように調整します。
- B ビデオレベル
100IREに調整します。
- C クロマレベル・ヒュー
2つのつまみを調整して  マークに各ベクトル波形の光点を入れます。

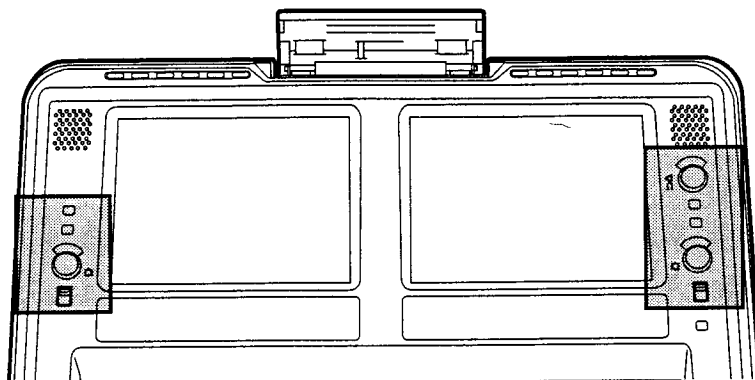


3) 接続しているソース機を同じように調整します。

- 4 SYSTEM PHASEを調整します。
 - 1) VTR1で標準カラーバーを再生します。
 - 2) VTR1のSYSTEM PHASEを調整します。
ウェーブフォームモニター (WFM) が以下になるように調整します。
 1. WFMはINTモードで、 $0.1\mu\text{s}$ 拡大します。
 2. H SYNCの位置を確認します。
 3. そのままWFMをEXTモードにします。
 4. EXTモードで、H SYNCを先ほどの位置に合わせるように、SYSTEM PHASE (H SC FINE/SC COARSE) つまみを調整します。



液晶モニターテレビの調整



4-1

ディスプレイ部での調整

ディスプレイ部では、明るさの調整ができます。

明るさを調整するには

BRIGHTNESSつまみを回すか、またはLCDスイッチをLIGHT、DARKに切替えます。

LIGHTは明るく、DARKは暗くなります。

セットアップメニューモードでの調整

セットアップメニューではコントラスト、カラー、ヒューの各調整ができます。

コントラストは、メニュー項目番号802 (LCD CONT)

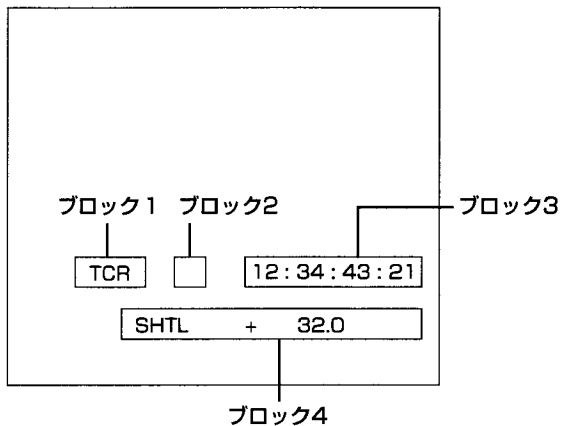
カラーは、メニュー項目番号803 (COLOR)

ヒューは、メニュー項目番号804 (LCD HUE)

それぞれ調整します。

スーパーインポーズ画面

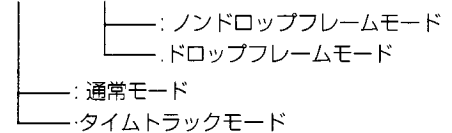
本機の液晶モニターテレビまたはVIDEO MONITOR端子からの信号にスーパーインポーズ表示を付加することができます。



ブロック3

カウンタ値を時:分:秒:フレーム出表示します。

12:34:43:21



ブロック4 (セットアップメニューNo.000が「T&STA」のとき)

EJECT	E_PLAY
STOP	SHTL
REW	JOG
FF	VAR
STOP	PPLY
STANDBY_OFF	POWER OFF
PLAY	AUTO OFF
REC	DEW
EDIT	

・サーチ速度表示

- ・EXT VTR制御時はREV、SHTL、FWD表示を行います。
 - ・JOGはREV、STILL、FWD表示を行います。
 - ・SHTL、VAR、PPLYはテープ速度を表示します。
- 速度
SHTL ← 32.0
↑ 方向(+:正方向、 -:逆方向)

ブロック1

CTL: コントロール信号
TCR: タイムコード
T*R: タイムコード (読み取り不可能時)
UBR: ユーザービット
U*R: ユーザービット (読み取り不可能時)
TCG: タイムコードジェネレータ値
UBG: ユーザービットジェネレータ値

ブロック2

無表示: 通常はなにも表示しません。
P: POWER LOWER時
S: FAN STOP 時
L: LOW RF時

ブロック4 (セットアップメニューNo.000が「T&YMD」、「T&MDY」、「T&DMY」または「T&RT」のとき)

DATE : 撮影した日付
D*TE : 撮影した日付 (読みとり不可能時)
TIME : 撮影した時刻 (時、分、秒)
T*ME : 撮影した時刻 (読みとり不可能時)

On-Screen表示のとき、液晶画面またはVIDEO MONITOR端子から出力される信号にスーパーインポーズ信号が付加されます。

スーパーインポーズするには

接続を確かめてから、COUNTER/REMAINスイッチを押します。

モニターに文字が出るのを確かめます。

スーパーインポーズしないときは、再度COUNTER/REMAINスイッチを押します。

スーパーインポーズの詳細内容は次ページを参照してください。

スーパーインポーズの表示はセットアップメニューで変更することができます。

表示内容は

表示内容はセットアップメニュー項目番号000 (DISPLAY SEL) で①カウンタ値のみ表示、②カウンタ値と動作モードの表示、③カウンタ値と撮影日の表示、④カウンタ値と撮影時間の表示の4通り選べます。ただし、撮影日、撮影時間はDVカメラレコーダで撮影したテープを再生するときのみ表示します。

液晶モニターへのスーパーインポーズ表示をするしないは

スーパーインポーズの表示の有無は、セットアップメニュー項目番号001 (LCD SUPER) で選びます。

表示の文字は

表示文字はセットアップメニュー項目番号002 (CHARA TYPE) で文字の背影を変えます。

CTLのカウンタの表示は

セットアップメニュー項目番号003 (TAPE TIMER) で12時間または24時間の表示にできます。

セットアップメニュー以外に、COUNTER/REMAINスイッチを押してスーパーインポーズの表示位置を上下に切換えることができます。

セットアップメニューの内容については27～39ページを参考にしてください。

コネクタの信号内容

VIDEO

VIDEO IN	BNCX1	
REF VIDEO IN	BNCX2	ループスルー75Ω自動終端
VIDEO OUT (VTR2のみ)	BNCX3	VIDEO/Y、P _B 、P _R
PB VIDEO OUT (VTR1のみ)	BNCX3	VIDEO/Y、P _B 、P _R
VIDEO MONITOR OUT	BNCX1	

AUDIO

AUDIO IN	XLRX2	CH1、CH2
AUDIO OUT (VTR2のみ)	XLRX2	CH1、CH2
PB AUDIO OUT (VTR1のみ)	XLRX2	CH1、CH2
AUDIO MONITOR OUT	XLRX1	CH1/CH2/MIX

TC

TC IN	BNCX1 (REF VIDEO IN兼用)
TC OUT	BNCX1 (VIDEO MONITOR OUT兼用)

DC IN

XLR4P

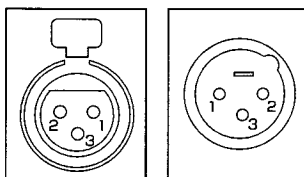
REMOTE (9P)

ピン 信号	信号内容	ピン 信号	信号内容	ピン 信号	信号内容
1	FRAME GROUND	4	RECEIVE COMMON	7	TRANSMIT B
2	TRANSMIT A	5	—	8	RECEIVE A
3	RECEIVE B	6	TRANSMIT COMMON	9	FRAME GROUND

EDL (9P)

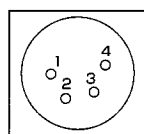
ピン 信号	信号内容	ピン 信号	信号内容	ピン 信号	信号内容
1	DCR	4	DTR	7	RTS
2	RD	5	GND	8	CTS
3	TD	6	DSR	9	—

AUDIO IN/OUT



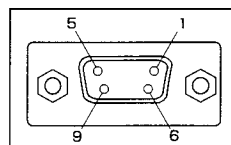
1. GND
2. HOT
3. COLD

DC IN

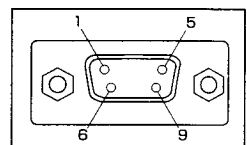


1. GND
- 2.
- 3.
4. + 12V

REMOTE



EDL



エラーメッセージ

ディスプレイに以下のようなエラー番号が表示されますと、VTRはオートオフモード（停止）または強制的に電源を切ります。いったん電源を切り、再度電源を入れてもエラーが表示されるときは販売店にご相談ください。

エラー番号	内容	VTRの動作
E-11	カセット挿入時、カセットサイズに合わせて移動するリール台が2.5秒以上ロックし、動かない。その場合、VTRはカセットをEJECTした後、オートオフモードになります。	停止
E-21	EJECTモードに移動し、4秒経過してもカセットアップしない。その場合、VTRはテープローディング動作をリトライし、再度失敗すると、カセットをEJECTした後、オートオフモードになります。	停止 —
E-31	ローディングモータがロックし、テープローディングが4秒以内に完了しない。その場合、VTRはテープローディング動作をリトライし、再度失敗すると、カセットをEJECTした後、オートオフモードになります。	停止
E-32	カセットのアンローディング時、約4秒間ロックした。 VTRはオートオフモードになります。	停止
E-41	シリンダモータからFG信号（回転速度信号）が出力されていない。	停止
E-42	シリンダモータからPG信号（位相信号）が出力されていない。	停止
E-43	シリンダモータの回転数が異常に高い。	停止
E-44	シリンダモータの回転数が異常に低い。	停止
E-51	キャプスタンモータ方FG信号（回転速度信号）が出力されていない。	停止
E-52	キャプスタンモータの回転数が異常に高い。	停止
E-53	キャプスタンモータの回転数が異常に低い。	停止
E-61	Sリールモータがロックした。	停止
E-62	Tリールモータがロックした。	停止
E-63	Sリールモータの回転数が異常に高い。	停止

エラーメッセージ

エラー番号	内容	VTRの動作
E-64	Tリールモータの回転数が異常に高い。	停止
E-65	テンションの異常を検出した。	停止
E-66	テープの終始端で、ショートFF、REWが7秒以上経過しても終了しない。	停止
E-67	シスコン、サーボ間のシリアルデータ通信のチェックサムエラーを検出しました。	停止
E-68	シスコン、サーボ間のシリアルデータ通信で、データがLあるいはHに固定され、データがないと検出した。	停止
E-69	シスコン、サーボ間のシリアルデータで、POWER ON時通信異常を検出した。	停止
E-70	ファンモータが停止して、約1時間経過しました。VTRは強制的に電源を切ります。	強制POWER OFF
E-71	ヒートセンサが働き、VTR内部が異常に高温であると検知した。	強制POWER OFF
E-72	ソレノイド駆動回路異常を検知した。	強制POWER OFF
E-73	クリーニングソレノイド駆動回路異常を検知した。	強制POWER OFF
E-BA	入力電源電圧がアンダーカット電圧より下がった。	強制POWER OFF*

* 警告表示としてカウンタ部が点滅します。

ダイアグメニューの操作

本機のシステムソフトのバージョン表示やシリンダーモータや回転ヘッドのアワーメータ（使用時間）などはダイアグメニューでみることができます。

DIAG-MENU HOUR METER		
<VTR-2>		
* H00	OPERATION	10000H
H01	DRUM RUN	10000H
H02	TAPE RUN	10000H
H03	THREADING	10000T
H11	DRUM RUN r	10000H
H12	TAPE RUN r	10000H
H13	THREADING r	10000T

アワーメータ表示

DIAG-MENU	
<VTR-2>	
DISPLAY	Ver<1.00-00>
AV-SYSCON	Ver<1.00-00>
SBC	Ver<1.06-00>
CYLINDER	Ver<1.00-00>
REEL	Ver<1.00-00>
END	

バージョン表示

（上のイラストはVTR2のバージョン表示です。）

通常モードからダイアグモードへ移るには

- 1 本機をジョグモードにします。
・シャトルモードでは動作しませんのでご注意ください。
- 2 DIAG (SHFIT + REC) ボタンを押します。（リモート操作時は動作しません。）
VTR1とVTR2のモニター画面にアワーメータが表示されます。
- 3 項目移動するときはダイヤルを回します。
正方向（FWD）へ回すと*が下へ移動し、逆方向（REW）へ回すと上へ移動します。

バージョン表示を行うには

- 1 SHIFTボタンを押しながらVTR2側のFFボタンを押します。
表示がアワーメータからバージョンへ切り替わります。

ダイアグモードから通常モードへ戻るときには

- DIAG (SHIFT + REC) ボタンを押します。

ダイアグメニューの操作

アワーメータの詳細内容は以下のとおりです。

項 目		データ	内 容
No.	表 示	表 示	
H00	OPERATION	00000H ⋮ 999999H	電源が投入されている時間を1時間単位で表示します。
H01	DRUM RUN	00000H ⋮ 999999H	ドラムが回転している時間を1時間単位で表示します。
H02	TAPE RUN	00000H ⋮ 999999H	FF、REW、PLAY、SEARCH (JOG、VAR、SHTL)、REC、EDITモード時 (ただし、JOG、VAR、SHTLは除く) に、テープが走行している時間を1時間単位で表示します。
H03	THREADING	00000H ⋮ 999999H	スレディング/アンスレディングの回数を1回単位で表示します。

・ H11～H13のNo.はサービスマン用の表示です。

その他

ビデオヘッドクリーニング

本機には、自動的にヘッドの汚れを軽減するオートヘッドクリーニング機能がついていますが、より信頼性を高めるために適時ビデオヘッドを清掃することをお薦めいたします。

なお、具体的なクリーニング方法についてはサービス会社または販売会社にご相談ください。

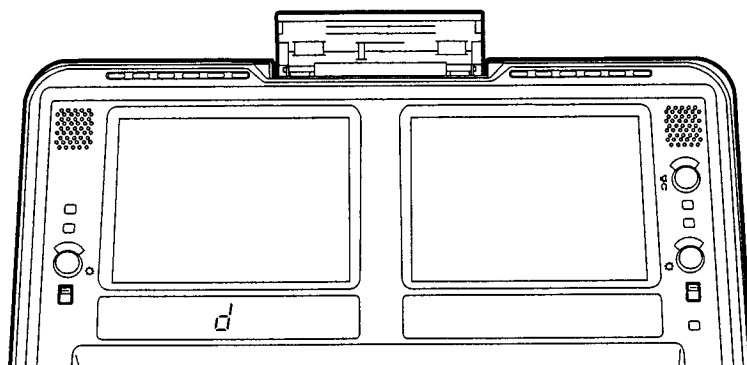
結露

露つきが起こるのは、暖房された部屋の窓ガラス一面に水滴（露）つくのと同じ原理です。本機やテープを温度・湿度差の大きいところに移動したときに起こります。

- ・ 湯気がたちこめる湿度の多いところや暖房した直後の部屋へ移動したとき。
- ・ 冷房されているところから急に温度・湿度の高いところへ移動したとき。

このような所へ移動したときは、すぐ電源を入れずに10分程度放置したままお待ちください。

もし、本機に結露が発生したときは、カウンタ部に「d」表示がでます。そのまま電源を入れた状態で、「d」が消えるまでお待ちください。



お手入れについて

お手入れ前には、電源スイッチをOFFにし、必ず電源プラグを持ってコンセントから抜いてください。キャビネットの清掃は柔らかい布で行ってください。汚れのひどいときは、台所洗剤をうすめ、布に浸して固く絞って拭きます。汚れを拭き取ったのち、乾いた布で仕上げを行ってください。

ご使用について

本機をふとんやジュータンなどの上に置いて使用しないでください。

定格

総合定格

定格入力：DC 12V 8.5A

は安全項目です。

記録フォーマット	: DVCPRO
記録トラック	: デジタル・ビデオ
	: タイムコード : サブコード領域に記録
	: デジタルオーディオ : 2CH
	: キュー信号 : 1トラック
	: コントロール (CTL) : 1トラック
テープスピード	: 33.820mm/秒
記録時間	: 184分 (AJ-P184LPテープ使用時)
	: 66分 (AJ-P66MPテープ使用時)
使用テープ	: 1/4"薄磁性層メタルテープ
FF/REW 時間	: 5分以内 (AJ-P184LPテープ使用時)
編集精度	: ±0フレーム (タイムコード使用時)
テープタイマー精度	: ±2フレーム (連続CTL信号使用時、1イベントあたり)
サーボロック時間	: 0.5秒以内
動作周囲温度	: 5℃～40℃
動作周囲湿度	: 10%～85% (結露なし)
外形寸法	: 424(幅)×120(高さ)×435(奥行) mm (ゴム足・ハンドル含まず)
重量	: 11.7kg

ビデオ

デジタル

サンプリング周波数	: Y : 13.5MHz
	: Pb/Pr : 3.375MHz
量子化	: 8 bits
エラー訂正	: リードソロモン積符号

アナログコンポジット IN/OUT

映像帯域	: Y : 30Hz～4.5MHz (±1dB)
DG	: 6%以下
DP	: 4.5°以下
Y/Cディレイ	: 20nsec以下
Kファクタ	: 2%以下
アナログコンポジット入力	: BNC×2 (VTR1、VTR2)、75Ω
REFビデオ入力	: BNC×2 (ループスルー)、75Ω、自動
アナログコンポジット出力	: BNC×2 (VTR1、VTR2)、75Ω
モニター出力	: BNC×2 (VTR1、VTR2)、75Ω
	: スーパーインポーズ ON/OFF

アナログコンポーネント OUT (標準記録テープ再生時)

映像帯域	: Y : 30Hz～5.5MHz (±1dB)
	: Pb、Pr : 30Hz～1.3MHz (±1.5dB)
アナログコンポーネント出力	: BNC×6 (Y、Pb/Pr、VTR1、VTR2)、75Ω
	: Y端子はアナログコンポジット出力端子と切替

ビデオ出力信号

ビデオゲイン	: ±3dB以上
クロマゲイン	: ±3dB以上
ヒュー	: ±25°以上
セットアップ	: ±10 IRE
H位相	: ±1.5 μsec以上
SC位相 (COARSE)	: 360°
SC位相 (FINE)	: 90°

オーディオ

デジタル

サンプリング周波数	: 48kHz
量子化	: 16bits
周波数特性	: 20Hz ~ 20kHz ± 1dB
ダイナミックレンジ	: 85dB 以上 (1kHz、エンファシスoff、“A” weighted)
歪率	: 0.1%以下 (1kHz、エンファシスoff、基準レベル)
クロストーク	: -80dB 以下 (1kHz、2チャンネル間)
ワウ&フラッタ	: 測定可能値以下
ヘッドルーム	: 20dB
エンファシス	: T1=50μsec/T2=15μsec (on/off可)

アナログ IN/OUT

アナログ入力 (VTR1)	: XLR×2 (CH1、CH2)、ハイインピーダンス、4/0/-20dBu
アナログ入力 (VTR2、CH1)	: XLR、ハイインピーダンス、4/0/-20dBu
アナログ入力 (VTR2、CH2)	: XLR、ハイインピーダンス、4/0/-20/-50dBu
アナログ出力 (VTR1)	: XLR×2 (CH1、CH2)、ローインピーダンス、4/0/-20dBu
アナログ出力 (VTR2)	: XLR×2 (CH1、CH2)、ローインピーダンス、4/0/-20dBu

モニター出力/ヘッドホン

モニター出力 (VTR1)	: XLR×1、ローインピーダンス、0dBu、CH1/MIX/CH2 切換
モニター出力 (VTR2)	: XLR×1、ローインピーダンス、0dBu、CH1/MIX/CH2 切換
ヘッドホン	: M3 ステレオ、レベル可変 (最大 -20dBu)、8Ω、 VTR1/MIX/VTR2 切換、CH1/MIX/CH2 切換

その他

TC入力	: BNC × 1 (リファレンス入力端子スルー OUT 側切換)
TC出力	: BNC × 2 (VTR1、VTR2、ビデオモニター出力端子切換)
リモート	: D-sub 9pin (メス) × 2 (VTR1、VTR2)、 RS-422A インターフェース
EDL	: D-sub 9pin (オス)、RS-232C インターフェース

LCD モニタ

LCDパネル	: 6.5型 TFT アクティブマトリックス×2 (VTR1、VTR2)
輝度調整	: 可変ボリューム×2 (VTR1、VTR2)
画面調整	: カラー、ティント、コントラスト (左右独立 OSD メニュー)
バックライト切換	: 明/暗/Off (左右独立スイッチ)

スピーカ

: 内蔵スピーカ×2、VTR1/MIX/VTR2 切換、CH1/MIX/CH2 切換

表示管

(VTR1、VTR2 独立)

カウンタ	: 8桁 (CTL/TC/UB 切換、トータル、テープ残量)
オーディオレベルメータ	: 16段階
その他	: サーボロックランプ、DVランプ、テープ走行状態、記録/記録禁止、 DFランプ、ビデオ/REF 入力ランプ

松下電器産業株式会社 システム事業グループ

☎ 571-8503 大阪府門真市松葉町2番15号 ☎(06)6901-1161

VQT7627-6

S0698H1122 